

人間生活学科
医療事務情報コース
1年

《専門教育科目》

科目名	医療保険制度				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	講義	単位・必修	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎　1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○　2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

医療機関は健康保険法に基づき保険診療を行っている。この保険診療の仕組みや法律（健康保険法、保険医療機関及び保険医療養担当規則）について理解する。また我が国の様々な医療保障制度（医療保険制度、高齢者医療制度、公費負担医療制度、介護保険制度、労災保険）について学習する。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1…医療保険制度等基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①保険診療の仕組みと、医療保障制度の各制度がどのような制度であるかを理解している。
②制度と年齢による一部負担金の違いを理解して窓口徴収が正確にできる。
③被保険者証からカルテの上書きへの転記が正確にできる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習内容について目を通しておくこと。
事後学修：①授業で行う確認テストの復習をする（10分程度）
②授業範囲を繰り返し読み理解を深めること（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70％
②平常点（授業態度、確認テスト）30％
《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療保険制度の基礎知識	医療保険とは何か
2	医療保険の歴史・保険者と被保険者	医療保険の歴史、国民皆保険制度について学習。 保険者と被保険者との関係　被（受ける）…被保険者、被保険者証
3	保険料と保険給付	社保と国保の保険料納入方法の違い 保険給付（現物給付　入院時食事療養費　療養費の支給　高額療養費）について
4	給付率と負担率 療養担当規則	医療に要した費用のうち患者が負担するのが負担率 療養担当規則は医療機関、医師が診療を行う上での規則
5	医療保険制度の種類	社会保険　国民健康保険　退職者医療制度 基礎問題集で復習
6	保険者番号の構成	法別番号　都道府県番号　保険者別番号　検証番号
7	後期高齢者医療制度	1）保険給付…保険者　被保険者　適用開始日　保険料　被保険者証　一部負担金 2）保健事業
8	公費負担医療制度	生活保護法について
9	介護保険制度	保険者と被保険者・保険料　給付の種類　サービス費　自己負担　利用手続き 基礎問題集で復習
10	被保険者証の見方	被保険者証の見本で比較　相違点と特徴を見る
11	カルテの上書き練習・点検	転記の注意事項を確認しながら上書き練習・点検をする
12	窓口徴収	実際に計算しながら徴収金額を理解する
13	保険外併用療養費 試験対策	評価療養と選定療養について 医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
14	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
15	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする

《専門教育科目》

科目名	医療コミュニケーション				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

医療機関では総合的な患者サービスを重要視する方向に進んでいる。患者サービスによって病院全体の評価が大きく左右されることからメディカルスタッフにも、専門的な能力プラス患者接遇マナーが求められている。医療に携わる者として必要な窓口接遇マナーの基礎から、実践までを学習する。

《テキスト》

「医療事務講座 医科テキスト2　患者接遇マナー技能審査試験実技1 対応問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①敬語を正しく使い、挨拶とお辞儀がきちんとできる。
- ②電話での対応が適切にでき、受付窓口での患者さんの質問について、優しくていねいに正しく受け答えができる。
- ③医療人として守るべきことを理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習の必要性、内容について目を通しておくこと。（10分程度）
事後学修：毎回実施する患者接遇の実技問題を、添削箇所を確認し、復習する（15分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70%
- ②平常点（授業態度、確認テスト、提出物）30%
- 《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	患者接遇の基本マナー	医療人として守るべきこと（守秘義務、個人情報保護法） 医事業務における個人情報保護の適切な取り扱い
2	患者接遇の基本マナー	望まれる医事担当者のあり方について 対応の基本（身だしなみ、姿勢、あいさつ、お辞儀、表情）
3	患者接遇の基本マナー	言葉遣いの基本（尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語） 好感をもたれる態度
4	患者接遇の基本マナー	電話対応の基本…窓口対応と電話対応の違いを踏まえ、電話対応の練習をする 患者接遇の基本マナーの練習問題
5	患者受付の実際	窓口対応…診療受付から会計窓口、薬の受け取りまでの流れ 院外処方せんについて
6	患者受付の実際	受付の事例 受付窓口　資格確認　予約　ご案内　順番　健康診断
7	患者受付の実際	受付の事例 診断書　医療費用　処方せんと診断書のロールプレイング
8	患者受付の実際 コミュニケーション	クレーム対応　患者受付の実際の練習問題 人間関係と日常の健康管理　職場のコミュニケーションの練習問題
9	患者接遇の実技	練習問題の実施 検査予約の変更　診断書の作成依頼
10	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 診察券紛失　負担割合の疑問
11	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 急病の子供が来院（医師不在）　診療明細書の疑問
12	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 予約患者の待ち時間の不満　高齢受給者証の使用について
13	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 電話再診料の疑問　紹介状
14	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 退職後の保険　薬のみの処方
15	患者接遇の実技まとめ	受付窓口、会計窓口の応答範囲と独断で応答してはならない範囲 保険診療の基礎知識と、さまざまな場面での応答例を確認する

《専門教育科目》

科目名	医療事務管理特講				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

医療保険制度、診療報酬請求事務演習Ⅰ＆Ⅱ、医療コミュニケーションの総復習。医療事務技能審査試験の過去問題や、問題集を使用してメディカルクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1～4」「医療事務講座医科スタディブック1～2」「技能審査問題集」「実技1対応問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

技能審査試験の問題を次の時間内に正確にできる。

実技1（患者接遇…2問）50分

学科（25問）60分

実技2（診療報酬請求事務…レセプト点検、外来3問・入院1問）70分

《授業時間外学修》

事前学修：患者接遇の問題を暗記してくる（30分程度）
 事後学修：①学科で誤った問題をテキスト等参考資料で調べてやり直す（15分程度）
 ②点検問題の訂正方法を復習する（60分程度）

《成績評価の方法》

①平常点（提出物、確認テスト 授業態度）70%

②レポート 30%

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科（医療事務の一般知識…25問）
2	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科（医療事務の一般知識…25問）
3	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
4	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
5	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題B 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
6	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題B 学科（医療事務の一般知識…25問）
7	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
8	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
9	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題C 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
10	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題C 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
11	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題D 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
12	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題D 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
13	技能審査試験過去問題	実技1…50分 学科60分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
14	技能審査試験過去問題	実技2…70分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
15	まとめ	技能審査試験（模擬試験）の実施①

《専門教育科目》

科目名	医療管理総論				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

医療の成立における社会資源の必要性を理解し、医療資源とおして医療提供に係る「人的資源」「物的資源」「財的資源」「情報資源」を具体的に理解する。わが国の医療制度を理解し、人口推移を包含した地域医療構想、医療計画を理解する。わが国の医療提供体制、医療保険制度の特徴と、医療に関連する法規定を学習し、診療情報管理士の役割や医療実務に対応するための知識を充実させる。

《授業の到達目標》

- ①医療提供にかかわる医療資源が具体的に理解できる。
- ②日本の医療制度と地域医療構想や医療計画が理解できる。
- ③医療需要と供給体制の構造を理解できる。
- ④医療関連の法規定の意義と内容が理解できる。

《成績評価の方法》

期末試験（60％）
 平常点（授業態度、課題提出状況など）（20％）
 アクティブラーニング（20％）
 《学生へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ」（日本病院会）

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
 事後学修：教科書を参考に、小テスト、復修問題を解き、理解に繋げる

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療資源①	医療資源である物的資源、人的資源について学ぶ
2	医療資源②	医療資源である財的資源、情報資源について学ぶ
3	日本の医療制度①	医療保障について学ぶ 医療制度の詳細について学ぶ
4	日本の医療制度②	国民医療費の現状と将来について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
5	医療の需要と供給①	人口の推移について学ぶ ディスカッション・プレゼンテーション
6	医療の需要と供給②	医療需要・医療供給について学ぶ 顕在需要と潜在需要について学ぶ
7	地域医療（医療供給体制）①	地域医療について学ぶ
8	地域医療（医療供給体制）②	地域医療の提供構造について学ぶ
9	地域医療（医療供給体制）③	地域医療計画について学ぶ
10	医療関連の法規定①	医療と保健衛生活動に関係する法規について学ぶ 社会保障や保健および福祉に関係する法規について学ぶ
11	医療関連の法規定②	医療費支払い保健制度に関係する法規について学ぶ 病院の医療活動に関係する主な法規について学ぶ
12	医療関連の法規定③	感染症法について学ぶ 医薬品などに関係する法規について学ぶ
13	医療関連の法規定④	災害時に適用される法規について学ぶ 職員に関する法規について学ぶ
14	医療関連の法規定⑤	がん対策基本法・がん対策推進基本計画について学ぶ 個人情報の保護に関する法律・ガイドラインについて学ぶ
15	まとめ	1～14の総まとめ

《専門教育科目》

科目名	医療管理各論Ⅰ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12 (知識と理解)医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30 (態度と志向性)学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

病院という組織が使命を達成し、維持していくために必要な「経営管理」の知識、医療機関としての機能を果たすために専門職を有効に結びつけるため「医療管理」の知識、医療の分化・高度化により現代の病院には専門職種で成り立つ「チーム医療」の知識が必要である。病院を的確に維持、運営していく上で重要かつ基礎的な上記の知識を身につけることが目的であり、診療情報管理や地域連携業務経験を活かした授業である。

《授業の到達目標》

- ①病院の組織や各部門の経営管理方法などを理解している。
- ②医療機能を果たすに様々な専門職を有効に結びつける医療管理を理解している。
- ③専門職種間で、情報共有し、協働してチーム医療を実践することが医療の質の向上に重要であることを理解している。

《成績評価の方法》

期末試験（70%）
 平常点(授業態度、課題など）(30%)
 《学生へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ」（日本病院会）

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
 事後学修：教科書を参考に、小テスト、復修問題を解き、理解に繋げる

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病院の経営管理①	病院の経営管理、経営プロセスについて学ぶ
2	病院の経営管理②	組織と機能について学ぶ
3	病院の経営管理③	管理と組織について学ぶ
4	病院の経営管理④	財務・経営管理について学ぶ
5	病院の経営管理⑤	人事・労務管理について学ぶ
6	病院の経営管理⑤	施設管理について学ぶ
7	医療管理①	医療管理について学ぶ
8	医療管理②	診療部門について学ぶ
9	医療管理③	看護部門について学ぶ
10	医療管理④	医療技術部門、診療協力部門・メディカルスタッフ部門について学ぶ
11	医療管理⑤	教育研究部門、診療情報管理部門について学ぶ スタッフ機能事務部門について学ぶ
12	医療管理⑥	ライン機能事務部門について学ぶ 施設・機器維持管理部門について学ぶ
13	医療管理⑦	労働安全衛生・環境衛生管理部門について学ぶ ハウスキーピング部門について学ぶ
14	チーム医療	チーム医療とは・チーム医療の主な活動・チーム医療の推進について学ぶ
15	まとめ	1～14の総まとめ

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理論Ⅰ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

診療情報管理を実施するための基礎として、診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い、責任ある情報管理を行なう能力を身につける。

本講では、診療情報管理の意義と役割について系統的に学習するとともに、診療情報管理に関わる法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているかについて学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①診療に関する情報とは何かが、理解できる。
- ②診療記録や診療情報管理の歴史について理解できる。
- ③診療録や諸記録に関する法規が理解できる。
- ④診療情報管理体制や診療記録記載のあり方を理解する。

《成績評価の方法》

期末試験 40％ 中間試験 20％ レポートなど 10％
授業態度 30％
《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説を行なう。
（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ」（日本病院会）

《参考図書》

「診療情報管理 パーフェクトガイド」（医学通信社）
その他、適宜照会する。

《授業時間外学修》

事前学修：医療関係の法律や専門用語について調べる。
（25分）
事後学修：前回の重点事項をノートにまとめる。（15分）

《備考》

実務経験 実務家教員による授業
診療情報管理業務、データ分析、居宅介護支援事業所立上げ、
介護保険請求業務、診療情報・医療安全管理委員会等に所属。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療情報管理の意義と役割-1	①用語の定義 ②診療記録の価値
2	診療情報管理の意義と役割-2	③診療情報管理の役割
3	診療情報管理の歴史-1	①診療記録のルーツ ②診療情報管理
4	診療情報管理の歴史-2	③わが国における診療情報管理
5	診療情報管理と法規等-1	①診療記録の記載と保存についての法規 ②診療記録の電子化に関する法規 ③診療記録の提示に関する法規
6	診療情報管理と法規等-2	④医療事故に伴う法的責任 ⑤診療情報の守秘に関する法規
7	診療情報管理と法規等-3	⑥個人情報穂の保護に関する法律
8	診療情報管理と法規等-4	医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス
9	診療情報管理と法規等-5	個人情報保護法と厚生労働省のガイダンスに基づく病院の対応
10	診療情報管理と法規等-6	診療情報の提供等に関する指針、現状
11	診療記録の記載方法-1	①POS ②フォーカスチャータニング(1)
12	診療記録の記載方法-2	③フォーカスチャータニング(2) ④クリニカル・パス
13	診療情報の記載-1	①診療記録の記載方法
14	診療情報の記載-2	②診療録の基本的な記載事項
15	診療情報の記載-3	③診療記録の種類

科目名	臨床医学総論				
担当者氏名	宇野 久光、作間 俊治				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21（技能）医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

小児に固有の特徴は、成長・発達していくことである。正常な成長・発達過程と、その妨げとなる様々な先天異常について講義する。生まれてきた子どもたちを守る取り組みとして、新生児マス・スクリーニングも採り上げる。
臨床医学総論（外傷、先天異常）先天奇形、および染色体異常、損傷、中毒その他外因の影響について

《テキスト》

「診療情報管理 I（基礎・医学編）」日本病院会
講義スライドをプリント配布

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①健康な小児の成長・発達過程を理解している。
②染色体異常、単一遺伝子疾患が生じる仕組みを理解する。
③代表的な先天異常の概要が説明できる。
④新生児マス・スクリーニングによる障害予防の重要性を理解している。⑤主な疾病の原因を理解できる。⑥主な検査についてその目的と評価ができる。⑦代表的な先天異常、遺伝子異常の概要が理解できる。⑧外傷、中毒について理解できる。

《授業時間外学修》

試験前学習の補助として、講義内容に即した練習問題を提供する。（30分程度）

《成績評価の方法》

期末テスト(80%)、受講態度(10%)、小テスト(10%)

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説書を配付する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	遺伝学の基礎 常染色体異常	染色体・DNA・遺伝子などに関する理解の上で、ダウン症候群をはじめとする常染色体異常について、高齢妊娠の出生前スクリーニング検査の問題などと合わせて学習する。
2	性染色体異常 性分化疾患	X染色体とY染色体の特徴、男女の分化の仕組みなどについて理解し、ターナー症候群ほか各種の性染色体異常・性分化疾患について、心理社会的問題とともに学習する。
3	単一遺伝子疾患	単一遺伝子の異常による疾患の遺伝形式を理解する。具体例として先天代謝異常症を採り上げ、新生児マス・スクリーニングによる発症予防の取り組みについて学習する。
4	赤ちゃんの誕生 胎芽病	受精から分娩に至る発生過程、新生児～乳児期の正常な成長発達過程と、発生初期の外的要因による先天異常の発生について学習する。原発事故の影響についても考察する。
5	筋・骨格系の先天異常	筋肉・骨格の構成と小児期の身体発育について理解し、代表的な発生異常について学習する。腹壁と横隔膜の異常による消化管の脱出（ヘルニア）についても学ぶ。
6	腎尿路系の先天奇形	代表的な腎尿路系の先天奇形について学ぶ。特に尿道下裂、停留精巣、水腎症。
7	軟部組織外傷、頭部外傷 について学ぶ	軟部組織外傷、頭部外傷について学ぶ。皮膚の損傷、筋、腱、靱帯の損傷など。頭蓋骨骨折についても学ぶ。
8	胸腹部外傷	胸腹部外傷について学ぶ。気胸、心臓外傷など
9	尿路生殖器の外傷	腎外傷、膀胱外傷、尿道外傷について学ぶ
10	中毒	薬物中毒、食中毒について具体的に学ぶ
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	臨床医学各論Ⅰ				
担当者氏名	井上 暢子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

臨床医学各論Ⅰでは、原因別、部位別などに分類されている各疾患について、その分類の意味とその原因、症状、所見、診断根拠、治療法などの概要を理解し、疾患の適切なICDコーディングにつながる基礎知識を習得することを目的とする。ここでは、感染症の原因となる微生物の知識を押さえ、各感染症の症状・臨床所見・診断方法・治療法を学び、感染症患者の診療記録の内容を理解できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

感染症を引き起こす微生物にはどのようなものがあるか理解し、感染症の総論を体系的に学ぶ。日常診療でよく遭遇する感染症や、社会的に問題となっている感染症については、授業中に詳しく説明するので、理解を深める。《卒業認定・学位授与との関連》 医療・福祉分野の専門知識を修得している。

《成績評価の方法》

期末テスト(70%)、小テスト(30%)

各講義の最後に小テストを行う。授業の要点を押さえた問題になっている。期末テストは授業プリント、小テスト、診療情報管理士教育問題集から出題する。《試験のフィードバックの方法》 試験終了後に解説を配付する。

《テキスト》

臨床情報管理士テキスト：「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」4章 臨床医学各論Ⅰ 感染症および寄生虫
配付プリント

《参考図書》

「病気がみえる＜vol.6＞免疫・膠原病・感染症」 医療情報科学研究所

《授業時間外学修》

事前学修：臨床情報管理士テキストを読む。（20分程度）
事後学修：授業で学習した感染症について、授業プリントの復習やインターネットで情報収集を行い理解を深める。（20分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	総論	テキストに沿って進めていきます。
2	腸管感染症、結核	テキストに沿って進めていきます。
3	人畜共通細菌性疾患、その他の細菌性疾患	テキストに沿って進めていきます。
4	性的伝播様式をとる感染症、スピロヘータ疾患	テキストに沿って進めていきます。
5	クラミジアによる疾患、リケッチア症	テキストに沿って進めていきます。
6	中枢神経のウイルス感染症、ウイルス肝炎、HIV	テキストに沿って進めていきます。
7	節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱	テキストに沿って進めていきます。
8	皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	テキストに沿って進めていきます。
9	真菌症、原虫疾患、ぜん虫症	テキストに沿って進めていきます。
10	シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生虫	テキストに沿って進めていきます。
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅱ				
担当者氏名	小山 幹夫				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21（技能）医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

新生物（腫瘍）は身体のすべての臓器・組織に発生する疾患であるので、新生物の分類、診断法、治療法は、その性質、発生部位等から多岐にわたる。

ここでは、新生物の発生組織部位・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、移転性等新生物の概要を理解するとともに、主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なICD分類に結びつく基本的知識を修得する。

《授業の到達目標》

新生物に関する疾病について

①「特徴」「分類・症状」「検査・診断法」「治療法」などの概要を理解している。

②ICD-10に基づく分類の基礎を理解している。

③診療録に使用する外国語のうち、特によく使う単語について理解している。

《成績評価の方法》

期末テスト 90%

小テスト 5%

受講態度 5%

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」
日本病院会
プリント配付

《参考図書》

特になし

《授業時間外学修》

事前学修

医療知識に関心を高めるため、日頃からメディアを通し情報収集を勧める。

事後学修

授業内容の復習をまとめを使用し行うことを奨励する。

《備考》

授業最終日に期末テストを行う。

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	新生物総論	悪性と良性の区別の確認 等
2	新生物各論①	消化器系の悪性新生物①
3	新生物各論②	消化器系の悪性新生物②
4	新生物各論③	呼吸器系の悪性新生物①
5	新生物各論④	呼吸器系の悪性新生物②
6	新生物各論⑤	内臓系の悪性新生物
7	新生物各論⑥	性腺系の悪性新生物
8	新生物各論⑦	造血器系の悪性新生物①
9	新生物各論⑧	造血器系の悪性新生物②
10	新生物各論⑨	まとめ
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

科目名	臨床医学各論Ⅲ				
担当者氏名	山崎 尚也				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

血液疾患、内分泌異常、代謝異常について、病気の原因となる細胞やホルモンなどの名称と機能を学んでいきます。
正常な状態を基礎知識として持った上で病気の原因とメカニズム、それぞれの病気に対してどのような検査方法や治療法があるのかを学んでいきます。

《授業の到達目標》

- ①血液・免疫疾患が何が原因で起こるのか、血液の細胞名と機能をあげることができる。
- ②内分泌疾患にはどのようなホルモン分泌異常があるのか、ホルモン名と機能をあげることができる。
- ③代謝障害による疾患が、何の異常であるか物質名をあげることができる。

《成績評価の方法》

成績評価は100点満点とする。その内訳を下記に記す。

- ①平常点30点（小テスト3回実施予定・1回10点）
 - ②期末試験70点
- ＜試験のフィードバックの方法＞
期末試験終了後に解説をする。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編」日本病院会

《参考図書》

「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」
「病気がみえる vol.5 血液」
「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」
出版社：メディックメディア

《授業時間外学修》

事前学修：テキストを読み、わからないことがあれば調べておくこと。（15分）
事後学修：講義内容や小テストの復習をすること。（60分）

《備考》

本講義における必要な基礎知識を習得し、総合的に理解していること。その判断は成績評価にて60点以上の者とする。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	血液成分の基礎	血液成分についての基礎知識
2	免疫機能の基礎	免疫についての基礎知識
3	白血球の病気	白血球異常症（造血器悪性腫瘍）
4	赤血球と血小板の病気	赤血球異常症（栄養性貧血、溶血性貧血、その他の貧血） 血小板異常症
5	血液凝固の病気	凝固・線溶に関する基礎知識 凝固障害、その他の出血性病態
6	免疫の病気	免疫異常により起こる疾患（自己免疫疾患、アレルギー、HIV感染症）
7	内分泌の基礎	内分泌についての基礎知識
8	内分泌の病気 1	甲状腺障害 糖尿病
9	内分泌の病気 2	下垂体、副甲状腺、副腎障害
10	栄養と代謝の病気	栄養失調症、ビタミン欠乏症、代謝障害
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅴ				
担当者氏名	原武 大介				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

「臨床」とは「病床に臨む」こと、すなわち患者に接して実際に診察、治療を行うことを意味します。本講では、生命の維持に直接かわる循環器・呼吸器の代表的な疾患について、その特徴、診断、治療など、教科書的な知識のみならず臨床現場に即した知識の習得を目指します。

《テキスト》

「診療情報管理I」（診療情報管理士テキスト）

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

- 1 自分の体を構成する主要臓器の位置と機能を説明できる。
- 2 心臓や肺の主要疾患名をあげ、症状・治療が説明できる。

《授業時間外学修》

疑問を疑問のまま残さないようにしてください。授業で生じた疑問はまず自分で調べて解決するのが理想ですが、質問は常に受け付けます。1日5分でもいいので学習の時間をつくるようにしてください。

《成績評価の方法》

期末テスト(80%)、小テスト(20%)、出席（減点法）

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説書を配布する。

《備考》

毎回出席を確認します。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	循環器1	概要
2	循環器2	高血圧
3	循環器3	虚血性心疾患
4	循環器4	不整脈
5	循環器5	脳血管疾患
6	循環器6	その他の循環器疾患
7	呼吸器1	概要
8	呼吸器2	肺炎
9	呼吸器3	気管支喘息、COPD
10	呼吸器4	その他の呼吸器疾患
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅶ				
担当者氏名	吉田 信隆				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

妊娠初期から分娩・産後までと、周産期など最近の話題について講義する。

周産期情報管理と産科および周産期の病態について、その関連性について解説する。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ」（日本病院会）

《参考図書》

「病気が見える」シリーズ No. 10 産科 医療情報科学研究所

《授業の到達目標》

- ①母性を理解できる。
- ②妊娠・分娩の異常について理解できる。
- ③ICD-10に並べられた病気についてその関連を理解できる。

《授業時間外学修》

毎回行う授業の事前学修：約10分
毎回行う授業の事後学修：約20分

《成績評価の方法》

期末試験の評価（80％）
出題は教科書にとらわれず、講義内容（配付資料）から行う。
また、毎授業のカードの提出も評価の対象となる。（20％）
《試験のフィードバック方法》：期末試験終了後に解説を配付する。

《備考》

女性の生殖機能に関わる講義で有り、良く理解することが大切である。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	正常妊娠-1	妊娠の成立、妊娠に伴う母体変化
2	正常妊娠-2	胎児胎盤系、母体と胎児の管理
3	妊娠の異常-1	妊娠初期異常：妊娠悪阻、流産、異所性妊娠
4	妊娠の異常-2	妊娠中～後期の異常：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫早産、前期破水など
5	合併症妊娠	婦人科疾患、糖代謝異常、その他
6	母子感染症	風疹、B型肝炎、HIV（エイズ）、その他
7	正常分娩	分娩の3要素、正常分娩の経過、その他
8	分娩の異常	陣痛の異常、産道の異常、その他
9	復習および補習1	ICD-10：第15章 妊娠・分娩・産褥 解説
10	復習および補習2	ICD-10：第16章 周産期に発生した問題 解説
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅷ				
担当者氏名	小山 幹夫				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21（技能）医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

身体の形態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚などの疾病について、その特徴、症状、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」
日本病院会
プリント配付

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

筋骨格系に関する疾病について
①「特徴」「分類・症状」「検査・診断法」「治療法」などの概要を理解している。
②ICD-10に基づく分類の基礎を理解している。
③診療録に使用する外国語のうち、特によく使う単語について理解している。

《授業時間外学修》

事前学修
医療知識に関心を高めるため、日頃からメディアを通し情報収集を勧める。
事後学修 授業内容の復習をまとめを使用し行うことを奨励する。

《成績評価の方法》

期末テスト 90％
小テスト 5％
受講態度 5％

《備考》

授業最終目に期末テストを行う。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	筋骨格系の疾患総論	総論
2	筋骨格系の疾患各論①	関節リウマチなど
3	筋骨格系の疾患各論②	脊椎関連疾患
4	筋骨格系の疾患各論③	骨関節疾患
5	筋骨格系の疾患まとめ	骨粗しょう症など
6	皮膚および皮下組織の疾患①	膠原病関連疾患①
7	皮膚および皮下組織の疾患②	膠原病関連疾患②
8	皮膚および皮下組織の疾患③	自己免疫性皮膚疾患①
9	皮膚および皮下組織の疾患④	自己免疫性皮膚疾患②
10	皮膚および皮下組織の疾患まとめ	まとめ
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《専門教育科目》

科目名	解剖生理学				
担当者氏名	城間 紀之、織田 麻琴、森 馨一、鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

本講では、人体を構成する各器官の細胞・組織構築について理解することと、人体を維持・調節する生理的な機能について理解することを目指す。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I（基礎・医学編）

《参考図書》

授業内で、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①ヒトの体の概観を、基本的な医学用語で説明できる。
- ②各臓器の名称・位置・機能を説明できる。
- ③各組織や臓器を構成する細胞の特徴を理解する。
- ④卵子・精子・受精卵と体細胞の関係を理解する。

《授業時間外学修》

その日に学んだ内容はその日のうちに復習する。
次回学ぶ内容について、テキストを読んでくる。
その他、各教員より適宜紹介する。

《成績評価の方法》

期末テスト 60%

平常点（受講態度、提出物、小テストなど） 40%

《備考》

実務家教員による授業

《フィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う（試験60分、解説30分）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	体液と内部環境/内分泌系	血液・リンパ液・組織液と細胞内の関連、内部環境やホルモンにより体を制御・調節するシステムについて考える。
2	循環器	血液を循環させる臓器、心臓と血管について考える。
3	呼吸器	酸素を取り込み、二酸化炭素を排出する気道と肺について考える。
4	消化器	食物を摂取・消化・栄養素を吸収し、老廃物を便として排泄するシステムについて考える。また、消化管と連携して機能する肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能を考える。
5	腎臓・尿路/ヒトの発生と生殖器	代謝により血液中に蓄積する老廃物を尿として排泄し、血液を浄化するシステムについて考える、また、1個の受精卵が60兆個に増えヒトの体が形成されるしくみを考える。
6	生体防御機能	病原体の攻撃や体の内部の異常から、ヒトを守るための生体防御システムについて考える。
7	骨格筋と骨格	体を動かすシステム、運動器について考える。
8	神経系	神経ネットワークにより、体を動かす制御・調整するシステムについて考える。
9	口腔の解剖学1	口腔や歯の構造・組織について学ぶ。
10	口腔の解剖学2	歯の咬合や食物の摂取・咀嚼・嚥下に関連する機能について学ぶ。
11	復習とまとめ I	循環器系の概要、基本的な構造と機能など
12	復習とまとめ II	呼吸器系の概要、基本的な構造と機能など
13	復習とまとめ III	消化器系の概要、基本的な構造と機能など
14	復習とまとめ IV	泌尿器系の概要、基本的な構造と機能など
15	復習とまとめ V	神経系の概要、基本的な構造と機能など

《専門教育科目》

科目名	薬理学概論				
担当者氏名	東川 史子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

薬とは何か？薬は体内でどのような働きをするのか？薬物の作用・吸収・分布・代謝・排泄・毒性・相互作用・個人差などについて解説する。

《テキスト》

「系統看護学講座 薬理学」医学書院

《参考図書》

参考プリント配布

《授業の到達目標》

- ①薬物の生体内動態や相互作用について理解している。
- ②代表的な薬物の作用・副作用を習熟している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。(10分)
事後学修：講義ノートを復習し、理解を深める。(30分)
レポート作成 (180分)

《成績評価の方法》

1. 平常点 (受講態度等) (20%)
 2. レポート (30%)
 3. 試験 (50%)
- 試験の出題は、講義内容から行う。《学生へのフィードバックの方法》授業時間内に解説する。

《備考》

16週目に期末試験を行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	概論 1	薬理作用の種類、受容体、薬の投与量と薬理反応など、薬理学の基礎について
2	概論 2	薬物体内動態など、薬理学の基礎について
3	概論 3	生理活性物質など、薬理学の基礎について
4	薬物の生体内動態 1	薬物の吸収・分布・代謝・排泄について
5	薬物の生体内動態 2	薬物の吸収・分布・代謝・排泄について
6	薬物の有効性と安全性	薬物の有効性と安全性について
7	個人差	個人差の因子・テーラーメイド医療等について
8	様々な薬物の作用 1	様々な薬物の作用・副作用について
9	様々な薬物の作用 2	様々な薬物の作用・副作用について
10	様々な薬物の作用 3	様々な薬物の作用・副作用について
11	様々な薬物の作用 4	様々な薬物の作用・副作用について
12	様々な薬物の作用 5	様々な薬物の作用・副作用について
13	様々な薬物の作用 6	様々な薬物の作用・副作用について
14	薬物の相互作用	多剤併用による相互作用および食品と薬物の相互作用について
15	新薬と臨床試験 他	臨床試験のルールおよび臨床検査に及ぼす薬物の影響について

《専門教育科目》

科目名	臨床検査一般				
担当者氏名	小野寺 利恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

現在臨床検査は、病名を決定だけでなく治療方針の決定、予後、治療の判定、人間ドックやスクリーニングの検査など医療における役割は大きく、かつ広範囲に及んでいる。これら臨床検査の目的を理解し、医療従事者として必要な医学知識を習得する。

《テキスト》

前川芳明「ナースのためのよくわかる臨床検査」メディカ出版
プリント

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

- ①臨床検査の役割を理解している。
- ②各種検査項目の目的を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：次の講義内容のテキストを読む（30分）
事後学修：小テストの見直し、課題プリントをする。（30分）

《成績評価の方法》

- ①平常点（授業態度、課題）（30％）
 - ②試験（70％）
- 《試験のフィードバック》
試験（60分）後に解説（30分）を行う。

《備考》

講義に集中すれば、小テストも課題も短時間で効率よくできるようになります。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床検査とは	臨床検査の目的や必要性について
2	血液データの読み方	データを読むための基本を学ぶ
3	血液サンプリング時の留意点	データに影響する要因
4	感染症と血液検査（1）	炎症と免疫反応について
5	感染症と血液検査（2）	炎症マーカーについて
6	出血傾向と血栓（1）	出血傾向と血栓をみるための血液検査
7	出血傾向と血栓（2）	DICについて
8	輸血と副作用（1）	血液製剤の紹介
9	輸血と副作用（2）	輸血前検査と副作用
10	腎機能検査と尿検査（1）	腎臓の機能とその検査
11	腎機能検査と尿検査（2）	尿一般検査
12	肝機能検査	肝疾患と検査
13	内分泌の検査（1）	各種内分泌ホルモンについて
14	内分泌の検査（2）	分泌臓器別の疾患と検査について
15	感染症の検査	感染症に対する生体の反応と検査

《専門教育科目》

科目名	臨床医学・医療用語				
担当者氏名	朝原 秀昭、水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

医療に関わる者として、診療録内容の読み取りや、医療従事者間の意思疎通に必要な専門用語を、解剖生理から診断、治療にいたるまで広範囲に亘って学修する。
英語で記載された診療録を把握できるようにするための医学英語を学修する。
各臨床分野の内容と結びつけながら理解を深める。

《テキスト》

- ・「診療情報管理士テキスト 診療情報管理 II（基礎・医学・医療用語編）」（日本病院会）
- ・プリントを配付する。

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

- ①医学の各領域で使われる医学用語を理解している。
- ②医療関連で使用される用語を理解している。

《成績評価の方法》

試験…80%、平常点（受講態度）…20%
再試験は行いません。
《フィードバックの方法》
期末試験終了後に講評する。
試験60分・講評30分

《授業時間外学修》

テキストに記載されている医学用語について、内容を調べておくこと。辞書に書かれていることだけで知った気にならず、わかるまで調べる。事前学修も事後学修も同じことを何度も繰り返してください。
授業時間外学修の時間は、1単位につき授業時間を合わせて45時間以上になるように学修進度に合わせて適宜調整すること。

《備考》

初めて聞く話を理解する事は非常に難しい事です。教えてくれるのを待っていても得られるものは少ないでしょう。
1～10回朝原、11回～15回水野が担当 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	循環器	循環器領域で使用される用語
2	呼吸器	呼吸器領域で使用される用語
3	消化器	消化器領域で使用される用語
4	内分泌・代謝	内分泌・代謝領域で使用される用語
5	神経	神経領域で使用される用語
6	感覚器	感覚器領域で使用される用語
7	骨格系	骨格系領域で使用される用語
8	皮膚・感染・寄生虫	皮膚・感染・寄生虫領域で使用される用語
9	医療用語 1	医療領域で使用される用語
10	医療用語 2	医療領域で使用される用語
11	医療英単語 1	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。
12	医療英単語 2	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。
13	医療英単語 3	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。
14	医療英単語 4	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。
15	医療英単語 5	医療現場のさまざまな場面で使用される英単語を学ぶ。

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅰ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	講義	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

超高齢化社会到来で重要視される介護を実践するために必要な知識を学び、技術を習得することを目的としている。学習内容は、職務の理解、介護に於ける尊厳の保持、介護の基本、障害の理解、こころとからだのしくみと生活支援技術等についてである。後期での「社会福祉Ⅱ」と「社会福祉Ⅲ」を学び、一定の基準を満たせば、「介護職員初任者研修修了者」として、県に登録される。

《授業の到達目標》

- ①研修の全体像を理解し、説明できる。
- ②介護の基本的考え方と障害を理解し、説明できる。
- ③こころとからだのしくみと生活支援技術を理解しており、説明できる。

《成績評価の方法》

1. 受講状況（10％）
 2. 演習態度（10％）
 3. 実習状況（10％）
 4. 期末試験（70％）
- 《フィードバックの方法》 試験後 解説30分

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修
社会福祉のイメージを記述する。（15分）

事後学修
社会福祉のイメージを記述する。（15分）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	開講式 オリエンテーション	①「介護職員初任者研修」の資格に関してと資格取得の為の要件 ②研修受講の心構え・注意事項
2	職務の理解	①介護サービス（介護保険サービス・介護保険外サービス）②介護職の仕事内容や働く現場（居宅・施設）、チームアプローチ、社会資源との連携
3	職務の理解 介護施設見学実習	居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ
4	介護における尊厳の保持 ・自立支援	人権と尊厳を支える介護、人権擁護 プライバシーの保護、ノーマライゼーション、虐待防止、
5	介護における尊厳の保持 ・自立支援	自立支援（自立・自律支援、残存能力の活用、意欲を高める支援、個別ケア、重度化防止）
6	介護における尊厳の保持 ・自立支援	介護予防の考え方
7	介護の基本	①介護職の役割、専門性とは他職種との連携 ②職業倫理
8	介護の基本	介護における安全の確保とリスクマネジメント
9	障害の理解	①障害の基礎的理解（1）障害の概念とICF（2）障害者福祉の基本理念 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援の基礎的知識
10	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（1）基本的考え方 理論（ICF）と法的根拠に基づく介護
11	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（2）こころの仕組みの基礎的理解 学習と記憶、感情と意欲、自己概念と生きがい、適応行動と阻害要因、こころとからだの相互関係
12	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（3）からだの仕組みの基礎的理解 人体各部の名称と働き、骨・関節・筋肉、中枢神経系と体性神経、自律神経と内部器官、
13	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（1）からだの仕組み ボディメカニクスの活用、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気付く視点
14	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（2）生活と家事 生活歴、自立支援、予防的対応、主体性・能動性を引き出す、生活習慣・価値観の多様性
15	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（3）居住空間 快適な居住空間、高齢者・障害者特有の居住環境整備、福祉用具、家庭内で多い事故、バリアフリー、住宅改修

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅱ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解して、基礎的介護が実施出来るようになることを目的とする。

利用者の尊厳を保持し、自立及び自律を尊重した介護を基礎とする事は勿論、持てる力を発揮しながら、在宅・地域等での生活を支える介護技術と知識を習得する。また、生活支援技術の身体介護と終末ケアを演習をまじえながら学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 心身の仕組みを理解し、身体各部の名称や機能が列挙できる。
2. 整容、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠の自立にむけた介護ができる。
3. 終末期の心身の変化と対応、緩和ケア、家族へのケアについて列挙できる。

《成績評価の方法》

1. 受講状況 (10%)
2. 演習態度 (10%)
3. レポート (10%)
4. 実技試験 (70%)

《フィードバックの方法》 実技試験の解説をする。

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修

ボランティアのイメージを記述し、高齢者に関するボランティアを行う。(15分)

事後学修

高齢者に関するボランティアを行った後のイメージを記述する。(15分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	整容の介護	整容や装うことについての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
2	整容の介護	整容の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
3	移動・移乗の介護	移動・移乗についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
4	移動・移乗の介護	移動・移乗の介護技術を習得するために、介護実習室等で演習する。
5	食事の介護	食事についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
6	食事の介護	食事の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
7	入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
8	入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持の介護技術を介護実習室で演習する。
9	排泄の介護	排泄についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
10	排泄の介護	排泄の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
11	睡眠の介護	睡眠についての心身の仕組みと介護方法・知識を学ぶ。
12	睡眠の介護	睡眠の介護技術を習得する。
13	睡眠の介護	快適で安全な睡眠のためのベッドメイキング方法を学び、技術を習得する。
14	死にゆく人への介護	死にゆくひとへの介護方法・知識を学ぶ。
15	死にゆく人への介護	死にゆくひとへの介護技術を習得する。

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅲ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	講義	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

「介護職員初任者研修」修了者として県に登録されることを目的とした学習の最後の講座で、一定の基準を満たすことが求められる。介護に関する、知識・技術を十分身につけて職業人としての自覚ができるようにする。

内容は、介護過程、総合生活支援技術、介護・福祉サービス、コミュニケーション、老化、認知症および介護実習等である。

《授業の到達目標》

1. 介護過程の目的と意義、展開等説明ができる。
2. 介護計画立案、介護手順書作成、要介護（要支援）者・家族介護者への援助・支援ができる。
3. 介護・福祉サービス・コミュニケーション・老化・認知症を理解して、介護ができる。
4. 介護の知識・技術の説明ができ、職業人としての準備が出来ていて説明できる。

《成績評価の方法》

1. 受講・演習状況（10％）
2. レポート（10％）
3. 実習状況（10％）
4. 修了試験（70％）

《フィードバックの方法》 試験後、解説をする。

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修

高齢者とのコミュニケーションのイメージを記述する。（15分）

事後学修

高齢者とのコミュニケーションのイメージの違いを記述する。（15分）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護過程の基礎知識 ①基礎的理解	介護過程の基礎的理解
2	介護過程の基礎知識 ②展開	介護過程の展開
3	総合生活支援技術演習 ①	事例1.
4	総合生活支援技術演習 ②	事例2.
5	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ①	介護保険制度
6	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ②	医療との連携とリハビリテーション
7	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ③	障害者自立支援制度及びその他の制度
8	介護に於けるコミュニケーション技術 ①	介護におけるコミュニケーション技術
9	介護に於けるコミュニケーション技術 ②	介護におけるチームのコミュニケーション
10	老化の理解 ①	老化に伴う心身の変化
11	老化の理解 ②	高齢者と健康
12	認知症の理解 ①	取り巻く状況、医学的側面、健康管理
13	認知症の理解 ②	心身の変化と生活、家族支援
14	振り返り	学外老人介護施設での介護実習 「社会福祉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の振り返り
15	修了試験	「社会福祉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の筆記試験

《専門教育科目》

科目名	豪州医療福祉研修				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-21 (技能)医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

日本医療福祉実務教育協会が主催するオーストラリア医療福祉研修に参加し、ホームステイしながら、同国の医療福祉事情や歴史文化についての見識を深める。オーストラリアではボランティアを活用した地域福祉制度を発展させているが、この研修では実際の現場でのボランティア活動を体験し、医療と福祉の原点に触れ、医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につける。

《授業の到達目標》

- ①オーストラリアの医療福祉事情についての見識を深める。
- ②オーストラリアの歴史・文化・生活を理解する。

《成績評価の方法》

1. 研修に臨む態度 50%
2. レポート 50%

《課題へのフィードバック方法》

レポートについて講評の時間を設ける。

《テキスト》

「豪州医療福祉研修のしおり」(日本医療福祉実務教育協会)

《参考図書》

細井忠俊・バーウィック妙子「今日から使える！留学&ホームステイのための英会話」(アルク)

《授業時間外学修》

事前学修：「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を声を出して練習する。(毎日30分)

- ・オーストラリアの歴史・文化・社会についての本を読む。(毎日30分)

事後学修：「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を暗記するまで練習する。(毎日30分)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	(学内) 事前研修①	オーストラリア事情
2	(学内) 事前研修②	英会話
3	(学内) 事前研修③	英会話
4	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
5	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
6	(研修先) セミナー	オーストラリアの歴史・文化について学ぶ。
7	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
8	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
9	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
10	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
11	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
12	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
13	(研修先) 見学	博物館、市役所庁舎
14	(研修先) ボランティア	地域ボランティア体験
15	(学内) 研修のまとめ	研修の反省等

《専門教育科目》

科目名	生活介護論				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必修	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

現代社会は少子高齢化が進み65歳以上の割合は1/4を超え、多数の問題を抱えています。その中でも医療・介護サービスを必要とする高齢者の増加や、入院期間の短縮に伴う在宅介護の必要性、介護する家族の負担がクローズアップされています。小児から高齢者まで各年代別の健康問題・生活課題と疾患や機能障害について理解し、家庭での介護に適應できるよう学びます。

《授業の到達目標》

- ①少子高齢化社会の現状と課題について知り、理解している。
- ②人間の体の構造と年代別・臓器別の病気の種類と健康管理、介護・日常生活援助に必要な知識を知り理解している。
- ③健康障害のある人との接し方やコミュニケーションの取り方を知り理解している。

《成績評価の方法》

- ①平常点30（授業態度10%、レポート20%）
 - ②期末試験（70%）
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《テキスト》

直井 道子ほか著「生活と福祉」実教出版
 映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

堺 章著「目で見る体のメカニズム」医学書院
 田中 元著「イラストでわかるやさしい介護のしかた」高橋書店
 大久保 昭行監修「健康の地図帳」
 山口 和克監修「病気の地図帳」
 佐藤 達夫監修「体の地図帳」講談社

《授業時間外学修》

- ・事前学修（30分程度）：テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修（15分程度）：街中での子供達や、障害者・高齢者の様子や行動、社会での出来事に関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・健康と病気	講義の進め方の説明・健康とは？高齢化社会とQOL
2	ライフステージと健康管理①	予防医学／ICF 3つの要因
3	ライフステージと健康管理②	幼年期～青年期の健康管理
4	ライフステージと健康管理③	青年期～壮年期の健康管理
5	ライフステージと健康管理④	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病①
6	ライフステージと健康管理⑤	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病②
7	高齢化の現状と特徴①	高齢者の生活習慣と健康・高齢化の現状
8	高齢化の現状と特徴②	高齢者の心身の特徴
9	高齢者の生活課題①	臓器別の病気の種類と特鋼①
10	高齢者の生活課題②	臓器別の病気の種類と特徴②
11	高齢者の生活課題③	臓器別の病気の種類と特徴③認知症
12	高齢者の介護①	麻痺・視覚障害・聴覚障害のある人の介護
13	高齢者の介護②	介護の基本①体位変換と移動／食事生活動作／ベッドメイキングに必要な体のしくみ
14	高齢者の介護③	介護の基本②清潔・排泄・家庭介護（バイタルサイン）
15	高齢者の生活支援と福祉	DVD（介護）・介護の基本③家庭介護（誤嚥・窒息・火傷・熱中症と脱水）

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務総論				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解して活用するには何が求められるのか、ビジネス実務の意義や内容など現場の基礎知識について学びます。具体的には、私たちを取り巻く社会環境を知り、そこで必要な業務マネジメント、個人業務および協働業務を実践するために求められる資質やスキルの基本知識を学び、自分のキャリアに繋がります。

《授業の到達目標》

- ①昨今のビジネス環境を理解し現場の概観を理解できている。
- ②ビジネス実務の基本、仕事の進め方、ビジネスとサービス活動、ビジネスと表現活動、ビジネスと情報活動、ビジネスと組織活動のからみなどの基本知識を理解している。
- ③ビジネス実務の活動、オペレーション活動、マーケティング活動を理解している。
- ④これからのビジネス実務の方向性を理解している。

《成績評価の方法》

1. 平常点（受講態度・発表） 20%
2. 課題・小テスト 20%
3. 学期末テスト 60%

《フィードバック方法》

課題・小テストについての講評の時間を設けます

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」
（紀伊国屋書店）

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編
「ビジネス実務マナー検定 受験ガイド」3級・2級
（早稲田教育出版）

《授業時間外学修》

- 【事前学修】授業で進める範囲のテキストを一読する（20分）
 【事後学習】学んだ範囲を小テスト対策として復習する（20分）

配布された資料や課題を自宅学習して臨む（20分）
 認識不足の問題を専用のノートまとめて復習します。（30分）

《備考》

日々変化している社会の出来事に関心を持つこと。そのためには、新聞やTV、ネットなどでトレンドな時事ニュースに毎日接することが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	第1章 ビジネスを考える	ビジネスとは何か、ビジネスの定義を学び、異なる2つの事業活動の内容を知る。
2	キャリア形成の方向性を考える	キャリアプランシートで自己分析（関心ごとや好きなこと、どのような生き方、働き方がしたいかなど）
3	第2章 ビジネス環境を捉える	4つのメガトレンドについて （経済グローバル化・高度情報化の環境変化）
4	第2章 ビジネス環境を捉える	4つのメガトレンドについて （地球環境問題・少子高齢化の環境変化）
5	グループ発表と討議	メガトレンドからアプローチした現場のトレンドな問題点を提示する
6	第3章 ビジネス現場を捉える	ビジネス現場の環境変化 （これまでの働き方と現場環境を理解する）
7	第3章 ビジネス現場を捉える	ビジネス現場の環境変化 （オフィスの環境の移り変わりに伴う働き方の変化）
8	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス現場で求められる仕事の進め方と基本的な心構え
9	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス実務の4つのメガトレンド （サービス活動・表現活動）
10	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス実務の4つのメガトレンド （情報活動・組織活動）
11	第5章 ビジネス実務の基本	効果的に仕事を進めるマネジメントサイクル 仕事の特徴やステップアップのポイント
12	第5章 ビジネス実務の基本	サービス活動のポイント サービスの4要素 基本動作
13	第5章 ビジネス実務の基本	表現活動のポイント 口頭表現のこと 文書表現のこと
14	第5章 ビジネス実務の基本	表現活動の実際 敬語問題 電話応対 ビジネス文書
15	まとめ・総括	ビジネス環境を熟知し、そこに身をおくワーカーとしての知識や自覚を心得ている

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務演習Ⅰ				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

前期「ビジネス実務総論」に引き続き講座です。ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解し、実践するための専門的スキルを深めます。演習の授業なので、単に知識習得のみならず、実践出来て身につけていることを目指します。「ビジネス実務マナー検定」にチャレンジすることで、ビジネス実務の定着を目指しています。より深い学びをしてください。

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」紀伊国屋書店

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」3級・2級 早稲田教育出版

《授業の到達目標》

1. ビジネスパーソンとして必要な資質を身につけている
2. ビジネス実務に必要な話し方（敬語）や対応ができる
3. ビジネス文書（メール含）を自分で書くことができる
4. ビジネス現場の交際に関する対処法を理解してできる
5. ビジネス倫理やビジネス法規のポイントを説明できる

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」にチャレンジし、総合力を養うため、毎週の課題があります。

【事前学修】課題を自宅学習する（60分）

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する（30分）

《成績評価の方法》

1. 平常点（授業態度・発表）20%
2. 課題・小テスト 20%
3. 学期末テスト 60%

＜フィードバックの方法＞

課題や小テストについては講評の時間を設ける

《備考》

ビジネス実務マナー検定の内容は幅広く、ビジネス現場で求められる資質や組織の知識などの総合力が問われます。配布プリントは、その都度確実に理解するよう予習・復習が大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス現場演習	サービス活動（基本行動の立居振舞）
2	ビジネス現場演習	サービス活動（接遇・電話対応の実習）
3	ビジネス現場演習	表現活動（慶弔、贈答などのビジネスマナー）
4	ビジネス現場演習	表現活動（会議業務、スケジューリングなど）
5	ビジネス現場演習	情報活動（文書作成）
6	ビジネス現場演習	情報活動（出張業務など）
7	ビジネス現場演習	組織活動（組織形態や役割の復習）
8	ビジネス現場演習	組織活動（組織の部門の復習）
9	5章 ビジネスと情報活動	情報の収集、評価、加工・活用、整理・保管の意義や事例 （電子メール w w w の特徴）
10	5章 ビジネスと組織活動	組織の定義と種類 グループダイナミックスの特徴
11	5章 ビジネスと組織活動	チームワークにおける個人の役割 チームの問題解決プロセス
12	6章 ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について （オペレーション活動の理解、開発・生産・流通のオペレーション）
13	6章 ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について （マーケティング活動の理解、企画と営業部門の位置づけと活動）
14	6章 ビジネス実務の活動	人的資源管理法 （企業が進める教育や能力開発システム）
15	6章 ビジネス実務の活動	コストパフォーマンス （経理財務、決算書の見方、株式市場のキーワード）

《専門教育科目》

科目名	アウトドア演習				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

健康の維持・増進のためには、運動、栄養、休養をライフスタイルの中にバランスよく取り入れていくことが求められている。

そこで本科目では、学外の施設を利用し、健康管理の方策を主に運動・休養面から捉え、積極的な健康づくりのための実践例として体験・学習したい。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

1. 健康管理上の運動の必要性を修得する。
2. 健康管理上の積極的休養の必要性を修得する。
3. 健康管理上の運動と積極的休養の実践方法を修得する。

《授業時間外学修》

事前学修：運動と休養の意義、具体的方法に関わる自学自習（60分程度）。

事後学修：毎日10分（＋10）程度の運動実践。

《成績評価の方法》

受講状況（50％）とレポート課題（50％）による。

《フィードバックの方法》

レポート返却にともない、講評を行う。

《備考》

夏期宿泊研修型集中授業
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	ウェルネス 健康管理からみた運動と休養の必要性
2	演習Ⅰ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
3	演習Ⅱ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
4	演習Ⅲ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
5	演習Ⅳ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
6	演習Ⅴ	休養 温浴、リラクゼーションなど
7	演習Ⅵ	グループワーク 問題解決学習など
8	まとめ	まとめ・レポート
9	－	－
10	－	－
11	－	－
12	－	－
13	－	－
14	－	－
15	－	－

《専門教育科目》

科目名	発達心理学Ⅱ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に青年期から老年期までの発達と、発達臨床と支援を中心に学修する。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①生涯発達、ライフサイクルといった観点を理解している。
- ②高齢者の心理学的な特徴を理解している。
- ③発達や情緒面で困難をもつ子どもへの理解・支援に関する基礎知識を持っている。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
 2. 平常点（学修態度（15%）及び講義中の提出物（15%））
- 《課題へのフィードバックの方法》 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：生涯発達心理学とは？	生涯発達という考え方を学ぶ。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	社会・文化の中での発達	人間の発達における社会・文化適要因について学修する。
3	ライフサイクル	ライフサイクルという発達心理学における重要な概念について考察する。
4	青年期とアイデンティティ	青年期における発達について、アイデンティティというキーワードを軸に考察する。
5	成人前期の発達（1）	成人前期の発達について概説する。
6	成人前期の発達（2）	成人前期の発達について、特に現代における女性の発達に焦点をあてて考察する。
7	中年期の発達	中年期（壮年期）の心身の発達について学修する。
8	高齢期の発達（1）：発達課題と特徴	高齢期（老年期）の心身の発達について概説する。
9	高齢期の発達（2）：身体、認知、記憶	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に身体、認知機能の発達に焦点をあてて学修する。
10	高齢期の発達（3）：情動、動機づけ	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に情動や動機づけの発達に焦点をあてて学修する。
11	高齢期の精神障害	高齢期の精神障害について、特に認知症に焦点をあてて学修する。
12	高齢者への介護について	高齢者の生活を支える介護者・家族の心理について学修する。
13	発達障害児の理解と支援	発達障害について概説し、理解と支援について考察する。
14	児童虐待	今日の児童虐待の問題について概説し、被虐待児の心理的問題について考察する。
15	まとめ	生涯発達の過程および発達臨床について学んだことを振り返る。

《専門教育科目》

科目名	情報科学				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM出版）

《参考図書》

滝口直樹 著 「ゼロからはじめる ITパスポートの教科書」とりい書房

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。（10分程度）
事後学修：各章の章末問題を解く。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末試験 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年後期科目「情報管理論」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コンピュータシステム(1)	コンピュータの構成要素(1)：五大装置
2	コンピュータシステム(2)	コンピュータの構成要素(2)：記憶メディア
3	コンピュータシステム(3)	システム構成要素
4	コンピュータシステム(4)	ソフトウェア（1）：基本ソフトとファイル管理
5	コンピュータシステム(5)	ソフトウェア（2）：応用ソフトについて
6	コンピュータシステム(6)	ハードウェアについて
7	理解度確認	コンピュータシステムに関する理解度チェック
8	技術要素（1）	ヒューマンインタフェース、 マルチメディア
9	技術要素（2）	データベースについて
10	技術要素（3）	ネットワークについて
11	技術要素（4）	セキュリティ（1）：情報資産と情報セキュリティ
12	技術要素（5）	セキュリティ（2）：ネットワーク情報セキュリティ
13	基礎理論（1）	離散数学、応用数学と情報理論
14	基礎理論（2）	アルゴリズムとプログラミング
15	まとめ	章末問題、期末試験について

《専門教育科目》

科目名	情報管理論				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。(10分程度)

事後学修：各章の章末問題を解く。(20分程度)

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末試験 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》 期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年前期の科目「情報科学」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、ITパスポート試験について
2	企業と法務 (1)	企業活動、業務の把握
3	企業と法務 (2)	資産管理について
4	企業と法務 (3)	取引関連法規と標準化
5	経営戦略 (1)	経営戦略マネジメントについて
6	経営戦略 (2)	技術戦略マネジメントについて
7	システム戦略	システム戦略とシステム企画
8	中間確認テスト	中間確認テストと解説
9	開発技術	システム開発技術とソフトウェア開発管理技術
10	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント
11	サービスマネジメント	サービスマネジメント
12	ITパスポート試験対策 (1)	CBT試験模擬 (1)
13	ITパスポート試験対策 (2)	CBT試験模擬 (2)
14	総合確認問題	理解度チェック問題
15	まとめ	期末試験

科目名	日本の生活文化				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

日本人の生活スタイルは、戦後70年以上を経過し、大きく変化した。生活スタイルの変化とは、新たなモノを取り入れると同時に、不要となった古いモノを捨て去るということでもあった。この授業では、「モノ」の変遷を通して、日本人の生活スタイルの変化とその意味について考える。資料として、学生諸君が余り観ることがない（と思われる）、古い日本映画などの映像資料その他を使用する。

《授業の到達目標》

- ①モノの変遷をとおして、戦後日本の生活文化の歴史を理解している。
- ②生活スタイルの変化と現在の私たちの生活スタイルとの関わりを理解している。

《成績評価の方法》

1. 期末試験（70％）
 2. 平常点（30％ 授業態度 提出物）
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

水牛クラブ編集「モノの誕生「いまの生活」1960－1990」（晶文社）など
その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調査する。（20分）
事後学修：授業中に出した問題（クイズ形式）の解答を、文献やインターネットなどによって調べる。（20分）

《備考》

毎授業、必ずノートを取る。ノートは、試験で必要となる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	モノと人間の関わり 身の回りのモノ認識 1950年代における日米の生活レベルの違い
2	焼跡と配給所	戦後史① 配給制度 買い出し
3	家庭電化と家事労働	家庭電化の時代 三種の神器 戦後における「家事」の質的变化
4	チャブ台の消失	箱膳→チャブ台→ダイニング・テーブル
5	戦後住宅事情と2DK	日本の住宅事情 食寝分離と就寝分離 2DK住宅の登場
6	買い物かごと商店街	商店街→スーパーマーケット→コンビニエンスストア
7	犯罪とモノ	犯罪捜査とモノ 犯行動機の変容
8	タイプライターと職業婦人	タイプライターと女性タイピスト 日本の女性労働者の歴史
9	自転車とスクーター	自転車と職業 スクーターの盛衰史
10	高度成長前の暮らし	昭和30年代を考える
11	高度成長の明と暗	戦後史② 高度成長時代とは何だったのか
12	ミニスカートとジーンズ	若者文化の変遷
13	インスタント食品	食生活を変えたモノ
14	電話機の変遷	壁掛け式電話～ケータイ・スマホ
15	まとめ	今の生活／昔の生活 消えたモノ／残ったモノ／復活したモノ

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー I				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

ワード、エクセルの基本操作を学習します。授業では基本操作説明の後、課題作成で復習し、着実に学習内容を身につけていきます。

1～11回はワードを学習し、日本語ワープロ検定の資格取得を目指します。12～15回はエクセルの基本操作（数式や関数の入力、グラフなど）を学習します。

《授業の到達目標》

1. 日本語ワープロ検定資格を取得する。
2. 日本語ワープロ検定2級程度の実力を身につける。
3. 文書作成の基本知識を身につけている。
4. エクセルの基本操作をマスターしている。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、検定受験、課題状況）30％、実技試験（ワード40％・エクセル30％）で評価する。いずれかの項目が基準に満たない場合、単位は認定されない。
《フィードバックの方法》課題ごとに採点しコメントを返却する。期末試験後に解説を行う（試験60分・解説30分）。

《テキスト》

オリジナルテキスト（実費）

《参考図書》

「日本語ワープロ検定試験模擬問題集」日本情報処理検定協会
※級ごとに発行されています。

《授業時間外学修》

事前学修：タイピングを毎日練習する（30分）
事後学修：復習課題に取り組む（40分）
検定練習：検定試験のための練習をする（60分）
タイピングを毎日練習する（20分）

《備考》

検定を申し込んで、具体的な目標を設定して、練習に取り組みましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業の進め方、タイピング練習、ウィンドウズの基本操作
2	ワード基礎1	日本語入力練習
3	ワード基礎2	フォント、段落書式（文字サイズ等の変更、インデント・箇条書き等）
4	ワード基礎3	表作成1（表の挿入、レイアウト・デザインの変更）
5	ワード基礎4	表作成2（表作成課題演習）
6	ワード基礎5	ビジネス文書作成（日本語ワープロ3級解説）
7	検定試験対策1	入力計測と文書作成及び添削
8	検定試験対策2	入力計測と文書作成及び添削
9	検定試験対策3	入力計測と文書作成及び添削
10	模擬試験	模擬試験と添削
11	検定試験・ワード実技テスト	検定試験及びワード実技テストを兼ねます。検定の申し込みしていない人は、準2級と同等の問題で実力を測定します。
12	エクセル基礎1	基本操作 計算式の入力、書式の設定
13	エクセル基礎2	基本関数とセルの絶対参照
14	エクセル基礎3	グラフ作成
15	エクセル基礎4	並べ替え・総合問題

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシーⅡ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

エクセルおよびワードの発展的な内容を学習します。
 1～12回はエクセルを学習し、12月に表計算検定の準2級（または2級）取得を目標とします。
 13～15回はワードはを学習し、さまざまな様式の文書やレポートが作成できるよう実用的な機能を中心に学習します。

《テキスト》

「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集 準2級・2級版」日本情報処理検定協会

《参考図書》

「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集 準1級・1級」日本情報処理検定協会

《授業の到達目標》

1. 表計算検定を取得する（準2級～1級）
2. 数式や関数が適切に利用できる。
3. いろいろな様式の文書が作成できる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。（30分）
 事後学修：授業で学習したところを再度練習する（30分）
 検定練習：検定試験の問題を解く（60分）
 タイピングを毎日練習する（30分）

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、検定受験、提出課題）30%、実技テスト（エクセル50%・ワード20%）で評価する。いずれかの項目が基準に達しない場合、単位は認定されない。
 ≪フィードバック方法≫課題ごとにコメントを返却する。期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

すでに2級まで取得済の人は、「準1級・1級」問題集を購入し、上位級を受験可能です。個別に相談してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	前期復習（EXCEL基礎）
2	エクセル発展1	関数1（ROUND・RANK.EQなど） 関数2（IF）
3	エクセル発展2	3級検定問題
4	エクセル発展3	関数3（AND・OR） 関数4（VLOOKUP）
5	検定対策1	問題集 準2級問題解説
6	検定対策2	問題集 2級解説
7	検定対策3	問題集 問題1・2（準2級または2級）
8	検定対策4	問題集 問題3・4（準2級または2級）
9	検定対策5	問題集 問題5・6・7（準2級または2級）
10	模擬テスト	模擬テスト
11	検定試験・エクセル実技テスト	検定試験及びエクセル実技テストを兼ねます。検定の申し込みしていない人は、2級（または3級）と同等の問題で実力を測定します。
12	エクセル発展4	データベース関数・準1級解説
13	ワード発展1	さまざまな装飾（段落書式、ページ罫線、拡張書式他）
14	ワード発展2	段組み
15	ワード発展3	改ページ、脚注、図表番号、エクセルのグラフや表の利用

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー演習				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

日本語ワープロ検定、文書デザイン検定、表計算処理技能検定の資格を取得することを目的としたクラスです。各自の希望により科目と級を決定し、それに向けた練習をします。自分自身で目標を決め、計画的に学習する姿勢が大切です。授業計画の中で、※のついている回は、全員同じ授業となります。

《授業の到達目標》

1. 自分で目標を設定し、計画的に学習し、資格試験に合格できる技術力を身につけている。
2. 資格を取得する。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、提出課題、検定試験への取り組み）80%、検定試験結果（12月）20%で評価する。

《課題へのフィードバック方法》

課題ごとにコメントおよび採点結果を返却する。

《テキスト》

各自の受験科目及び受験級にあわせた解説を配布します。

《参考図書》

「日本語ワープロ検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「文書デザイン検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集」日本情報処理検定協会

《授業時間外学修》

事前学修：毎日タイピングを練習する（30分）
 事後学修：検定試験のための練習をする（60分）

《備考》

自分の現在の実力にあった目標設定をして、現在よりも確実に上達できるよう頑張りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	※授業ガイダンス	各検定試験の概要説明、授業の進め方を説明 各自の目標設定
2	※検定解説 1	日本語ワープロ 2 級、準 1 級、1 級の解説
3	※検定解説 2	文書デザイン 2 級、1 級の解説
4	※検定解説 3	ワープロ準 1 級・1 級、文書デザイン検定に共通の注意事項との解説 各自の目標設定（最終）
5	検定練習	答案作成と添削
6	検定練習	答案作成と添削
7	検定練習	答案作成と添削
8	模擬試験 1	模擬試験及び採点（日本語ワープロ検定中心）
9	模擬試験 2	模擬試験及び採点（文書デザイン検定中心）
10	検定試験	日本語ワープロ検定、文書デザイン検定
11	検定練習	表計算検定試験のための解説と練習
12	※検定解説 4	日本語ワープロ準 1 級・1 級、文書デザイン 1 級の解説
13	※検定解説 5	表計算 1 級の解説
14	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2 月の試験に向けた練習
15	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2 月の試験に向けた練習

《職業に関する科目》

科目名	医事コンピュータ実務				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13 (知識と理解)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-22 (技能)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

診療録や伝票から得られた情報から、診療報酬算定対象となる医療行為を抽出し、算定の根拠と要件を確認し、適正な医療費の請求とレセプト作成を心がけなければならない。そのためには、診療録の読解力と診療報酬点数表の理解が重要になる。医事オペレーターには、より高度な専門知識と正確かつ、迅速な処理能力が求められる。医学・医療、薬学、医療保険制度や診療報酬点数等総合的に理解した医事オペレーターをめざす。

《授業の到達目標》

- ①医療保険制度や診療報酬点数表が理解できる。
- ②診療録から医療行為を読み取り、診療報酬点数との関係が理解できる。
- ③レセプトコンピュータの基本的操作の習得ができる。
- ④診療録を読み取り、迅速に医療費の計算ができる。

《成績評価の方法》

学科問題 (10%)
 レセプト作成 (50%)
 受講態度 (40%)
 ≪試験のフィードバック方法≫
 期末試験後に解説を行なう。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「医事NAVIⅢ操作テキスト」、「カルテ例題集」(ケアアンドコミュニケーション)、「医科点数表の解釈28年4月版」、「薬効・薬価リスト」(社会保険研究所)

《参考図書》

「医療者のための保険診療基礎知識」(社会保険研究所)等、講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：治療の専門用語や医療行為の手順、使用される医療材料や薬剤を覚える。(15分)
 事後学修：①「医科点数表の解釈」を理解する。(20分)
 ②各診療区分の医療行為や検査区分毎の検査名を覚える。(25分)

《備考》

実務経験 実務家教員による授業
 医事業務、診療報酬請求事務、医事コンピュータ・電子カルテシステム使用による業務及び保守管理。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	平成30年度診療報酬点数表の理解-1	①診療報酬点数のしくみと点数の理解
2	平成30年度診療報酬点数表の理解-2	②診療報酬点数のしくみと点数の理解
3	平成30年度診療報酬点数表の理解-3	③診療報酬点数のしくみと点数の理解
4	平成30年度診療報酬点数表の理解-4	③診療報酬点数のしくみと点数の理解
5	医事コンピュータの基本操作	①自己フォルダー作成(マイデータ保存用) ②システムの起動と終了 ③カルテの読み方の基本
6	外来会計-1	①「外来業務の流れ」の理解 ②患者情報・傷病名・医療行為等の基本入力例題①
7	外来会計-2	外来例題② 会計入力とレセプト点検
8	外来会計-3	外来例題③ 会計入力とレセプト点検
9	外来会計-4	外来例題④ 会計入力とレセプト点検
10	入院カルテ-1	「入院の流れ」の理解、施設基準、患者情報・傷病名について DPC/PDPSの考え方-入院例題①
11	入院カルテ-2	入院例題①の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換
12	入院カルテ-3	入院例題③ 会計入力とレセプト点検
13	入院カルテ-4	入院例題②の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換
14	入院カルテ-5	入院例題③ 会計入力とレセプト点検
15	入院カルテ-6	入院例題③の復習 会計入力とレセプト点検、DPC/PDPS変換

科目名	理数基礎A				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

本科目は、理科や数学といった科目を苦手としてきた学生を対象として、いわばこれまでの復習を行い、知識の掘り起しをねらうものである。前半は算数・数学に関わる懐かしい話題を、後半は理科分野の中から主に化学、生物に関する話題をはじめ、データを読み取る力（Data-Based Thinking）の問題にも触れる予定。本科目を受講することで、今後の専門教育への導入がスムーズになれば幸いである。

《授業の到達目標》

1. 日常生活上、必要とされる数学の基本的な計算、数式を理解している。2. 化学、生物分野を中心とした生活上の理科の基本を理解している。3. 各種データに見られる数字情報を誤解なく、ロジカルに認識できる。

《成績評価の方法》

テストの結果を重視（中間試験40％、期末試験40％）するが、平常点（受講態度・提出物・小テストなど、20％）も加味し、総合的に評価する。

《フィードバックの方法》

テスト実施後もしくは翌週に解説（30分程度）を行う。

《テキスト》

特になし。
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

1. 小宮山博仁 著「大人に役立つ算数」（文芸春秋）
2. 西口正 著「大人のお勉強 算数編」（PHP研究所）
3. 仲田紀夫 著「おもしろ数学」（三笠書房）

《授業時間外学修》

1. 配布された資料をもとにした復習（15分程度）
2. その他適宜授業中に提示する。

《備考》

授業後半では、5～6人でのグループワークを取り入れる予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 算数・数学①	授業のすすめ方 算数キホンのキ～計算が速くてうまくなる
2	算数・数学②	割合、比率、分数など ～賢いショッピングのために…
3	算数・数学③	平均算、和差算 ～テストの点数はいくつになるか？
4	算数・数学④	鶴亀算 ～懐かしい「連立方程式」の登場です
5	算数・数学⑤	数や単位というもの① ～数字の世界って、意外とあいまい
6	算数・数学⑥	数や単位というもの② ～数字の世界って、意外とあいまい
7	算数・数学⑦	前半まとめ
8	理科①	水溶液の作り方 ～調理人には切っても切れない科学です
9	理科②	エネルギーと代謝 ～我々は何からエネルギーをとりいれ、どのように消費するのか？
10	理科③	力学 力はどの方向に向くのか
11	Data-Based Thinking①	数字を扱う各種データの見方
12	Data-Based Thinking②	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう①
13	Data-Based Thinking③	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう②
14	客観的情報伝達	グループワーク（情報をかたちに）
15	客観的情報伝達 まとめ	グループワーク（情報をかたちに）、まとめ

科目名	統計学				
担当者氏名	吉田 誉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

統計学的推論、検定の計算処理は、コンピュータを用いて多く行われている。しかし、どの方法を用いるのか、得られた結果をどのように解釈するのかという判断は、自分自身で行う必要がある。本講義では、具体的な例を通して、統計学の基礎を学ぶ。

《テキスト》

①必要に応じて配布プリントがある。

《参考図書》

※統計学・統計処理などの書籍はたくさんあるので、ご自身で一番読みやすいものを見つけて購入または図書館などで借りて学習に役立ててください。

《授業の到達目標》

- ①数値に対する処理方法ができる。
- ②統計解析の概念と処理方法を理解できる。
- ③関数電卓を用いて簡単な統計処理ができる。
- ④コンピュータ上で統計処理ができる。

《授業時間外学修》

- ①配布した統計の演習問題を解いておくこと。
- ②関数電卓が扱えるようにしておくこと。
- ③表計算ソフトウェア(Excelなど)が使えるようにしておくこと。
- 事前学修：プリントを読んでおくこと(20分程度)。
- 事後学修：プリントに講義で学んだことを追記して読み直す(20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①期末時に実施する定期試験またはレポート課題(90%)
- ②平常点(10%)
- 《学生へのフィードバックの方法》
- 講義終了後にレポートの内容に対して説明をする。

《備考》

講義のほかに、PCを使った演習などがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	数値の扱い方	四捨五入と四捨六入、有効数字、小数点、まるめと総和・平均値
2	処理の流れ	平均値～偏差～偏差平方和～分散～標準偏差（偏差値）
3	基準値	正規分布（標準正規分布）
4	代表値	平均値・中央値・最頻値・パーセント・クォンタイル・歪・尖度・標準偏差）とデータ分類（尺度）
5	母集団と標本	大数の定理、中心極限の定理、サンプル、Z分布、t分布
6	推定	区間推定と点推定
7	検定①	パラメトリック 母平均 1 標本検定
8	検定②	パラメトリック 母比率 1 標本検定
9	検定③	パラメトリック 母平均 2 標本検定
10	検定④	パラメトリック 母比率 2 標本検定
11	検定⑤	ノンパラメトリック 適合度 1・2 標本検定
12	検定⑥	ノンパラメトリック 独立性 1・2 標本検定
13	検定⑦	ノンパラメトリック その他
14	度数分布	ヒストグラム・棒グラフ
15	相関	正負の相関・無相関、回帰直線

《教養科目 一般教養》

科目名	教養基礎				
担当者氏名	水野 敦子、丸川 浩、鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間生活に関わる基本的な知識を修得するため、中学・高校で学んだ知識から、社会に出て行くために必要な基礎的な教養までを勉強する。国語、数学、英語、理科、社会、時事問題の6教科を扱い、授業は学生が問題を解き、それを教員が解説していくという形式で進めていく。就職試験、公務員試験、四年制大学への編入試験を目指す学生はもちろんのこと、社会人としての一般常識を学びたいと思う学生も受講してほしい。

《授業の到達目標》

①漢字、熟語、故事成語など国語の基本的な語彙力を習得する。②数学的知識の応用ができる。③理科一般の基本的な知識を習得する。④英語の文法や語彙・熟語の基本的な知識を習得する。⑤英語の国際時事略語や英語表示などを理解する。

《成績評価の方法》

1. 小テスト 30%
2. 期末試験 70%

《試験へのフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：

- ・課題について調べる。（30分）
- ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、TVニュースを見る。（30分）

事後学修：課題をもう一度やる。（20分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国語語彙問題①	言語能力問題
2	国語語彙問題②	四字熟語①
3	国語語彙問題③	四字熟語②
4	国語語彙問題④	現代社会用語
5	国語語彙問題⑤	まとめ、小テスト
6	数学①	虫食い算、整列
7	数学②	仕事算、水槽算
8	数学③	旅人算、通過算、流水算
9	理科①	物理、化学、生物、地学
10	理科②	理科一般常識、数学・理科まとめ、小テスト
11	英語①	国際時事略語、英語のことわざ、英語表示
12	英語②	ビジネス英語、カタカナ英語
13	英語③	英文法
14	英語④	熟語、構文
15	英語⑤	まとめ、小テスト

《教養科目 一般教養》

科目名	社会学				
担当者氏名	相田 美穂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			
		◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。			
		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			
		◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			
		○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

社会学は、身の回りの身近な事柄を対象とするものです。講義でとりあげるのは、おたくを中心としたサブカルチャー、恋愛、性の商品化、ウソの4つです。講義の目的は、「社会学でのものの見方」から身近な事柄を見直すことで、今までと異なった見方で社会の仕組みを考え、自分の行動を選択できるようになるということです。なお、講義は受講者の皆さんの関心や理解に応じて進めていきます。

《授業の到達目標》

- ①講義を通じて学んだ「社会学のものの見方」を通じて、身近な事柄を捉えることができる。
- ②身近で起こっている事柄に関心を持つことができる。
- ③身近な事柄について、「社会学のものの見方」を通して問題を発見することができる。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、提出物と講義への参加（50％）を基準に、総合的に評価する。
期末レポートおよび提出物について、講評の時間または講義内で解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	講義の目的、進め方、履修上の注意事項について。
2	サブカルチャーとは	サブカルチャーをめぐる考え方を学習します。
3	おたくイメージ	おたくイメージを、映像資料を通じて読み解きます。
4	おたくイメージの変遷	おたくイメージの形成と移り変わりについて、資料を通じて学びます。
5	おたくをめぐるジェンダー	おたくイメージとジェンダー（性別）のかかわりについて考えます。
6	恋愛の定義	恋愛を社会学のものの見方で捉えるための定義づけをします。
7	恋愛する資格	恋愛する資格とは何かを考えていきます。
8	セックスとジェンダー	性をめぐる考え方を学びます。
9	性をめぐる社会のまなざし	映像資料を用いて、性が社会の中でどのように捉えられているのかを読み解きます。
10	性の商品化をめぐる法律	性の商品化を規制する法律が、性商品の多様化を生み出した経緯を学びます。
11	性商品の消費者／労働としての性	商品化された性の買い手と売り手のそれぞれが置かれている状況について学びます。
12	「ウソつき」とはどんな人？	ウソはよくない／うまくウソをつけ、という考え方が、それぞれどこから生じているのか考えます。
13	ウソは解釈によって生まれる	ウソについて、だます人／だまされる人／観察者の三つの視点から捉えていきます。
14	ウソが社会をつくる	信じるからだまされる／だまされるから社会が作られる、という考え方を学びます。
15	実社会の中でのウソ	実社会で起こったウソをめぐる現象について、これまで学習した内容を踏まえて考えます。

《テキスト》

中根光敏『浮気な心に終わらない旅を——社会学的思索への招待』松籟社

《参考図書》

講義内で指示します。

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：次回講義までに、テキストの該当する章に芽をとoshi、わからないことは調べたり、質問できるように準備をする。
事後学修（60分）：講義で学んだ章を整理し、身近な事柄との関連について自分の考えをまとめる。

《備考》

講義では映画やテレビ番組などの視聴覚資料を用います。受講者の理解や関心に応じて、シラパスの内容を変更する場合や、グループ学習を行うことがあります。

《教養科目 一般教養》

科目名	こころと行動				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①心理学の基礎的・一般的な知識を習得し、説明することができる。
- ②他者の言動や心理を理解するための視点を持つ。
- ③自分自身のこころの動きや行動、発達過程を内省する意識を持つ。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. 試験（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《試験のフィードバックの方法》

期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

科目名	生活と化学				
担当者氏名	矢野 卓雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

我々の周りには様々な物質が存在し、役立つ物もあれば危害を加える物もある。これらの複雑多岐にわたる物質も、基本となる数十種類の元素からなり、この組み合わせり方によりその物質の性質は決まってくる。この講義では、生涯役立つ化学の学識を習得するために、無機化学、有機化学、生物化学、栄養化学、食品化学などの分野の実生活に関連した事項を例に挙げながら説明する。

《授業の到達目標》

- ① 身の回りの化学物質の名称や起源、性質を説明できる。
- ② 有用物質の特性や利用方法を説明できる。
- ③ 有害物質の特性や対処方法を説明できる。

《成績評価の方法》

- ① 平常点（受講態度、レポート、小テスト）20%
- ② 期末試験（80%）記述式
《試験のフィードバック方法》小テストについては次回の講義にて、期末試験については期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一著
「食を中心とした化学」東京教学社

《参考図書》

指定しない

《授業時間外学修》

事前学修・テキストを読み、自力では理解できない部分を明確にしておくこと。（20分程度）
事後学修・学習した内容をその日のうちに復習し、理解しておくこと。（45分程度）・復習で理解できなかった内容は、次回の講義で質問し、理解するまで指導を受けること。

《備考》

授業中に重要な事項を示すので、重要事項は100%理解すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	身近な化学物質 1 有機化学物質	講義の概要、身近な化学物質、アルコール、メタンガス、プロパンガス、など
2	身近な化学物質 2 水	役割、水分子、極性、水素結合
3	物質の成り立ち	元素記号、原子の構造、電子配置
4	原子構造と特性	電子配置、原子の安定化、イオン
5	物質の構造	構造式、化学結合
6	物質の変化	反応、熱、栄養価、触媒、酵素
7	化学反応	反応速度、化学平衡
8	物質の状態	固体、液体、気体、気液平衡
9	濃度	溶解、濃度
10	溶液の性質	溶解度、浸透圧
11	光線	電磁波、紫外線、吸収剤、反射剤、環状炭化水素
12	電解質	酸、塩基
13	コロイド	タンパク質、脂質、糖質
14	官能基	アミン、アミド、異性
15	生物の中の化学物質	核酸、旨味物質、ビタミン、ミネラル まとめ

《教養科目 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅠ				
担当者氏名	石永 正隆、水野 敦子、高田 晃治、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

この授業は、初年次教育として、学園の沿革、地域の学習、地域連携等、本学の学生として充実した学生生活を過ごすための学習面と生活面のガイダンスで構成されています。学生としての責任ある行動や心構えを学び、個々の目標に沿った学生生活を送る指針としていただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
 事後学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューター、或いは、学科の授業担当者がチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講する。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー（学科①）	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使って説明する。ポータルサイトに今期の目標やキャリアチャートなどを入力する。
2	セミナーについて、レポートの書き方と読書の勧め	セミナーレポートを書く上での要領を学ぶ。図書館の利用方法と読書の大切さについて
3	学園の沿革と建学の精神（学長）	学園の創立からの歴史を振り返り本学の建学の精神と教育目標について話す。実践目標愛優輝について事例を上げ、目標に近づけるよう学生生活を過ごすことを勧める。
4	大学生活の過ごし方（カウンセリングルーム堀内先生）	大学生が直面する悩みについて考える。また、カウンセリング・ルームの利用方法について学ぶ。
5	選挙の仕組みと重要性について学ぶ	選挙権を行使するに当たり必要な基礎知識としてその仕組みと重要性について実際にそこに関わっている選挙管理委員会の方から学ぶ。
6	消費者教育	
7	地域理解 ①廿日市市 ②宮島学	廿日市市・宮島の歴史文化・風土などに触れ、地域の特性に詳しい行政担当者・観光協会担当者から具体的な情報を聞き、どう地域貢献に繋げるかを学ぶ。
8	社会貢献（献血活動を通じて）	社会人として必要な社会貢献の意識を日頃血液センターで実際に献血活動に関わっている方の話を通して学ぶ。
9	防災・自助と共助を学ぶ	個々の備えと助け合いが必要な防災についてや、具体的な佐方地区の防災体制について、地域の防災担当や自治会の方から学ぶ。
10	青少年犯罪の被害者にならないために	青少年犯罪の現状を知り、被害者にならない為に日頃から意識することや、実践的な対処法を現場の警察の方から学ぶ。
11	情報倫理（個人情報と守秘義務）	職務上知った「秘密を守る」ことや、「個人情報を開示しない」といった、個人の権利や利益を守るための法律上の義務について、一緒に考える。
12	命を考える	人として、今後母親としてそれぞれの視点から「命」や「命を授かる」といったことを日頃人の生死にかかわる仕事をされている助産師の方から体験談を通して考え学ぶ。
13	平和を考える	被爆体験者の方からの体験談を通して「平和について」学び、今後、自分がどのように平和と関わっていけるかについて考える。
14	進路について考える	本学の就職に関する現状の説明及び就職に向けて今後取り組むべきことを就職指導部担当より学ぶ。
15	コミュニケーションアワー(学科②)	期末試験対策と夏季休暇中の有意義な過ごし方について、ポータルサイト入力（今期の反省、キャリアチャート）

《教養科目 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅡ				
担当者氏名	石永 正隆、水野 敦子、高田 晃治、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。			

《授業の概要》

この授業では、自己の適性に合った卒業後の進路選択の方法、就職活動の仕方や試験対策、就職の心構えなどを学ぶ。卒業後の進路は、就職、4年制大学への編入、専攻科や専門学科への進学など多岐にわたっている。授業を通して、で自分が進みたい進路や自分の適性に合った業種・職種を早く見つけ、個々の目的に向かって進んでいただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
事前学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに、今期の目標、キャリアチャートなどを入力する。
2	自分と向き合う	自分と向き合い、自分自身について考える。(カウンセリングルーム 堀内先生)
3	女性の体と病気	生涯を通し女性として知っておきたい体と病気の基礎知識とその予防や対処について医療現場で活躍されている女性医師の話を通して学ぶ。
4	(就職対策講座①) 就職ガイダンス	次年度本格化する就職に向けた準備として「就職のてびき」の内容に基づいた就職活動に向けてのポイントを就職指導部担当者より学ぶ。
5	(就職対策講座②) 環境ホルモンとその影響	現在自分を取り巻く地球環境がどのようになっているのかについて、特に環境ホルモンとその影響について専門の研究者から学び自分が今後出来ることは何かについて考える
6	(就職対策講座③) 国際情勢を知る	現在自分を取り巻く国際情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国際貢献とは何かについて理解するポイントを外務省担当職員から学ぶ。
7	(就職対策講座④) 国内情勢と新聞の読み方	現在自分を取り巻く国内情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国内の政治や経済などに理解を深めるポイントを新聞の読み方と共に新聞記者経験者から学ぶ。
8	(就職対策講座⑤) 就職のための身だしなみ	就職活動に大切な第一印象の対策として重要なスーツの着こなしやヘアメイクの専門家の方から実践的に学ぶ。
9	(就職対策講座⑥) 自己分析① 職務適性テスト	適性診断テストの実施を通して就職活動を意識し、今後の自己の方向について改めて考えるきっかけとする。
10	(就職対策講座⑦) 自己分析② 自己PR	自己分析①で行った適性診断テストの内容や多方面からの自己の振り返りを行い、自己理解について考える。
11	(就職対策講座⑧) 人との出会いを考える	ヴィオラ奏者から、実際に演奏を聴き、留学や国内外でのコンサートを通じて世界中の方との出会いと、人間関係の大切さを経験談から学ぶ。
12	(就職対策講座⑨) イマジマップ 自分のビジョン	現状の自分を知り、そこからキャリアやライフビジョンをイメージしていく力をイメージマップを作りながら実践的に学ぶ。
13	(就職対策講座⑩) 就職活動体験報告	就職活動を終え内定を得た各学科コースの2年生から就職活動の現状やポイント、又反省点などについての発表を聞き、今後の就職活動について学ぶ。
14	(就職対策講座⑪) インターネットによる就職活動	次年度の就職活動に向けインターネットによる就職活動の方法を学ぶ。(情報センター 章先生)
15	コミュニケーションアワー(学科②)	期末試験対策や、休暇中の学生生活にかかわる諸連絡および新2年生における学生生活と学修習慣について学ぶ。

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)
 ボランティア活動時間 (70%)
 《成績のフィードバック方法》
 活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
 「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)
 活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。
 事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	母と子の健康				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 女性の身体構造とその機能を理解している。
- ② 避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
- ③ 女性のライフステージと健康障害について理解できる。
- ④ 妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

① 平常点30% (授業態度10%・レポート20%)

② 期末試験 (70%)

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説する。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

谷田恭枝 著「新版 女性と生命」東海大学出版部
その他、プリント・映像資料

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
「ウィメンズ・メディカ」小学館
深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

- ・事前学修 (30分程度) : テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修 (15分程度) : 街中での妊婦や子供の様子や行動、母子関連のニュースに関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～月経のトラブルと炎症
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法と性感染症予防
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常・分娩の3要素
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・産褥期の異常
12	新生児	新生児の発達と生理的变化
13	成長と発達	小児期の成長と発達、栄養（離乳食）・生活
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑤	生命誕生・出産（DVD）

《教養科目 一般教養》

科目名	体育				
担当者氏名	室田 杏奈				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

ジャズダンスをはじめ、様々なダンスの基礎的実技を主体とする。
 まず身体の柔軟性・体力を身に付け、自己表現及び芸術的感性を育む。また音楽とダンスによる効果としてストレス解消、心のみずみずしさやリフレッシュなど自己開発を促す。
 さらには最新版の人気アーティストの曲による振り付けも行い、このクラスの魅力としていく。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①リズム、ステップを理解している。
- ②短い振り付けを覚えることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業で前回授業の振付を全員で踊ってもらうので、練習をしてくる。（10分～15分程度） 事後学修：毎週振付が進むので当日進んだ部分を自宅で練習する（10分～15分程度）

《成績評価の方法》

- ①授業態度（80％）
 - ②体力テスト・ダンスの表現力（20％）
- 〈課題へのフィードバック方法〉
 実技後その内容について講評の時間を設ける。

《備考》

動きやすい服装、上履き専用のスニーカーを準備すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ストレッチ	ウォームアップから始める
2	ストレッチ	体の伸ばしている部分を理解、学ぶ
3	基本テクニック	体幹を鍛える
4	筋肉トレーニング	腹筋・背筋・側筋などを鍛える
5	アイソレーション	体を部分的に動かしていく
6	アイソレーション	応用した動きを覚える
7	リズムトレーニング	基本的な動き
8	リズムトレーニング	応用した動き
9	テクニック	ターン・ジャンプなどダンスに必要な技術を身につける
10	クロスフロー	ステップを踏む
11	コンビネーション	短い振り付けを覚えていく
12	コンビネーション	さらに振り付けを足していく
13	コンビネーション	構成を取り入れていく
14	コンビネーション	グループに分かれて練習する
15	前期のまとめ	前期に学んだことの確認

《教養科目 一般教養》

科目名	日本事情Ⅰ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生の授業である。本学における専門的な授業の理解や単位の取得を効果的に進めるためには、日本語をマスターするだけでなく、日本の生活環境・習慣の違いを理解することが重要である。この授業は伝統文化から現代社会び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。（30分）
事後学修：授業で配付されたものを復習する。（20分）

《成績評価の方法》

1. レポート（提出状況、内容）70%
2. 平常点（受講態度）30%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	心構え	留学生としての心構えを説明する。
3	異文化間コミュニケーション①	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	異文化間コミュニケーション②	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
5	こころのケア①	留学生のこころのケアについて解説する。
6	こころのケア②	留学生のこころのケアについて解説する。
7	日本の医療事情	「病気になった時はどうすればいいか」ということから日本の医療事情を解説する。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活①	日本人の食生活を解説する。
14	日本人の食生活②	日本人の食生活を解説する。
15	まとめ	受講した感想、日本社会について話し合う。

《教養科目 一般教養》

科目名	日本事情Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生の授業である。
「日本事情Ⅰ」に引き続いて、日本に関するさまざまな事情を
学び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。（30分）
事後学修：授業で配付されたものを復習する。（20分）

《成績評価の方法》

1. レポート（提出状況、内容）70%
2. 平常点（受講態度）30%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	異文化間コミュニケーション①	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
3	異文化間コミュニケーション②	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	日本の健康事情①	日本人の健康問題における現状を解説する。
5	日本の健康事情②	日本人の健康問題における現状を解説する。
6	こころのケア①	留学生のこころのケアについて考える。
7	こころのケア②	留学生のこころのケアについて考える。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活	日本人の食生活を解説する。
14	日本のポップカルチャー	日本のアニメやポップスなどのポップカルチャーについて解説する。
15	まとめ	受講した感想などについて話し合う。

科目名	英語 I				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			

《授業の概要》

スポーツ用品メーカーを舞台にして、アメリカ人と日本人の同僚が会社の内外で様々なことを体験する様子が描かれたテキストを使用する。英語でのコミュニケーション能力を養うために、高校までに学んだ基本的な文法事項を復習しながら、英語を聞き、読み、話し、書く活動を行い、簡単な日常会話や自分自身のことを英語で表現できるようにする。各ユニットは2回の授業で行う。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③英語で自分のことを言えるようになる。

《成績評価の方法》

1. 期末試験 50%、2. 中間試験 20%、3. 課題 20%、4. 学修ノート 10%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara 「English First Basic」
（金星堂）

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」（開隆堂）
その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業時間外学修》

学修ノートを準備し、事前・事後学修の内容を記す。
事前学修（20分）：教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。
事後学修（30分）：課題をする。会話やリーディングの読みの練習をする。

《備考》

学修ノートには、事前学習で調べたことと、授業中に重要だと思ったことを記す。学修ノートは期末試験終了後に提出してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス Pre-Unit、発音練習	授業の進め方、成績評価の方法、勉強の仕方を説明する。 英語と日本語の語順の違い、発音の違いを学ぶ。
2	Unit 1 動詞の現在形①	be動詞と一般動詞の現在形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
3	Unit 1 動詞の現在形②	be動詞と一般動詞の現在形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴いて動詞の現在形について確認する。
4	Unit 2 代名詞①	代名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
5	Unit 2 代名詞②	代名詞について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴いて代名詞について確認する。
6	Unit 3 時を表す前置詞①	時を表す前置詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
7	Unit 3 時を表す前置詞②	時を表す前置詞について、リーディングとライティングを学ぶ。 英語の歌を聴いて時を表す前置詞について確認する。
8	中間試験 Unit 4 基本5文型①	中間試験を行う。 英語の基本5文型について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
9	Unit 4 基本5文型②	基本5文型について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら基本5文型を確認する。
10	Unit 5 動詞の過去形①	過去形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
11	Unit 5 動詞の過去形②	過去形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら過去形を確認する。
12	Unit 6 進行形①	進行形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
13	Unit 6 進行形②	進行形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら進行形を確認する。
14	Unit 7 未来形①	willと be going toの細かいニュアンスの違いについて、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
15	Unit 7 未来形②	willと be going toの細かいニュアンスの違いについて、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴きながら、未来形について確認する。

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			

《授業の概要》

前期に引き続き、スポーツ用品メーカーを舞台に、アメリカ人と日本人の同僚が会社の内外で様々なことを体験する様子が描かれたテキストを学ぶ。英語でのコミュニケーション能力を身につけるためには、地道な努力が必要であるので、授業での様々な活動に積極的に参加し、課題を着実にこなしてもらいたい。各ユニットは2回の授業で行う。

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara「English First Basic」
（金星堂）

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」（開隆堂）
その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③自分のことを英語で表現できるようになる。

《授業時間外学修》

学修ノートを準備し、事前・事後学修の内容を記す。
事前学修（20分）：教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。
事後学修（30分）：課題をする。会話やリーディングの読みの練習をする。

《成績評価の方法》

1. 期末試験 50%、2. 中間試験 20%、3. 課題 20%、
4. 学修ノート 10%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

学修ノートには、事前学習で調べたことと、授業中に重要だと思ったことを記す。学修ノートは期末試験終了後に提出してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	Unit 8 助動詞①	助動詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
2	Unit 8 助動詞②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて助動詞について確認する。
3	Unit 9 to不定詞・動名詞①	to不定詞・動名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
4	Unit 9 to不定詞・動名詞②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて、to不定詞・動名詞について確認する。
5	Unit 10 現在完了①	現在完了について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
6	Unit 10 現在完了②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて現在完了について確認する。
7	中間試験 Unit 11 接続詞①	中間試験を行う。 接続詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
8	Unit 11 接続詞②	接続詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて接続詞について確認する。
9	Unit 12 比較①	比較表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
10	Unit 12 比較②	比較表現について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて比較表現について確認する。
11	Unit 13 受動態①	受動態について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
12	Unit 13 受動態②	受動態について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて受動態について確認する。
13	Unit 14 分詞（現在分詞・過去分詞）①	分詞による修飾表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
14	Unit 14 分詞（現在分詞・過去分詞）②	分詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて分詞について確認する。
15	Unit 15 関係代名詞・関係副詞	関係詞について、リスニング、ライティング、リーディング、会話練習をしながら学ぶ。

科目名	中国語 I				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

中国語は日本語に似ているところが多いですが、外国語です。発音は一番難しいとされているので、初心者はず発音を習得しておきましょう。発音を練習すると同時に、中国語で簡単な挨拶表現を習得していきましょう。授業中はビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① テキストの発音編における単語が正しい発音で読むことができる。
- ② 簡体字の書き方を記憶している。
- ③ 物事を判断する表現ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業前に新しい授業内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：中国語の発音をよく練習し、新しい単語と言葉を暗記すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ① 平常点(小テスト、授業課題など) 30%
 - ② 中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	中国語と簡体字	中国語の特色、簡体字の様態と書き方
2	声調	四つの声調の習得
3	基本母音	六つの基本母音の習得
4	子音	子音は21個ある
5	声調変化	話し言葉における声調変化
6	複合母音	日本語よりずいぶん多い
7	鼻音	nとngは発音が違う
8	中間まとめ	中国語発音のまとめ、中間試験(1～7)
9	語順と文法	基本的構造「我読書」(SV0)を習得
10	品詞の分類	文法を知る第一歩は品詞を知ること
11	判断を示す表現	「私は日本人です」
12	疑問を示す表現	「これは何ですか?」
13	よく使われる挨拶用語	「こんにちは」「どういたしまして」
14	名前の聞き方	「あなたの苗字は何ですか?」
15	期末まとめ	9～14回までの中国語文法と表現のまとめ

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

引続き一歩踏み込んだ勉強をしましょう。発音を練習しながら、日常生活に使われる言葉を中国語で表現してみましょう。基本動詞、形容詞などの使い方を習得しましょう。授業中はまたビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① テキストの会話文が正しい発音で読むことができる。
- ② 習った文型で簡単な文を作ることができる。
- ③ 簡単な自己紹介と挨拶ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業の前に新しい内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：習った中国語の言葉を使って会話を練習すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ① 平常点(小テスト、授業課題など) 30%
 - ② 中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する
 試験60分、解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	歳の聞き方	「あなたはおいくつですか？」
2	数字と家族の呼び方	「おじいちゃんの年は？」
3	時刻の言い方	「今日は何曜日ですか？」
4	形容詞の使い方	「今日の天気はいかがですか？」
5	動作の表現	「あなたは毎日何時に起きますか？」
6	所在の表現	「あなたは家にいますか？」
7	完了の表現	「どこに行きましたか？」
8	中間まとめ	1～7回の授業内容のまとめ、中間試験
9	命令、請求の表現	「どうぞ、お入りください」
10	禁止命令の表現	「行かないでください」
11	お金の言い方	「これはいくらですか？」
12	可能の表現	あなたは運転できますか？」
13	受身の表現	「私は先生にしかったです。」
14	使役の表現	「お父さんは遊びに行かせてくれません。」
15	期末まとめ	9～14回の授業内容のまとめ

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅰ				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎　3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

我が国の診療報酬は点数単価方式といって、診療料、投薬料、注射料など診療行為ごとに点数が定められています。これらの点数は、診療報酬点数表としてまとめられています。この授業では、診療行為ごとに定められた点数の算定方法と診療報酬明細書への記載要領、明細書の点検を学習します。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3・・・診療報酬点数算定」「テキスト4・・・診療報酬明細書」「スタディブック1・・・慣用点数早見表」「スタディブック2・・・診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①点数の算定方法・算定条件を理解している。
②薬剤料、特定保険医療材料料（酸素等）の計算ができる。
③診療報酬明細書の記載要領を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各診療行為について、冒頭の学習内容に目を通しておくこと。（10分程度）
事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
②基礎問題集の問題を、テキスト等参考資料を調べながら解く（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70％
②平常点（授業態度　確認テスト　提出物）30％
《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験終了後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	初診料　再診料 外来診療料	初診料　再診料　外来診療料　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
2	投薬	薬剤料　調剤料　処方料　調剤技術基本料　処方せん料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
3	注射	薬剤料　注射実施料　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
4	処置 1	一般処置　救急処置　皮膚科処置　泌尿器科処置　産婦人科処置　眼科処置 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
5	処置 2 リハビリテーション	耳鼻咽喉科処置　整形外科的処置　栄養処置　ギプス　リハビリテーション （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
6	精神科専門療法 放射線治療　手術	精神科専門療法、放射線治療　（算定方法、明細書の記載要領と点検）練習問題 手術点数の検索　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
7	輸血 麻酔	保存血液輸血、自家採血輸血、自己血貯血、自己血輸血　保存血液代 麻酔、神経ブロック（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
8	検体検査 1	採取料　検体検査判断料　検体検査実施料…尿・糞便等検査、血液検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
9	検体検査 2	検体検査実施料…生化学的検査 1　生化学的検査 2　免疫学的検査　微生物学的検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
10	生体検査 1	呼吸循環機能検査等　超音波検査等　監視装置による諸検査　脳波検査等　神経・筋検査　耳鼻咽喉科科学的検査　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
11	生体検査 2	眼科学的検査　負荷試験等　内視鏡検査　その他の検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
12	病理診断 入院料	病理診断・判断料　病理標本作製料（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題 入院料、入院時食事療養費　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
13	画像診断	エックス診断料　コンピュータ断層撮影診断料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
14	医学管理	特定疾患療養管理料　特定疾患治療管理料　その他の医学管理料（診療情報提供料、薬剤情報提供料）（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
15	在宅医療	在宅患者診療・指導料　在宅療養指導管理料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅱ				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎　3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

診療報酬請求事務演習Ⅰ（点数表の算定）で学習したことを基にして、カルテと診療報酬明細書を突き合わせて点検を行う。誤りを発見できる眼を養っていく。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3…診療報酬点数算定」「テキスト4…診療報酬明細書」「スタディブック1…慣用点数早見表」「スタディブック2…診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

①診療報酬明細書（レセプト）の記載要領を理解し、迅速かつ正確な点検（誤りの発見）ができ、さらに正しく訂正することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：スタディブック1の各診療行為点数の参照ページを確認しておくこと（10分程度）
事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
②授業中に実施した点検問題の間違い個所の復習（20分程度）

《成績評価の方法》

①期末試験　70％
②平常点（授業態度、確認テスト、提出物）30％
《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（5分程度）
期末試験：試験終了後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	明細書点検	医事システムにおける保険請求　点検にあたって
2	明細書点検 基礎（外来）	カルテとの照合（外来） 外来の点検手順　点検ポイント
3	明細書点検 基礎（入院）	カルテとの照合（入院） 入院の点検手順　点検ポイント
4	明細書点検 カルテ1	カルテとの照合（外来） 上書き　外来栄養食指導料　生化学的検査　検査の重複算定　練習問題
5	明細書点検 カルテ2	カルテとの照合（外来） 特定薬剤治療管理料　投薬（外用薬、特定疾患処方加算）検査　練習問題
6	明細書点検 カルテ3	カルテとの照合（外来） 時間帯の加算　薬剤情報提供料　整形外科的処置　画像診断　緊急時の加算　練習問題
7	明細書点検 カルテ4	カルテとの照合（外来） 在宅自己注射指導管理料　耐糖能精密検査と含まれる検査　練習問題
8	明細書点検 カルテ5	カルテとの照合（外来） 外来診療料　悪性腫瘍特異物質治療管理料と腫瘍マーカー　病理　練習問題
9	明細書点検 カルテ6	カルテとの照合（外来） 6歳未満のカルテ　休日加算　手術　ギプス　練習問題
10	明細書点検 カルテ7	カルテとの照合（入院） 即日入院　届出医療機関の時間帯の加算　手術料　緊急時の加算　練習問題
11	明細書点検 カルテ8	カルテとの照合（入院） 食事療養費　薬剤管理指導料　手術時の注射実施料　生（Ⅰ）入院時初回加算
12	明細書点検 カルテ9	明細書のみでの点検（外来）…点検要領、点検手順、明細書の訂正 てんかん指導料　2種類の特定薬剤治療管理料　熱傷処置
13	明細書点検 カルテ10	明細書のみでの点検（入院） 即日入院での初診料算定　食事療養費　検査の算定もれ
14	まとめ①	技能審査試験（実技2…レセプト点検）の過去問題を実施
15	まとめ②	技能審査試験（実技2…レセプト点検）の過去問題を実施

人間生活学科

医療事務情報Ⅱ

2年

-ス

《専門教育科目》

科目名	介護保険制度				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ☐ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ☒ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

急速な高齢化と高齢社会に伴い、急増する要介護高齢者と家族介護の現状を概観しながら、社会全体で介護を担うことの意義を理解し、新しい介護システムである介護保険制度の創設の意義について考える。介護報酬算定の仕組み、明細書の記載方法まで学ぶ。さらに、社会福祉制度、利用者との接し方や介護の基礎知識についても学ぶ。

《テキスト》

「介護事務講座テキスト1…介護保険請求実務」「テキスト2…社会福祉と人間関係」「別冊…介護保険請求実務 介護事務基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①介護保険制度が導入された背景や仕組みに習熟している。
- ②介護サービスの内容、高齢者に対する福祉制度を理解している。
- ③介護給付費明細書の記載ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：各単元のテキスト冒頭の学習ポイントに目を通しておくこと。（10分程度）
 事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
 ②授業中に行った基礎問題集の問題を復習する（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験 70%
- ②平常点（授業態度 確認テスト 提出物）30%

《試験のフィードバック方法》

確認テスト：返却時に解説（10分程度）
 期末試験：試験終了後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度概論	介護保険制度 介護保険制度の仕組み
2	介護保険制度概論	要介護認定 介護支援専門員 介護サービス計画の作成 練習問題
3	介護給付費請求の実際	訪問介護費 訪問入浴介護費 訪問看護費 居宅療養管理指導費 通所介護費 通所リハビリテーション費 短期入所生活介護費 福祉用具貸与費 練習問題
4	介護給付費請求の実際	居宅介護支援費 介護福祉施設サービス費 介護保健施設サービス費 介護療養施設サービス費 地域密着型サービス費 練習問題
5	介護給付費請求の実際	介護給付費の請求について 介護給付費明細書記載について 明細書記載（在宅サービス）練習問題
6	介護給付費請求の実際	明細書記載（在宅サービス）練習問題
7	介護給付費請求の実際	明細書記載（在宅、施設サービス）練習問題
8	介護給付費請求の実際	明細書記載（施設サービス）練習問題
9	社会福祉と人間関係	社会福祉の理念と意義 社会保障制度と社会福祉の概要 練習問題
10	社会福祉と人間関係	社会福祉援助技術 地域福祉の理念と内容・推進方法 練習問題
11	社会福祉と人間関係	現代社会における老人福祉 老人福祉法 高齢者に対する総合的援助 練習問題
12	社会福祉と人間関係	老化 高齢者・障害者の心理的、身体的特性と対応 練習問題
13	社会福祉と人間関係	リハビリテーション 接遇マナー 人間関係 コミュニケーションの技能 練習問題
14	介護概論 医学一般	介護の役割と範囲 成人・高齢者・障害者などの介護 人体の構造および機能 高齢者の代表的疾患
15	まとめ	確認テスト

《専門教育科目》

科目名	医療管理各論Ⅱ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

わが国の医療制度の特徴の一つである国民皆保険制度の維持には、国民総医療費の抑制も含めた医療制度改革が求められる。今日の診療報酬制度はDPC制度の導入等、大きな変化が続いている。DPCの請求には、診断名や診療行為等が規則に基づいて適正に記録され、管理されていることが前提となっている。本講では、医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度・請求までを学ぶことで、診療情報管理の重要性を知る。

《授業の到達目標》

- ①わが国の医療保険制度の歴史や現状・将来等が理解できる。
- ②診療報酬請求データの利活用が理解できる。
- ③DPC（診断群分類）による包括評価について理解できる。
- ④DPCの基礎調査データの分析等、具体的な手法を学び、経営管理指標が理解できる。

《成績評価の方法》

期末試験（40％） 中間試験（20点） レポート（10点）

受講態度（30％）

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説する。

（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ」（日本病院会）

《参考図書》

「医科点数表の解釈 平成30年4月」（社会保険研究所）
 「診断群分類のてびき 平成30年4月」（社会保険研究所）
 「介護保険制度の手引き平成30年4月」（社会保険研究所）
 厚生労働省資料等

《授業時間外学修》

事前学修：診療報酬や介護報酬の改定事項をまとめ、病院管理について調べる。（25分）

事後学修：前回学修した重要事項をノートにまとめる。（15分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
 医事業務、診療報酬請求業務、DPC様式1、様式3等のデータ提出業務、居宅介護支援事業所立上げ、介護保険請求業務等

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療保険制度 - 1	①医療保健の種類と保険給付・保険外給付
2	医療保険制度 - 2	②医療保健の種類と保険給付・保険外給付
3	医療保険制度 - 3	①わが国の診療報酬制度
4	医療保険制度 - 4	②わが国の診療報酬制度
5	医療保険制度 - 5	保険診療と医療費支払いの仕組み
6	医療保険制度 - 6	①診療報酬の請求について
7	医療保険制度 - 7	②診療報酬の請求について
8	わが国の診断群分類 - 1	①ケースミックス区分法と診断群分類 ②わが国の診断群分類誕生の背景
9	わが国の診断群分類 - 2	③DPC - 1
10	わが国の診断群分類 - 3	③DPC - 2
11	わが国の診断群分類 - 4	④DPCと包括評価 - 1 （システムを活用した出来高から包括評価への変換、様式1の理解）
12	わが国の診断群分類 - 5	④DPCと包括評価 - 2 （システムを活用した出来高から包括評価への変換、様式1の理解）
13	わが国の診断群分類 - 6	④DPCと包括評価 - 3 （システムを活用した出来高から包括評価への変換、様式1の理解）
14	介護保険制度 - 1	介護保険制度 - 1
15	介護保険制度 - 2	介護保険制度 - 2

《専門教育科目》

科目名	医療管理各論Ⅲ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-21 (技能)医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-22 (技能)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 3-30 (態度と志向性)学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

質の高い安全な医療を提供するためには、医療安全と医療の質管理が極めて重要である。医療事故の未然防止と事故後の適切な対応が医療安全活動の本質である。

2015年に始まった医療事故調査制度や医療事故の原因究明、再発防止等への理解と対応が求められる。

さらに、DPC/PDPSやNDB等、診療報酬制度におけるデータの活用が重要となる。

《授業の到達目標》

- ①DPC等診療データの活用と医療経営の関係が理解できる。
- ②医療事故の未然防止と事故後の適切な対応について医療安全活動の本質を理解する。
- ③チーム医療には情報の共有が重要であることから、診療情報管理士の役割を理解する。

《成績評価の方法》

期末試験 40% 中間試験 20点 レポート 10点
受講態度 30%
《試験のフィードバック方法》
(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ」(日本病院会)

《参考図書》

「医科点数の解釈 平成30年4月」(社会保険研究所)
「診断群分類のてびき」(社会保険研究所)
その他、適宜照会する。

《授業時間外学修》

事前学修：診療報酬データやDPC公開データに関心を持ち、病院管理について調べる。(25分)
事後学修：前回学修した重要事項をノートにまとめる。(15分)

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務・データ管理、電子カルテシステム事務局・保守管理、診療情報管理・医療安全管理委員会所属

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	安全管理-1	安全管理(セーフティマネジメント)①(医療安全概論)
2	安全管理-2	医療におけるリスクマネジメント
3	安全管理-3	ヒューマンエラー
4	安全管理-4	医療事故と医療過誤、医事紛争①
5	安全管理-5	医療事故と医療過誤、医事紛争②
6	安全管理-6	医療事故と医療過誤、医事紛争③
7	医療の質管理-1	医療の質管理、医療の質と保証
8	医療の質管理-2	チーム医療における診療情報共有
9	医療の質管理-3	医療の質マネジメントシステム
10	医療の質管理-4	医療の質評価と公表①
11	医療の質管理-5	医療の質評価と公表②
12	データの活用-1	診療情報管理における診療報酬請求データの活用(医療マーケティング)
13	データの活用-2	診療情報管理におけるデータの活用
14	データの活用-3	電子カルテデータ、オーダデータと医事会計データ 診療情報管理データと医事会計データ
15	まとめ	重要事項のまとめ

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理論Ⅱ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-12 (知識と理解)医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 1-13 (知識と理解)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-21 (技能)医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-22 (技能)医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

診療情報管理に関する業務は時代と共に多様化しており、より専門的な知識が求められている。医療に貢献する診療情報管理を実践していくための基礎を学習する。さらに、診療情報管理を実践する場で容易に想起され、対応できる基礎知識を修得する。診療情報管理実務、DPC情報管理・分析実務、地域連携業務分析実務の経験を活かした授業である。

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 専門・診療情報管理」（日本病院会）

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①診療情報管理士の基本業務や求められる資質が理解できる。
- ②診療情報を体系的・一元的に管理する手法が理解できる。
- ③紙カルテ、電子カルテ運用における対応が理解できる。
- ④診療情報管理に係る委員会活動が理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書を参考に、小テスト、復修問題を解き、理解に繋げる

《成績評価の方法》

期末試験（60％）
平常点(授業態度、課題提出状況など）（20％）
アクティブラーニング（20％）
《学生へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、病院実習を控え、積極的に情報収集する必要がある。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療情報管理士について	①診療情報管理士の教育資格制度 ②診療情報管理士の業務指針
2	診療情報管理士に求められる資質	①知識と技能 ②視点
3	診療情報管理士の基本業務 - 1	①診療情報を体系的・一元的に管理する業務 ②診療情報を安全に管理する
4	診療情報管理士の基本業務 - 2	③診療情報を点検する業務 ④診療情報を有効に活用する業務 ⑤診療情報を提供する業務
5	個人情報保護の視点からの保管管理	個人情報保護の視点からの保管管理 ディスカッション・プレゼンテーション
6	紙カルテ運用における診療情報管理 - 1	①保管法・番号法 ②保管期間、移動 ②所在管理、貸出管理、回収
7	紙カルテ運用における診療情報管理 - 2	③診療情報の点検 ④診療情報の利活用
8	電子カルテ運用における診療情報管理 - 1	①電子カルテの運用 ②記載内容と記載方法・場所の明確化
9	電子カルテ運用における診療情報管理 - 2	③紙媒体に作成された情報の保存 ④診療情報の点検 ⑤個人情報保護への対応
10	診療情報の提供に係る業務-1	①院内職員への情報提供 ②院外への情報提供
11	診療情報の提供に係る業務-2	③医療機能情報の提供制度 ④患者への診療情報の提供
12	診療情報管理士による改善への取り組み - 1	①医療の質の評価 ②医療安全管理
13	診療情報管理士による改善への取り組み - 2	③チーム医療 ④病院経営 ⑤ディスカッション・プレゼンテーション
14	診療情報管理士の活動組織 - 1	①診療情報管理部門
15	診療情報管理士の活動組織 - 2	②診療情報管理委員会 ③DPCコーディング委員会

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理論Ⅲ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

今日の診療情報管理士は、多種多様な業務を担っている。
これまで、診療情報管理Ⅰ・Ⅱで学んだ診療情報管理士の基本的実務の具体的実務として、DPC/PDPS、医師事務作業補助者、がん登録について、基礎知識を学習する

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ」（日本病院会）

《参考図書》

授業で、適宜照会する。

《授業の到達目標》

- ①診療情報管理士の多様な業務について理解できる。
- ②DPC制度の理解と、診療情報管理士のかかわりについて理解できる。
- ③医師事務作業補助者の業務が理解できる。
- ④わが国のがん対策とがん登録について理解する。

《授業時間外学修》

事前学修：診療報酬制度やDPC制度に感心を持ち、予習をする。（35分）

事後学修：前回学修した要点をノートにまとめる。（15分）

《成績評価の方法》

期末試験 40% 中間試験 20% レポート 10点

受講態度 30%

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説する。

（試験60分・解説30分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務、退院調査、診療情報管理業務、DPCデータ分析、がん登録、医師事務作業補助者教育等。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	DPC制度と実務-1	DPC制度と診療情報管理士(診療情報管理部門)との関わり
2	DPC制度と実務-2	退院調査（基礎調査）と診療情報管理士①
3	DPC制度と実務-3	退院調査（基礎調査）と診療情報管理士②
4	DPC制度と実務-4	退院調査（基礎調査）と診療情報管理士③
5	DPC制度と実務-5	病院指標の公開と診療情報管理士
6	DPC制度と実務-6	データの精度と診療情報管理士
7	DPC制度と実務-7	DPCデータの活用
8	医師事務作業補助者業務-1	医師事務作業補助者業務について
9	医師事務作業補助者業務-2	医師事務作業補助者の業務と体制
10	医師事務作業補助者業務-3	医師事務作業補助者業務者と診療情報管理士の関わり
11	がん登録の実務-1	わが国のがん対策とがん登録①
12	がん登録の実務-2	わが国のがん対策とがん登録②
13	がん登録の実務-3	がん登録種類 診療情報管理士とがん登録
14	データベース-1	レセプト情報について
15	データベース-2	特定検診等情報データベース（NDB）について

《専門教育科目》

科目名	国際統計分類Ⅰ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

「分類」とは、さまざまな現象を一定の法則にしたがって、同種類・類似集団に振り分けることを指す。診療記録中にある疾病や身体機能等に関連する情報をさまざまな目的に活用するものである。

本講では、人体構造や臨床医学等の知識を活かし、「国際疾病分類」の概念を基に、医療の場における疾病や傷害、機能、死因の選択等についての分類手法を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①わが国の人口動態統計の仕組みと意義を理解する。
- ②人口動態統計に用いられる国際疾病分類（ICD）についての理解、DPCへの活用について理解する。
- ③ICDと国際統計分類群（ファミリー）に属するその他分類体系についての理解を深め、健康情報関連の知識を理解する。

《成績評価の方法》

- 1. 期末テスト 40% 中間試験 20% レポート 10%
 - 2. 受講態度 30%
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。
（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ」（日本病院会）
「疾病、傷害および死因統計分類提要 第一・三巻2013年版」（厚生統計協会）、「ICF 国際生活機能分類」（中央出版）

《参考図書》

「平成30年度診療報酬改定DPC制度」（厚生労働省資料）
その他適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：①臨床医学の解剖学や医学の基礎を覚える。（20分）
②傷病名や診断方法、治療方法等、文献を調べる。（25分）
事後学修：国際疾病分類や機能分類等、前回の重要事項をまとめる。（15分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
診療情報管理業務、ICDコーディング、診療監査、データ分析、がん登録、DPC 退院調査様式1等作成。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国際疾病分類論 - 1	①わが国の人口動態統計 ②国際疾病分類（ICD）の歴史
2	国際疾病分類論 - 2	③国際疾病分類（ICD）の現状
3	国際疾病分類論 - 3	④国際疾病分類（ICD）の構造
4	国際統計分類ファミリー論 - 1	①国際統計分類群ファミリー（WHO - FIC）の構造
5	国際統計分類ファミリー論 - 2	②国際統計分類群ファミリー（WHO - FIC）の構造
6	国際統計分類ファミリー論 - 3	①国際疾病分類 - 腫瘍学（ICD - 0）
7	国際統計分類ファミリー論 - 4	②国際疾病分類 - 腫瘍学（ICD - 0）
8	国際統計分類ファミリー論 - 5	①国際機能分類（ICF）
9	国際統計分類ファミリー論 - 6	②国際機能分類（ICF）
10	国際統計分類ファミリー論 - 7	③国際機能分類（ICF）
11	国際統計分類ファミリー - 8	④その他の国際統計分類群ファミリー
12	国際疾病分類の利用 - 1	①原死因の選択ルール
13	国際疾病分類の利用 - 2	②主要病態の選択ルール
14	国際疾病分類の利用 - 3	①診断群分類（DPC）における国際疾病分類（ICD）の利用 - 1
15	国際疾病分類の利用 - 4	②診断群分類（DPC）における国際疾病分類（ICD）の利用 - 2 ③ICDを用いる上での注意点

《専門教育科目》

科目名	国際統計分類Ⅱ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

「国際統計分類演習Ⅰ」に引き続き、各章の分類体系および特徴を理解し、分類手法を学ぶ。

退院時要約や死亡診断書などにより、診療録の記載内容を把握し、統計上必要な分類コードを正確に選択できるよう、総合的に学習する。

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ」（日本病院会）
「疾病、傷害および死因統計分類提要 第一・三巻」（厚生統計協会）、「I C F 国際生活機能分類」（中央出版）

《参考図書》

「平成30年度診療報酬改定D P C 制度」（厚生労働省資料）、その他適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①解剖学等の知識を活かし、国際統計分類Ⅰの学習と関連付けながら、I C D-10の各章の学習をする。
- ②診療の記録を正しく読み取ることができる。
- ③傷病名や傷害、機能をルールに則り分類できる。
- ④病態の因果関係の考慮、原死因の適正な修正ができる。

《授業時間外学修》

- 事前学修：①臨床医学の解剖学や医学の基礎知識を覚える。（20分）
②傷病名や診断方法、治療方法について調べる。（25分）
事後学修：前回学修した重要事項をまとめる。（15分）

《成績評価の方法》

1. 期末試験 40% 中間試験 20% レポート 10%
2. 受講態度 30%
《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。
（試験60分・解説30分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
診療情報管理業務、ICDコーディング、診療録鑑査、データ分析、がん登録、DPC退院調査様式1等作成。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国際統計分類Ⅱ-1	国際疾病分類の基本 コーディングをはじめるにあたって
2	国際統計分類Ⅱ-2	I C D-10(2013年版) 準拠の概説
3	国際統計分類Ⅱ-3	I C D編さんの基準とその特徴 内容例示・索引表、用いられる表示記号と符号
4	国際統計分類Ⅱ-4	各章の演習①
5	国際統計分類Ⅱ-5	各章の演習②
6	国際統計分類Ⅱ-6	各章の演習③
7	国際統計分類Ⅱ-7	各章の演習④
8	国際統計分類Ⅱ-8	各章の演習⑤
9	国際統計分類Ⅱ-9	各章の演習⑥
10	国際統計分類Ⅱ-10	各章の演習⑦
11	国際統計分類Ⅱ-11	各章の演習⑧
12	国際統計分類Ⅱ-12	原死因コーディング①
13	国際統計分類Ⅱ-13	原死因コーディング②
14	国際統計分類Ⅱ-14	総合学習とD P CにおけるI C D演習①
15	国際統計分類Ⅱ-15	総合学習とD P CにおけるI C D演習②

科目名	医療統計学Ⅰ				
担当者氏名	清水 英俊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

医療における意思決定は診療情報に基づいて行われる。診療記録に含まれる診療情報を活用し、医療施設、医療職、患者、さらに医療政策を支援し、医療の質向上に寄与することが求められている。診療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学び、医療に従事する者に求められる診療情報のクオリティマネジメントの考え方を身に付けることを目的とする。

《授業の到達目標》

- ①統計データの処理法を理解する。
- ②表計算ソフトを用いた統計処理の方法を習得する。

《成績評価の方法》

期末試験（60％）
平常点（授業態度、課題など）（40％）
〔試験のフィードバックの方法〕
期末試験後に解説を行う。（試験60分、解説20分）

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅲ」日本病院会

《参考図書》

「診療情報管理士のためのやさしい医療統計学」日本病院会

必要に応じて適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：授業計画の学習内容に記載した語句の意味を調べておく（20分程度）
事後学修：準備学習で調べた語句に、授業で学んだことを追加して書く（10分程度）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	統計的方法	変量と尺度の種類と特徴
2	データの要約（記述統計学の方法）	度数分布とヒストグラム
3	データの要約（記述統計学の方法）	分布の中心を表す代表値
4	データの要約（記述統計学の方法）	分布のばらつきを示す散布度
5	データの要約（記述統計学の方法）	記述統計量の使い分け
6	統計学的推測の基礎	母集団と標本の考え方
7	統計学的推測の基礎	母集団の特徴に関する記述
8	統計学的推測の基礎	正規分布
9	統計学的推測の基礎	母平均の区間推定
10	統計的仮説検定	統計的仮説検定の考え方
11	統計的仮説検定	統計的仮説検定の手順
12	仮説検定に伴う2種類の誤り	第Ⅰ種、第Ⅱ種の誤り
13	よく使う検定手法	2群の平均値の差の検定
14	よく使う検定手法	割合の差の検定
15	2つの量的変数の関係	散布図、相関係数、回帰直線

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅳ				
担当者氏名	朝原 秀昭				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

精神疾患、神経疾患、眼・視覚障害、耳・聴覚障害の概要を学び、病態から診断法・治療法の流れを理解することを目的とします。

疾患・診断名と診療録に記載された検査手段・治療法などを適切に結び付け、診療情報管理に役立てるよう基本的知識を習得します。

《テキスト》

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」
日本病院会

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

- ①精神・神経・感覚器疾患の疾患名とその概要を理解している。
- ②疾患に関わる医学用語を理解している。

《授業時間外学修》

授業の内容は、多くの本や論文などを読むことで他人に説明ができる程度まで理解して来て下さい。事前学修も事後学修も同じことを何度も繰り返してください。
授業時間外学修の時間は、1単位につき授業時間を合わせて45時間以上になるように自分の学修進度に合わせて適宜調整すること。

《成績評価の方法》

試験…80%、平常点（受講態度）…20%
再試験は行いません。

《フィードバックの方法》
期末試験終了後に講評する。
試験60分・講評30分

《備考》

初めて聞く話を理解することは非常に難しいことです。
教えてくれるのを待っていても得られるものは少ないでしょう。 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	精神の疾患（1）	精神障害総論、認知症など
2	精神の疾患（2）	統合失調症、気分障害など
3	精神の疾患（3）	神経症、ストレス障害、摂食障害、身体表現性障害など
4	精神の疾患（4）	発達障害、パーソナリティ障害など
5	神経系の疾患（1）	筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病など
6	神経系の疾患（2）	脳血管障害、髄膜炎、脳炎など
7	神経系の疾患（3）	多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症など
8	神経系の疾患（4）	てんかん、筋ジストロフィー、脳性まひなど
9	眼・視覚に関する疾患	白内障、緑内障、網膜剥離、麦粒腫、結膜炎、眼球運動障害など
10	耳・聴覚に関する疾患	中耳炎、突発性難聴、メニエール病、めまい症など
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅵ				
担当者氏名	橋本 成史				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ○ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 3-30（態度と志向性）学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

病気の原因や症状の起こるメカニズムの基礎を学び、臨床医学を学ぶために必要な基礎知識を修得する。特に、消化器・泌尿器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を習得する。

《テキスト》

「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」日本病院会

《参考図書》
北村 論著「コメディカルの医学概論」中外医学社

《授業の到達目標》

消化器・泌尿器系の疾患とその概念を理解している。

《授業時間外学修》

医学の専門用語に慣れておくこと。（30分）
事前学修(15分)授業の各テーマに出てくる医学用語についてしらべておくこと。
事後学修(15分)主テストに出た問題を復習、理解しておく。

《成績評価の方法》

定期試験 60%、平常点（受講態度） 20%、小テスト20%

《定期試験のフィードバックの方法》
定期試験後、解説書を配布する。

《備考》

毎回小テストを行う
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 消化器系疾患①	消化器疾患の特徴、検査 食道疾患
2	消化器系疾患②	胃疾患
3	消化器系疾患③	腸疾患
4	消化器系疾患④	肝疾患
5	消化器系疾患⑤	胆嚢、胆道、膵疾患
6	腎尿路生殖器系疾患①	腎疾患の特徴と検査、腎盂腎炎、水腎症、慢性腎不全
7	腎尿路生殖器系疾患②	急性腎炎、慢性腎炎
8	腎尿路生殖器系疾患③	慢性腎炎、全身疾患と腎
9	腎尿路生殖器系疾患④	尿路結石、神経因性膀胱、尿路感染症、前立腺、精巣、精巣上体疾患
10	乳房および女性生殖器疾患	乳腺症、卵管炎、子宮内膜炎、頸管炎、子宮脱、膀胱腫瘍、子宮頸部ポリープ、子宮内膜症、膣炎、不妊症
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務演習Ⅱ				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

「ビジネス実務総論」「ビジネス実務演習Ⅰ」に続く講座で応用編です。ビジネス実務に必要なスキルを演習によって自分のものとして身につける。習得した知識を応用し、社会で即戦力になりうるビジネスパーソンとしての総合力を深めます。サービス活動、表現活動、情報活用、組織活動がキーワードです。自信を持って社会に出れる自分磨きを日々の授業でしっかり意識して根付かせる

《授業の到達目標》

1. 社会で即戦力となる資質とスキルが身についている
2. ビジネス環境の変化やビジネス現場の現況が説明できる
3. ビジネス現場での対人対応や交際業務への対応ができる

《成績評価の方法》

1. 平常点（受講態度・発表）20%
2. 課題・小テスト20%
3. 学期末テスト60%

＜フィードバックの方法＞

小テストの解説、課題についての講評の時間を設けます

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」紀伊国屋書店

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」2級・1級 早稲田教育出版

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」の上級資格を目指し、ビジネスの場に通用する総合力を養います。

演習課題の自己管理をしっかりとすること。

【事前学修】演習課題を自宅学習する（60分）

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する（30分）

《備考》

検定チャレンジは、ビジネスの現場をより深く学ぶ好材料です。内容も幅広いので、総合力が養えますが、その都度のノート整理が応用力の定着に大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス実務活動	総合演習 (資質：行動力、判断力、表現力、柔軟性、誠実さなど)
2	ビジネス実務活動	総合演習 (企業知識：構造、業務分掌、職位、職制、企業の社会的責任など)
3	ビジネス実務活動	総合演習 (対人関係：ビジネスマナー、話し方、交際業務など)
4	ビジネス実務活動	総合演習 (技能：情報用語、ビジネス文書作成、会議業務、事務用品など)
5	ビジネス実務活動	総合演習 (記述：自分で記述できるよう、書く訓練)
6	ビジネス実務活動	総合演習 グループ発表
7	ビジネス実務活動	総合演習 グループ発表
8	ビジネス実務活動	総合演習 個人発表
9	ビジネス実務活動	総合演習 個人発表
10	7章 ビジネス実務の創造	これからのビジネス実務
11	7章 ビジネス実務の創造	自己啓発プラン作成
12	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース1～ケース6 グループ演習
13	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース1～ケース3 グループ発表
14	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース4～ケース6 グループ発表
15	総括	まとめのプレゼンテーション

《専門教育科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

臨床心理学は何よりも実践的な心理学である。心理臨床の現場は人と人との出会いの中にあり、関係性の中で経験が積み重ねられ、新たな発見が生まれ続ける。本講義では臨床心理学の諸理論および心理臨床の実践を紹介すると共に、人間を理解すること、困難を抱えながらも自分らしく生きていくこと、人格の成長と成熟といったことについても考えていきたい。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①臨床心理学の基礎的な理論と概念について説明できる。
- ②心理的な問題を理解する基本的な視点を学修している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学修態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：臨床心理学とは？	臨床心理学および臨床心理行為について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	臨床心理学の理論(1)：精神分析学	精神分析学の基本的な考え方や諸概念を学修する。
3	臨床心理学の理論(2)：分析心理学	分析心理学（ユング心理学）の基本的な考え方や諸概念を学修する。
4	臨床心理学の理論(3)：認知行動療法	認知行動療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
5	臨床心理学の理論(4)：人間中心アプローチ	人間中心アプローチ、クライエント中心療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
6	臨床心理学の理論(5)：様々な心理療法	森田療法、内観療法、動作法といった心理療法の基本的考え方や実践について紹介する。
7	臨床心理アセスメント	臨床心理アセスメントの意義、方法等について学修する。
8	子どもの心の問題	子どもに生じやすい心身や行動の問題について学修する。
9	思春期・青年期の心の問題	思春期・青年期において生じやすい心身や行動の問題について学修する。
10	臨床心理学的理解と支援(1)：発達障害	発達障害の種類や特徴、理解と支援に必要な観点を学ぶ。
11	臨床心理学的理解と支援(2)：神経症	「神経症」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
12	臨床心理学的理解と支援(3)：パーソナリティ障害	「パーソナリティ障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
13	臨床心理学的理解と支援(4)：精神障害	「精神障害」について、統合失調症を中心に概説し、理解を深め、支援の事例について学ぶ。
14	臨床心理学的理解と支援(5)：「うつ」について	「うつ」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
15	臨床心理学的理解と支援(6)：高次脳機能障害	「高次脳機能障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。

《専門教育科目》

科目名	手話				
担当者氏名	野地 智子、住吉 美穂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-27 (態度と志向性) 高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-30 (態度と志向性) 学習を通して、医療界や地域社会に貢献する姿勢を身につけている。			

《授業の概要》

聴覚障害＝耳が聞こえないあるいは聞きにくい＝という事は一体どのような事で、どんな障壁があるのでしょうか。聴覚障害は視覚障害や肢体障害のように見てすぐ分かる障害ではないため、その障害(コミュニケーション障害・情報障害)の深刻さがなかなか理解されません。聴覚障害者(特にろうあ者)の言語＝手話を学ぶことでコミュニケーションについて考えてみたいと思う。

《授業の到達目標》

- ①手話を使って自己紹介ができる。
- ②手話で簡単な会話が出来る。
- ③耳のしくみや聴覚障害の原因を知り、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解している。
- ④日本の手話の歴史及び特徴を理解している。
- ⑤聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解している。

《成績評価の方法》

1. 試験 (50%)
2. 平常点≪レポート (30%) ・実習態度 (20%) ≫

《テキスト》

聞こえない人とのコミュニケーション(手話学習篇) / 聞こえない人とのコミュニケーション(手話編) 広島県ろうあ連盟発行

《参考図書》

講義中に適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修・手話ニュースや手話の番組を見て手話のスピードに慣れること。(30分)
 事後学修 ・「手話での会話を楽しむ」気持ちで授業に臨む。
 ・授業でお知らせする地域の手話サークルや、地域のろうあ協会の行事に積極的に参加して各自の手話力・対話力を高めること(60分)

《備考》

16週目に試験を行う。(試験60分 解説30分)
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	手話とは? (手話言語と音声言語との違い)	実習: 伝えてみましょう 自分の名前の手話表現を覚えよう 手話のオリエンテーション
2	聞こえない人との接し方/テキスト手話編～	実習: 自己紹介をしましょう 名前の表し方 指文字あ行～さ行 □ 表現の語源は・・・ 数字1～9 9
3	聞こえない人達とのコミュニケーション方法	実習: 自己紹介をしましょう 挨拶の手話 指文字た行～は行□ 表情 数字100～10,000
4	聴覚障害者の生活 (家族・子育て)	実習: 自己紹介をしましょう 家族の紹介 指文字ま行～ん 指の代理的表現 数字・月日・時間の表現
5	メッセージを伝えるという事	実習: 自己紹介をしましょう□ 趣味の表現 指文字 しりとり・国名 コミュニケーションしてみよう
6	聴覚障害者とは・・・ (聞こえのしくみ)	実習: 自己紹介をしましょう□ 仕事の表現 数字: 金額の表現
7	聴覚障害者の生活 (地域)	実習: 自己紹介をしましょう□ 住所の表現 県名・市町村名
8	聴覚障害者の日常生活用具	実習: 表現の工夫をしましょう□ 時の流れの表現 一日・一週間・一ヶ月
9	ろう者と手話の歴史	実習: 表現の工夫をしましょう 時の流れの表現 一年間・四季の表現
10	ろう者と話そう Q&A	実習: 手話で話そう□ 旅行の話进行をしましょう
11	手話の地域性・国際性	実習: 手話で話そう 学校のことを話进行をしましょう
12	聴覚障害者の生活 (病院・老後)	実習: 手話で話そう 健康・病気のことを話进行をしましょう
13	手話を使ってフリートークキング	実習: トータルコミュニケーション 応用してみよう よく使う単語・反対語
14	手話通訳士の体験から	実習: トータルコミュニケーション 手話での会話練習 医療 自己紹介のまとめ
15	まとめ	実習: 会話を楽しむ 話进行をしましょう 習った手話・覚えている手話を使って会

科目名	文章表現とコミュニケーション I				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

私たちは、学校や職場、家庭生活など、生活のいろいろな場面で、文章を書く機会にめぐり合う。もちろん、文章を書くことが好きな人や、それが職業である人もいる。

この授業では、私たちが、普通に生活していて、書く機会の多いタイプの文章の書き方を学ぶ。受講者には、授業の流れに沿って、実際に文章を書いてもらうことになる。

《テキスト》

プリントを使用する。

《参考図書》

本多勝一「日本語の作文技術」(朝日文庫) など
 その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①文章表現の誤りを自分でチェックすることができる。
- ②手紙文、ビジネス文書の形式で文章を書くことができる。
- ③敬語を適切に使用することができる。
- ④文章によって円滑なコミュニケーションを取ることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：必要に応じて、適宜、指示するので、次回授業の文章のテーマに関して、予め下調べをしておく。(30分)
 事後学修：必要に応じて、授業内容の確認プリント・補充プリントを渡すので、その練習問題を解く。(20分)

《成績評価の方法》

1. 毎回の提出物 (70%)
2. 平常点 (30% 授業態度 発問への応答)

《提出物のフィードバック方法》

提出物について、授業時間内で、適宜、個人指導、全体講評を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	文章表現の基本	誤解を避けるための文章技術①
3	文章表現の基本	誤解を避けるための文章技術②
4	手紙文の書き方	手紙の形式・依頼状の書き方
5	手紙文の書き方	礼状の書き方
6	手紙文の書き方	実習礼状の書き方・封筒の書き方
7	実用文の作成	ビジネス文書① 社内文書
8	実用文の作成	ビジネス文書② 社外文書
9	エッセイの書き方	エッセイとは何か 原稿用紙の使い方
10	敬語の知識	尊敬・謙譲・丁寧の表現
11	小論文を書くために	読点の打ち方と段落の分け方
12	小論文の書き方	論証と結論
13	小論文の書き方	賛否両論
14	小論文の書き方	小論文の形式
15	まとめ	誤解を避けるための文章技術・敬語の知識の補足

《専門教育科目》

科目名	ビジネスプレゼンテーションⅠ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ☐ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

実務に必要なさまざまな機能を学習し、就職後に役立つスキルを身につけます。エクセルは関数や集計を中心に学習します。ワードは長文作成をサポートする機能など、実務的な機能を中心に学習します。
表計算検定の上位級（準1級・1級）の解説や演習を実施しますので、ぜひ取得しましょう。

《テキスト》

オリジナルテキスト

《参考図書》

「よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 スキルアップ問題集 ビジネス実践編」FOM出版

《授業の到達目標》

1. エクセルの集計機能、関数について理解している。
2. ワードの応用操作を身につけている。
3. 実務に対応できる実践力を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目をとっておく（30分）
事後学修：復習用課題に取り組む（60分）
検定練習：検定問題に取り組む（60分）

《成績評価の方法》

平常点（授業態度・課題の提出状況と完成度）50%、実技テスト50%で評価する。いずれかが基準に達しない場合、単位は認定されない。
《フィードバック方法》課題ごとにコメントを返却する。期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

7月の検定試験受験希望者（主にエクセル準1級・1級）については、この授業内でサポートをします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	エクセル中級1	ガイダンス、1 関数
2	エクセル中級2	1 関数の続き 2 データベース機能
3	復習と検定対策	ここまでの復習と検定対策（準1級・1級）
4	復習と検定対策	ここまでの復習と検定対策（準1級・1級）
5	エクセル中級3	セル参照・3-D集計・統合
6	エクセル中級4	ピボットテーブル
7	エクセル中級5	書式と印刷
8	エクセル中級6	実務的な機能（範囲名・入力規則・シートの保護・ユーザー定義書式）
9	総合問題1	総合問題1（エクセル）ここまでのまとめ
10	ワード上級1	インデント
11	ワード上級2	タブとリーダー
12	ワード上級3	検索・置き換え、ヘッダーとフッターの詳細
13	ワード上級4	セクション区切りとページ設定・ヘッダーフッター
14	ワード上級5	アウトライン
15	総合問題2	総合問題2（ワード）

科目名	ビジネスプレゼンテーションⅡ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

パワーポイントの操作を習得した上で、より視覚効果の高いスライドを作成するための手法を学習します。具体的には、文章の要点を箇条書きで示す方法、図を用いて視覚的に表現する方法、数値の傾向をグラフで示す方法を学習します。発表課題の作成を通して全体の構成方法や発表準備も学習します。プレゼンテーション検定試験（3級・2級・1級）に対応していますので、ぜひ取得しましょう。

《授業の到達目標》

1. パワーポイントの各機能を習得している。
2. わかりやすいスライドが作成できる。
3. プレゼン全体の流れ（構成）を考えられる。
4. 発表の準備ができる。
5. 発表ができる。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、提出課題）40%、実技テスト（中間・期末）40%、発表20%で評価する。いずれかの項目が基準に満たない場合、単位は認定されない。
《フィードバック方法》課題ごとにコメントを返却する。試験と発表後に講評を行う（試験60分・解説30分）

《テキスト》

オリジナルテキスト

《参考図書》

宮野公樹「研究発表のためのスライドデザイン わかりやすいスライド作りのルール」講談社
「プレゼンテーション検定試験 模擬問題集」日本情報処理検定協会

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの目を通しておく（30分）、最終課題については事前に写真など素材を準備する。
事後学修：授業で学習した範囲について、もう一度同じ操作をして確認する（30分）、復習用課題に取り組む（30分）
検定練習：検定試験の問題に取り組む（30分）

《備考》

普段からテレビや新聞、雑誌などを見るときに、どんな内容がどのようなグラフや図を使って表現されているかを観察しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス 検定解説3級	授業内容の説明 検定解説（3級）
2	検定解説2級	検定解説（2級）
3	スライド作成の基礎 スライドのデザイン	スライドの作成（テキストの入力） テーマの設定、書式の設定
4	アニメーション設定、 ワードアート・図形	画面切り替え効果、アニメーション効果の設定 ワードアート、図形、画像の挿入
5	スライドマスター サウンドの挿入他	スライドマスターの設定方法 サウンドの挿入、自動プレゼンテーションの設定、配布資料の作成等
6	復習問題	ここまでの復習問題
7	中間テスト	中間テスト
8	検定解説1級	検定解説1級
9	プレゼン技法1（文の要約と表の活用）	文章を要約し、キーワードを適切に配置して、読み手にわかりやすいスライドを作成する方法を実習
10	プレゼン技法2（図解）	図形やスマートアートを利用して、図でわかりやすく表現する方法を実習
11	プレゼン技法3（数値の視覚化）	数値をグラフ化するときの工夫や応用的グラフの作成方法（パレート図、Zチャート、ヒストグラム、バブルチャートなど）を実習
12	プレゼン技法4（テーマ選定から発表まで）	テーマの選定、概要の作成、資料の収集、発表時の注意点 最終課題のテーマを選定し概要書作成
13	最終課題作成1	スライドの作成
14	最終課題作成2	発表用資料の作成
15	発表	最終課題の発表と相互評価・自己分析

《専門教育科目》

科目名	電子会計実務基礎				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験3級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験3級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定中級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
 - ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）
- 《課題へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本テキスト」（実教出版）

《参考図書》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 初級テキスト・問題集」（実教出版）
弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本問題集」（実教出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
事後学修（60分）：テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	企業活動と会計処理(1)	企業の経営活動と利益の計算
3	企業活動と会計処理(2)	会計処理の基本
4	会計ソフトの操作(1)	コンピューターの関連知識、会計ソフトのインストール
5	会計ソフトの操作(2)	会計データの入力
6	会計ソフトの操作(3)	振替伝票による入力練習
7	企業の業務と会計処理(1)	現金預金についての会計処理
8	企業の業務と会計処理(2)	仕入についての会計処理、売上についての会計処理
9	企業の業務と会計処理(3)	経費についての会計処理
10	企業の業務と会計処理(4)	その他の債権・債務についての会計処理
11	企業の業務と会計処理(5)	給与についての会計処理、企業が関係する税金
12	企業の業務と会計処理(6)	証ひょうにもとづく起票とデータ入力
13	会計データの入力処理と集計	証ひょうによるデータ入力、残高のチェック
14	会計情報の活用(1)	会計データの集計と活用
15	会計情報の活用(2)	月次決算の会計処理

《専門教育科目》

科目名	電子会計実務応用				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎から応用を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験 2 級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験 2 級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定上級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
 - ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）
- 《課題へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本テキスト」（実務出版）、弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 応用 テキスト」（実務出版）

《参考図書》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本問題集」（実務出版）
弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 応用問題集」（実務出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
事後学修（60分）：テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	個別論点	手形取引、固定資産・その他の取引
3	決算の手続き	年次決算について
4	会計データの新規作成（導入処理）(1)	企業の基本情報の設定
5	会計データの新規作成（導入処理）(2)	決算の手続き
6	会計データの新規作成（導入処理）(3)	繰越処理と部門の設定
7	製造業における原価情報(1)	原価計算の手続きと原価計算の種類
8	製造業における原価情報(2)	製造原価報告書の作成と製造業の月次決算
9	製造業における原価情報(3)	製造部門を有する企業の会計処理
10	予算管理と経営分析指標(1)	経営分析
11	予算管理と経営分析指標(2)	経営分析
12	収益構造分析と短期利益計画(1)	損益分岐点分析
13	収益構造分析と短期利益計画(2)	短期利益計画
14	資金の管理	資金繰り表の作成
15	電子会計のまとめ	全体の総復習

科目名	人間関係論				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①人間関係で生じる諸現象を心理学の概念を用いて説明できる。
- ②人間関係の発達過程を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：人間関係論とは？	「人間関係論」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	自己と他者	「自己」と関連する諸概念、二者関係における対人認知や印象形成の過程と諸要因について学ぶ。
3	人間関係の発達(1)：乳児期	乳児期における人間関係、母子関係とその発達過程について学ぶ。
4	人間関係の発達(2)：幼児期～学童期	幼児期ならびに学童期における人間関係の発達過程について学ぶ。
5	人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期	青年期、成人期、高齢期（老年期）における人間関係の発達過程について学ぶ。
6	恋愛関係の心理学	恋愛関係および恋愛行動にかかわる理論や要因について学修する。
7	家族関係の心理学(1)	家族関係について心理学的観点から概説する。
8	家族関係の心理学(2)	現代社会における家族を取り巻く環境、困難や支援のあり方について学ぶ。
9	地域社会とコミュニティ(1)	地域社会、コミュニティ、ソーシャルサポートと関連する諸概念について学ぶ。
10	地域社会とコミュニティ(2)	近年のコミュニティの現状、問題点などを検討する。
11	地域社会とコミュニティ(3)	コミュニティにおける支援活動、自助グループ等について学ぶ。
12	集団力学	集団が個人および集団相互に与える心理学的影響について学ぶ。
13	組織の心理学	組織の持つ性質、問題点、リーダーシップの機能等について学ぶ。
14	「さよなら」の心理学	人間関係の終焉としての「別れ」「喪失」について考察する。
15	まとめ	「人間関係論」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《専門教育科目》

科目名	インターンシップ(医療秘書実習)				
担当者氏名	有吉 澄江、梅本 礼子				
授業方法	講・実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

この授業は講義とロールプレイ、夏季休業中に実施する医療秘書実務実習の事前学習である。

講義では、医療秘書実務士の資質や社会人として求められる医療秘書像の確認、連携する医師事務作業補助や診療情報管理の業務等、病院業務を円滑に行なうための心構えや必要な知識・実務を学ぶ。

《テキスト》

「病院職員のハンドブック」（日本病院会）
「保険診療 基本法令テキストブック 平成30年4月版」
（社会保険研究所）

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①医療秘書実務実習の意義と流れが理解できる。
- ②病院の仕組みを知る。
- ③実習に向け、医療秘書実務の基本的な知識が理解せきる。
- ④ロールプレイで接遇や実務の基本を身につけ、医師事務作業補助、診療情報管理など、連携する一連の業務が理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修：事前に実習病院の情報収集をする。
事後学修：その日に学習したことを整理し、理解しておく。

《成績評価の方法》

- 1. 実習先の評価（60%）
 - 2. 日誌の記載内容（20%）
 - 3. 受講態度（20%）
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求事務、診療情報管理業務、医事コンピュータ、電子カルテシステム使用による業務及び保守管理。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	事前ガイダンス①	実習から報告会までの活動スケジュール 病院の機能としくみ、医療機関からの実習生評価 等
2	医事業務等の基礎①	倫理的配慮と個人情報保護法について 病院職員としての基礎知識
3	医事業務等の基礎②	医療保険制度の概要 復習①
4	医事業務等の基礎③	医療保険制度の概要 復習② 保険医療機関及び保険医療養担当規則について
5	実習室での学習について	実習室での学習内容の説明 グループ分けと各役割りを決定する
6	病院実習の実際を知る①	（実習室） 病院実習の実際①
7	病院実習の実際を知る②	（実習室） 病院実習の実際②
8	病院実習の目的と心構え①	（実習室） 身だしなみ、言葉使い等のマナー、電話対応等）①
9	病院実習の目的と心構え②	（実習室） 身だしなみ、言葉使い等のマナー、電話対応等）②
10	業務の流れを体験する①	グループ学習①（医事NAVI）
11	業務の流れを体験する②	グループ学習②（医事NAVI）
12	業務の流れを体験する③	グループ学習③（医事NAVI・電子カルテグループ操作説明）
13	業務の流れを体験する④	グループ学習④（電子カルテグループ操作）
14	業務の流れを体験する⑤	グループ学習⑤（電子カルテグループ操作）
15	医療秘書実務実習に向けて	事前指導の電話対応、実習日誌・礼状の書き方、病院実習報告会 等

《職業に関する科目》

科目名	介護報酬請求事務演習				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

介護保険制度を復習して、ケアクラーク技能認定試験問題を時間を計って試験形式で実施する。ケアクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「介護事務講座テキスト1…介護保険請求実務」「テキスト2…社会福祉と人間関係」「別冊…介護保険請求実務 ケアクラーク認定試験問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①ケアクラーク技能認定試験の学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）実技（居宅サービス費・施設サービス費の明細書記載）を理解している。
 - ②技能認定試験問題を時間内に正確にできる。
- 学科（25問）→50分 実技（明細書作成2問）→60分

《授業時間外学修》

- 事前学修：問題集の実技問題を確認しておくこと（5分程度）
事後学修：①毎回行う確認テストを復習する（10分程度）
②授業中に実施した問題集の誤った個所を復習する（30分程度）

《成績評価の方法》

- ①平常点（授業態度 確認テスト レポート 提出物）80%
 - ②試験 20%
- 《課題・試験のフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける
試験後に解説を行う（試験110分・解説60分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度の復習	介護保険制度の復習
2	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
3	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科問題の解説 介護保険請求実務（別冊）…サービスコード表の見方
4	ケアクラーク技能認定試験問題集A	居宅サービス（訪問介護 通所介護）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成 特定事業所加算、他科受診について
5	ケアクラーク技能認定試験問題集B	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
6	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅サービス（訪問看護 通所リハ 居宅療養管理指導）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
7	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅療養管理指導、外泊、緊急時治療管理について
8	ケアクラーク技能認定試験問題集C	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
9	ケアクラーク技能認定試験問題集C	居宅サービス（訪問看護 通所リハ）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成 特定診療費について
10	ケアクラーク技能認定試験問題集D	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
11	ケアクラーク技能認定試験問題集D	居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成 介護職員処遇改善加算について
12	模擬試験問題1	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
13	模擬試験問題2	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問看護 通所リハ）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成
14	模擬試験問題2	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
15	まとめ	まとめ

《職業に関する科目》

科目名	電子カルテシステム実務総論				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			
		◎ 1-13 (知識と理解) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。			
		◎ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			
		◎ 2-22 (技能) 医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。			
		◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力) 獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

厚生労働省通知（1999年4月）により「真正性」、「見読性」、「保存性」の3基準を満たしたうえで、診療録等の電子的保存が認められたことにより、電子カルテの導入する医療機関が徐々に増えてきている。本講では、外来・入院受付での患者情報の登録から、医師事務作業補助者による診療録記載や診断書等の各医療文書作成などの代行入力・承認業務、会計までの一連の業務について、教育システムを使用して学習する。

《授業の到達目標》

- ①電子カルテの全体像や、診療録の法的根拠や要件、システム関連知識が理解できる。
- ②部門システムやオーダーリングシステムの機能が理解できる。
- ③システムの操作方法を習得できる。
- ⑤例題（権限設定、医療文書作成含む）入力法を習得できる。

《成績評価の方法》

1. 診療録・医療文書作成（60％）
 2. レセプト作成（20％）
 3. 受講態度（20％）
- ※試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「電子カルテシステムの理解と演習C&C」、「C & C 電子カルテシステムⅡ/操作テキスト」（C & C）、「医科点数表の解釈 30年4月版」（社会保険研究所）

《参考図書》

「診療情報管理学・J H I M」（医学書院）
「スイスイ書ける医療文書・さくさく入力カルテオーダーリング」メディカルビュー社 その他必要に応じて紹介

《授業時間外学修》

事前学修：休み等により症例登録の遅れが生じた場合は、次の授業までに対象例題を登録しておくこと。（30分）
事後学修：ドクターズクラーク（医師事務作業補助）認定試験対策授業でもあるので、1年次に学習した学科問題を復習する。（20分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務、診療録管理業務、D P C 関連業務、医事コンピュータ・電子カルテシステム業務・保守管理等

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	電子カルテシステムとは 平成30年度診療報酬改定	電子カルテの全体像、個人用データファイル作成 平成30年度診療報酬改定
2	I T 化の流れと診療録の 電子化への道①	医療機関における業務処理フロー 国策として推進される医療の I T 化、診療録の法的要件と電子化への道
3	I T 化の流れと診療録の 電子化への道②	診療録等の外部保存の容認、その後の法的動き等
4	電子カルテの定義、機能 等	電子カルテの定義と機能等（権限登録含む） 部門システム、オーダーリングとの基本的機能
5	レセプト電算処理システム 等	レセプト電算処理システム、オンライン請求システム、D P C 制度
6	医療情報について 医療情報の今後の展開	医療情報の標準化、プライバシー保護とセキュリティ 地域医療情報システム等、電子カルテシステムの今後の課題
7	ソフトの操作方法 外来①	システムの全体像：システムの起動・終了、権限設定、システム全体の機能概要
8	ソフトの操作方法 外来②	（診療所・外来）練習問題第50号・・・（医師教育用） 基本メニュー・ステーション画面における操作、問診票、S O A P 入力など
9	ソフトの操作方法 外来③	（診療所・外来）練習問題第50号 診療等の入力：投薬、注射、検査、画像診断、処置、医学管理、傷病名等
10	ソフトの操作方法 外来④	（診療所・外来）練習問題第50号・・・（医事教育用） （診療入力予備）、医事会計処理、傷病名のシークレット画面化など
11	ソフトの操作方法 外来⑤	予約登録、同日再診、同日初診料の受付・修正、担当科表示と未会計表示
12	入院例題①	入院事例①：権限設定、オーダ処理、担当部門における報告処理、文書作成等
13	入院例題①-2	入院事例①-2
14	入院例題②	入院事例②
15	入院例題②-2	入院事例②-2

《職業に関する科目》

科目名	電子カルテシステム実務演習				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。 ◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

前期で習得した電子カルテシステムの基礎知識を活かして、外来・入院の事例を、受付業務から医師事務作業補助者の各種医療文書や経過記録等の代行業務・医師の承認、薬剤クラーク、会計業務、レセプト発行までの一連の操作方法を演習する。

《授業の到達目標》

- ①外来・入院例題を基に、電子カルテ入力方法を習得する。
- ②部門システムやオーダーリングなど、機能の理解と操作方法や管理法を習得する。
- ③医療文書作成方法を習得する（手書き、電子的作成）
- ④各部門の業務と役割を認識し、実践力をつける。

《成績評価の方法》

- 1. 診療録・医療文書作成（60％）
 - 2. レセプト作成（20％）
 - 3. 受講態度（20％）
- ＜試験のフィードバック方法＞
期末試験終了後に解説。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「電子カルテシステムの理解と演習」、「C&C電子カルテシステムⅡ/操作テキスト」（C&C）、「医科点数表の解釈30年4月版」（社会保険研究所）

《参考図書》

「診療情報管理学・JHIM」（医学書院）
「スイスイ書ける医療文書」、「さくさく入力カルテ・オーダーリング」（メディカルビュー社）
その他必要に応じて紹介

《授業時間外学修》

事前学修：休み等により症例登録の遅れが生じた場合は、次の授業までに、対象例題を登録しておくこと。（30分）
事後学修：ドクターズクラーク認定試験対策授業であるので、1年次に学習した学科問題を復習する。（20分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務、診療録管理業務、DPC関連業務、医事コンピュータ・電子カルテシステム業務・保守管理等

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療文書・医療記録	医療文書の種類と位置づけ、医療文書・医療記録のシステム管理
2	医師事務作業補助者の業務①	医師が書く医療文書の実際（学科含む）①
3	医師事務作業補助者の業務②	医師事務作業補助者の業務（学科含む）②
4	医師事務作業補助者の業務③	医師事務作業補助者の業務（学科含む）③
5	外来例題①	外来例題（診断書等の文書作成を含む）①
6	外来例題②	外来例題（診断書等の文書作成を含む）②
7	外来例題③	外来例題（診断書等の文書作成を含む）③
8	外来例題④	外来例題（診断書等の文書作成を含む）④
9	外来例題⑤	外来例題（診断書等の文書作成を含む）⑤
10	入院例題①	入院例題（診断書、入院診療計画書、退院時サマリー等の文書作成含む）①
11	入院例題②	入院例題（診断書、入院診療計画書、退院時サマリー等の文書作成含む）②
12	入院例題③	入院例題（診断書、入院診療計画書、退院時サマリー等の文書作成含む）③
13	入院例題④	入院例題（診断書、入院診療計画書、退院時サマリー等の文書作成含む）④
14	入院例題⑤	入院例題（診断書、入院診療計画書、退院時サマリー等の文書作成含む）⑤
15	まとめ	入院例題総合学習：レセプト、入院診療計画書、退院時サマリー作成

《職業に関する科目》

科目名	診療情報管理システム実務総論				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力)これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ○ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

診療情報管理士の業務は「もの」と「情報」の管理に分けられる。医療情報システムの普及により、「情報」の管理が重要となってきた。本講では、診療情報管理システム「病歴大将」を使用し、診療録や症例サマリーなどから情報を収集し、診療情報の登録や情報抽出、退院時要約の作成などを行う。診療情報管理業務実務、医師事務作業補助者指導業務実務、DPC情報管理・分析業務実務経験を活かした授業である。

《授業の到達目標》

- ①診療情報を活用するための手法を習得している。
- ②患者基本情報、診療情報、地域連携情報など効率よく必要な情報を収集することができる。
- ③登録情報をニーズに合わせて迅速に加工・抽出できる。

《成績評価の方法》

期末試験 (60%)
 平常点(授業態度、課題提出状況など) (20%)
 アクティブラーニング (20%)
 《学生へのフィードバックの方法》
 期末試験後に解説を行う。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

プリント配布

《参考図書》

「診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ」(日本病院会)
 日本診療情報管理学会編集「診療情報学」(医学書院)
 その他必要に応じて適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載した退院時要約の語句・入院診断書の項目の意味を調べ、専用ノートなどに書いてくる。
 事後学修：症例サマリーと作成した退院時要約の整合性を確認する。

《備考》

PCの基本的操作を学修、習熟すること。
 標準的治療ガイドラインなど最新先進治療法などに関心を持ち症例の登録に反映するとよい。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療情報管理の意義と役割	診療情報管理の意義と役割
2	診療情報①	患者情報としての診療情報・医療機能と診療情報
3	診療情報②	病理診断と診療情報・診療ガイドラインと診療情報
4	診療情報③	退院時要約と診療情報・退院時要約の作成
5	診療情報管理システム操作方法①	診療情報管理システム操作方法
6	症例登録①	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
7	症例登録②	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
8	症例登録③	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
9	症例登録④	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
10	症例登録⑤	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
11	症例登録⑥	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
12	症例登録⑦	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 ディスカッション・解説プレゼンテーション
13	症例登録⑧	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 ディスカッション・解説プレゼンテーション
14	症例登録⑨	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 ディスカッション・解説プレゼンテーション
15	症例登録⑩	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 ディスカッション・解説プレゼンテーション

《職業に関する科目》

科目名	診療情報管理システム実務演習				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-12（知識と理解）医療や職業的倫理に関する基本的な知識を修得している。 ◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につけている。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

本講では、診療情報管理システム「病歴大将」を使用し、診療録や症例サマリーなどから情報を収集し、診療情報の登録や情報抽出、退院時要約の作成などを行う。後半は「全国がん登録」に関連した症例登録が行えるよう情報収集する。診療情報管理業務実務、医師事務作業補助者指導業務実務、がん登録・統計業務実務経験を活かした授業である。

《テキスト》

プリント配布

《参考図書》

「診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ」（日本病学会）
日本診療情報管理学会編集「診療情報学」（医学書院）
その他必要に応じて適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ①診療情報を活用するための手法を習得している。
- ②患者基本情報、診療情報、地域連携情報など効率よく必要な情報を収集することができる。
- ③登録情報をニーズに合わせて迅速に加工・抽出できる。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載した症例・医療行為の語句意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書やプリントを参考に、症例登録問題を読解し、理解に繋げる

《成績評価の方法》

期末試験（60％）
平常点（授業態度、課題など）（20％）
アクティブラーニング（20％）
《学生へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

PCの基本的操作を学習、習熟すること。
実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療情報管理の意義と役割	診療情報管理の意義と役割
2	診療情報①	患者情報としての診療情報・医療機能と診療情報
3	診療情報②	病理診断と診療情報・診療ガイドラインと診療情報
4	診療情報③	退院時要約と診療情報・退院時要約の作成
5	診療情報管理システム操作方法①	診療情報管理システム操作方法
6	症例登録①	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
7	症例登録②	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
8	症例登録③	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
9	症例登録④	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
10	症例登録⑤	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成
11	症例登録⑥	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 症例解説プレゼンテーション
12	症例登録⑦	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 症例解説プレゼンテーション
13	症例登録⑧	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 症例解説プレゼンテーション
14	症例登録⑨	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 症例解説プレゼンテーション
15	症例登録⑩	症例解説と症例登録、確認・退院時要約作成 症例解説プレゼンテーション

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬・情報特講Ⅰ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	Ⅰ・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎	1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。		
		◎	2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。		
		◎	2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。		
		◎	3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。		
		◎	4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。		

《授業の概要》

本講座は、診療報酬請求事務能力認定試験及び医師事務作業補助技能認定試験（ドクターズクラーク）の受験対策を中心とした授業である。

医療保険制度や各医療関係諸法、医科点数表の解釈を理解し、学科問題を解く。また、診療の記録から診療報酬明細書や診断書等の医療文書を手書きで作成することにより、医師の負担軽減に寄与するための技能を修得する。

《授業の到達目標》

以下の①～③までの目標を設定し、診療報酬請求事務能力認定試験及び医師事務作業補助技能認定試験の合格を目指す。

- ①医療保険制度や保険医療機関及び保険医療養担当規則、診療報酬算定要件について理解する。
②診療録から診療報酬明細書(入院・外来)の手書きができる。

《成績評価の方法》

診療報酬明細書作成 (50%)
医療文書作成 (30%)
学科問題 (20%)

《試験ノフィードバック》

期末試験終了後に解説する。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

「30年度受験対策（診療報酬請求事務能力認定試験）と予想問題集」（医学通信社）「医療事務総論/医療秘書実務」（建帛社）「医科点数表の解釈平成30年度」（社会保険研究所）

《参考図書》

「ドクターズクラーク講座技能認定試験問題集」（ニチイ）
「保険診療基本法令テキストブック 医科平成30年4月版」（社会保険研究所）
その他授業において、適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：学科・実技問題合計3時間を目標に、試験直前対策とした演習をする。(180分)
事後学修：学科・実技の認定試験過去問題を学修する。(30分)

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事・診療報酬請求業務、診療情報管理業務、データ分析、介護保険請求業務、医事コンピュータ、電子カルテシステム管理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	診療報酬改定項目①	平成30年4月診療報酬改定項目の確認①
2	診療報酬改定項目②	平成30年4月診療報酬改定項目の確認②
3	診療報酬・医師事務作業補助学科問題①	診療報酬請求事務・医師事務作業補助能力認定試験過去問題(学科) ①
4	診療報酬・医師事務作業補助学科問題②	診療報酬請求事務・医師事務作業補助能力認定試験過去問題(学科) ②
5	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題①	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題①
6	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題②	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題②
7	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題③	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題③
8	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題④	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題④
9	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑤	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑤
10	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑥	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑥
11	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑦	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑦
12	医師事務作業補助認定試験過去問題①	医師事務作業補助認定試験過去問題①
13	医師事務作業補助認定試験過去問題②	医師事務作業補助認定試験過去問題②
14	医師事務作業補助認定試験過去問題③	医師事務作業補助認定試験過去問題③
15	医師事務作業補助認定試験過去問題④	医師事務作業補助認定試験過去問題④

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬・情報特講Ⅱ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-13（知識と理解）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の基本的な知識を修得している。			
		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			
		◎ 2-22（技能）医療保険制度や関係諸法、診療情報管理等の知識を応用する基本的な技能を身につけている。			
		◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			
		◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

前期に引続き、診療報酬請求事務能力認定試験及び医師事務作業補助技能認定試験（ドクターズクラーク）の受験対策を中心とした授業を継続する。

医療保険制度や各医療関係諸法、医科点数表の解釈を理解し、学科問題を解く。また、診療の記録から診療報酬明細書や診断書等の医療文書を手書きで作成することにより、医師の負担軽減に寄与するための技能を修得する。

《授業の到達目標》

- ①後期前半：医師事務作業補助認定試験対策を優先し、過去問題に取り組む。
②11月以降：診療報酬請求事務能力認定試験に重点をおき、過去問題に取り組む。

《成績評価の方法》

診療報酬明細書作成 (50%)
医療文書作成 (30%)
学科問題 (20%)
《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

「30年4月版受験対策診療報酬請求事務能力認定試験と予想問題集」（医学通信社）、「医療事務総論/医療秘書実務」（建帛社）、「30年度医科点数表の解釈」（社会保険研究所）

《参考図書》

「ドクターズクラーク講座技能認定試験問題集」（ニチイ）
「保険診療基本法令テキストブック医科平成28年4月版」、
「レセプト作成テキストブック平成30年4月版」（社会保険研究所）
その他授業において、適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：学科・実技問題合計3時間を目標に、試験直前対策演習をする。（180分）
事後学修：学科・実技の認定試験過去問題にて、学修する。（30分）

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事・診療報酬請求業務、診療情報管理業務、データ分析、介護保険請求業務、医事コンピュータ、電子カルテシステム管理

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医師事務作業補助認定試験過去問題-1	医師事務作業補助認定試験過去問演習①
2	医師事務作業補助認定試験過去問題-2	医師事務作業補助認定試験過去問演習②
3	医師事務作業補助認定試験過去問題-3	医師事務作業補助認定試験過去問演習③
4	医師事務作業補助認定試験過去問題-4	医師事務作業補助認定試験過去問演習④
5	医師事務作業補助認定試験過去問題-5	医師事務作業補助認定試験過去問演習⑤
6	医師事務作業補助認定試験過去問題-6	医師事務作業補助認定試験過去問演習⑥
7	学科過去問題	医師事務作業補助認定試験学科過去問演習
8	診療報酬請求事務能力認定試験過去問題-1	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習①
9	医師事務作業補助認定試験過去問題-3	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習②
10	医師事務作業補助認定試験過去問題-3	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習③
11	医師事務作業補助認定試験過去問題-4	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習④
12	医師事務作業補助認定試験過去問題-5	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習⑤
13	医師事務作業補助認定試験過去問題-6	診療報酬請求事務能力認定試験過去問演習⑥
14	診療報酬請求事務能力認定試験対策-1	診療報酬請求事務演習のまとめ①
15	診療報酬請求事務能力認定試験対策-2	診療報酬請求事務能力認定試験対策のまとめ②

《専門教育科目》

科目名	情報管理特論Ⅰ				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

担当業務の問題を把握し、解決を提案できるには体系的な考え方や論理的な思考力と問題分析と解決手法の知識が重要である。この科目は特論Ⅱとセットにして基本的な研究スタイルやプロセスを体験できる。実際の問題を発見し、解決方法の提案や問題の表現方法、そして人の前でプレゼンできる能力などを養う。Ⅰでは、研究の基本的な考え方、基本ツールの使い方、情報処理活用などを学習する。

《授業の到達目標》

1. 情報処理対象として基本的なデータ型を理解している。
2. 研究の基本プロセスが理解している。

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末課題 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《テキスト》

プリントやデジタル教材の配布。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集。（課題ごとに30分程度）
事後学修：最終課題の調査、情報加工を十分に時間をかけて行う。

《備考》

この科目は情報管理特論Ⅱとセットにして履修すること。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	特論ⅠとⅡの関係
2	前期共通の学習内容（1）	研究活動の基本
3	前期共通の学習内容（2）	情報処理活用できるツールについて
4	EXCELでデータ処理（1）	データ型の理解、グラフの種類と表現
5	EXCELでデータ処理（2）	EXCELでアンケート処理の基本（1）データの纏め方
6	EXCELでデータ処理（3）	EXCELでアンケート処理の基本（2）基本統計処理
7	EXCELでデータ処理（4）	EXCELでアンケート処理の基本（3）、様々なグラフ作成
8	プレゼン資料作成（1）	PowerPointの活用について
9	プレゼン資料作成（2）	情報の表現（1）図解表現の基本手法
10	プレゼン資料作成（3）	情報の表現（2）デザインとビジュアル表現
11	研究の基本を理解する（1）	研究論文を読む（1）
12	研究の基本を理解する（2）	研究論文を読む（2）
13	研究の基本を理解する（3）	研究論文を説明する（プレゼン）
14	研究テーマを決める	後期取り組み研究課題
15	まとめ	課題の要件など

《専門教育科目》

科目名	情報管理特論Ⅱ				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業は前期の情報管理特論Ⅰの後継科目です。特論Ⅰで学んだ成果をもとに、各自の研究テーマを決定し、関連文献や資料の調査、テーマに沿って課題研究を進めていきます。得られた結果をまとめ、レジメや発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行います。一連の取り組みを経て、問題解決の方法やプレゼンテーションの基本を含む情報処理研究のプロセスを体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

1. テーマと関連する領域の文献資料を読み、内容を理解し、他者に説明することができる。
2. 自分の調べたいテーマを明確に決定し、仲間と協働して進めることができる。研究結果をわかりやすく表現できる。

《成績評価の方法》

1. 取組態度 20%,
 2. 中間発表 30%,
 3. 特論発表 50%。
- 《学生へのフィードバック方法》
レジメ提出後に検討会を行う。

《テキスト》

適宜にプリント資料を配布する。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集。（課題ごとに30分程度）
事後学修：最終課題の調査、情報加工を十分に時間をかけて行う。

《備考》

基本的に自らが主導して進めるが、いつでも相談できる。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	テーマ決め	テーマは個人かグループ（3人まで）単位で決めること。
2	テーマ確認と調整	指導教員と相談して決めること。
3	研究進め方	一般的な研究姿勢や進め方について紹介する。
4	データ処理について	調査行う際の求める質問事項やデータ型の理解する。
5	研究テーマの明確化	取り組むテーマの背景、問題点、狙いなどを明確にすること。
6	調査や課題の計画	調査なら、質問事項の設計、課題なら進め方などをしっかりと計画する。
7	研究の進行（1）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
8	研究の進行（2）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
9	研究の進行（3）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
10	研究の進行（4）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
11	研究のまとめ（1）	進行段階で得たデータをしっかりと分析し、整理すること。
12	研究のまとめ（2）	得られたデータの解析やグラフ化を行い、考察を行う。
13	研究のまとめ（3）	研究まとめとして、プレゼンの流を掴み、発表原稿を試作する。
14	研究のまとめ（4）	前段階を踏まえ、研究のレジメをしっかりとまとめること。
15	研究発表	最終発表のプレゼンテーションを作成し、本発表のリハーサルを行う。

科目名	人間心理特論Ⅰ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業では、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。また、文献を検索して読解すること、実験や調査を実施すること、データを分析すること、レポートを執筆して説明することなどを体験的に学習する。そして、各自が自分が深く知りたい、調べたいテーマを考え、後期からの人間心理特論Ⅱに向けて準備をしていく。

《授業の到達目標》

- ①自分の調べたいテーマを明確にして、他者に伝えることができる。
- ②自分の関心ある領域について専門書を読み、内容を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

- 1. レポート（50％）
- 2. 平常点（授業態度20％、課題30％）

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて授業時間内にコメント、指導を行う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する。授業の中で適宜ディスカッションを行う。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	特論の進め方について説明する。
2	心理学の研究法	心理学の一般的な研究法について学修する。
3	テーマの設定	自分の調べたいこと、知りたいことを挙げ、それを知るために必要な研究の目的、方法、仮説等考える。
4	文献検索	図書館やインターネットを介した文献検索の仕方を学ぶ。
5	心理学文献の読み方	一般的な心理学の研究論文の構成を知り、論文の効率的かつ正確な読み方を学ぶ。
6	研究の進め方	心理学に関する実際の研究の進め方について学ぶ。
7	質問紙による研究（1）	先行研究を参照し、さまざまな質問紙について調べる。
8	質問紙による研究（2）	質問紙調査を進めていく上でのプロセスや留意点について学ぶ。
9	観察・面接による研究	観察や面接による研究の進め方や留意点について学ぶ
10	文献研究	文献研究の進め方や留意点について学ぶ。
11	実験による研究	心理学実験を行う上での注意点、要因計画等について学ぶ。
12	データの分析	調査・実験等によって得られたデータの整理・記述・分析の仕方について学ぶ。
13	心理学レポートの書き方	一般的な心理学レポートの書式と書き方を学ぶ。
14	心理学研究の倫理	心理学に関する研究を行う上で銘記すべき研究倫理について学ぶ。
15	心理学研究に向けて	特論を進めていく上で、各自の研究テーマや方法を具体的に検討する。

科目名	人間心理特論Ⅱ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業では、前期の「人間心理特論Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。本授業では各自研究テーマを具体的に決定し、先行研究を調べ、実際に調査し、得られた結果について考察し、発表資料を作成し、最終的に特論発表会場でプレゼンテーションを行うまでの、心理学研究のプロセスを体験的に学習する。

《授業の到達目標》

- ①研究上の諸注意を守り、実際に調査ができる。
- ②得られた結果を論理的に考察し、わかりやすくプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

- 1. 平常点（授業態度20%、課題30%）
 - 2. 発表（50%）
- 《フィードバックの方法》
研究指導を行う中で、随時フィードバックを行う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	課題の発表（1）	夏休みに調べてきた課題について発表し、ディスカッションする。
2	課題の発表（2）	夏休みに調べてきた課題について発表し、ディスカッションする。
3	調査・研究にあたっての諸注意（1）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
4	調査・研究にあたっての諸注意（2）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
5	研究グループの決定	各自の関心のある領域をもとに、研究の小グループを決める。
6	研究テーマの具体化（1）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
7	研究テーマの具体化（2）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
8	質問紙の作成（1）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
9	質問紙の作成（2）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
10	データの収集	実際に調査を行い、データを収集し、整理する。
11	分析と解釈（1）	得られたデータを分析し、考察する。
12	分析と解釈（2）	得られたデータを分析し、考察する。
13	研究抄録の作成（1）	研究を抄録にまとめる。
14	研究抄録の作成（2）	研究を抄録にまとめる。
15	プレゼンテーション	発表用資料を作成し、プレゼンテーションの練習を行う。

《専門教育科目》

科目名	映像文化特論Ⅰ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必修	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

ジブリやディズニーのアニメはテレビやDVDで観ることができ、よく知っているつもりになっているが、実は多くの大切なことを見落としていることを、授業で研究書や論文を読んで発見していく。こうした作業を通して、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。映画を深く観ることや映画批評を学び、後期の研究と発表につなげていく。

《授業の到達目標》

- ①自分で問題を発見し解決していく能力を身に付ける。
- ②アニメ映画を通して、社会や文化に対する洞察力をつける。

《テキスト》

プリント配付

《参考図書》

ジブリの教科書3「となりのトトロ」（文春文庫）、ジブリの教科書5「魔女の宅急便」（文春文庫）、ジブリの教科書12「千と千尋の神隠し」（文春文庫）、本橋哲也「ディズニープリンセスのゆくえ」（ナカニシヤ出版）、荻上チキ「ディズニープリンセスと幸せの法則」（星海社新書）

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：各回の授業テーマとなっているアニメや映画作品についての解説や批評をインターネットなどで調べる。
事後学修（30分）：授業で習ったことをまとめる。

《成績評価の方法》

- 1. 取り上げた作品についての感想 40%
 - 2. アクティブラーニング（ループリックで評価します）10%
 - 3. 期末レポート 50%
- 《課題へのフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	1年間の授業の流れ 研究論文の書き方、上手なパワーポイントの作り方とプレゼンの仕方について
2	ディズニー・アニメについて①	ウォルト・ディズニーの人物像と世界観、ディズニー・プリンセスの歴史
3	ディズニー・アニメについて②	ディズニーのプリンセスについての論文解説
4	ディズニー・アニメについて③	ミッキー・マウスについての研究書の解説
5	ディズニー・アニメについて④	好きなディズニー・アニメを鑑賞しながら、ディズニーの世界観や理想とする人間像について考える。
6	ディズニー・アニメについて⑤	好きなディズニー・アニメを鑑賞しながら、ディズニーの世界観や理想とする人間像について考える。
7	ジブリ・アニメについて①	ジブリ・アニメの歴史
8	ジブリ・アニメについて②	『千と千尋の神隠し』についての論文解説
9	ジブリ・アニメについて③	『千と千尋の神隠し』鑑賞
10	ジブリ・アニメについて④	『千と千尋の神隠し』鑑賞
11	ジブリ・アニメについて⑤	好きなジブリ・アニメを鑑賞しながら、ジブリの世界観や理想とする人間像について、ディズニー・アニメと比較しながら考える。
12	世界のアニメについて	ディズニー・アニメ以外の外国のアニメ映画について考える。
13	日本のアニメについて	ジブリ映画以外の日本のアニメ映画について考える。
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目》

科目名	映像文化特論Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

2年前期の「特論Ⅰ」で学んだ成果をもとに、それを一層発展させ、獲得した学修成果を活用して社会で求められるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。グループ、あるいは個人でテーマを決定し、データの収集、資料の調査、データ分析をもとに考察し、最終的に、特論発表会でグループ、あるいは個人による口頭発表を行う。

《授業の到達目標》

- ①テーマに関して、グループ、あるいは個人で調査・考察を進めることができる。
- ②プレゼンテーション資料を作成し、説得的な口頭発表ができる。

《成績評価の方法》

1. 取り組みへの参加（20%）
2. 取り組みへの態度・意欲（30%）
3. 口頭発表（50%）

《フィードバックの方法》

口頭発表について講評の時間を設ける。

《テキスト》

プリント配付

《参考図書》

小野俊太郎「映画でレポート・卒論ライティング術」（松柏社）
白井利明他「よくわかる卒論の書き方」（ミネルヴァ書房）

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：自分で設定したテーマに対する多くの関連した資料を読み、メモをとる。
事後学修（30分）：授業で指摘されたことをもとにレジュメを作成する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス
2	テーマの決定	グループ、あるいは個人でテーマを決定する。
3	資料収集①	決定したテーマに従って資料を収集する。①
4	資料収集②	決定したテーマに従って資料を収集する。②
5	資料収集③	決定したテーマに従って資料を収集する。③
6	考察①	資料をもとにテーマに関して考察する。①
7	考察②	資料をもとにテーマに関して考察する。②
8	レジュメ作成①	考察したことをレジュメにまとめる。①
9	レジュメ作成②	考察したことをレジュメにまとめる。②
10	レジュメ作成③	考察したことをレジュメにまとめる。③
11	パワーポイントの作成①	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。①
12	パワーポイントの作成②	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。②
13	パワーポイントの作成③	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。③
14	口頭発表練習	発表会での口頭発表の練習を行う。
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目》

科目名	生活文化特論Ⅰ				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

「生活文化」とは、広い意味では、人々の日々の営みそのもののことである。本講義では、大衆文化（映画、漫画、歌、演芸など）を素材にして、戦後日本の生活文化の変遷や過去と現在の生活文化の違いなどについて考えてみたい。

あわせて、生活文化を調査・分析する方法について考え、特論Ⅱへのステップとしたい。

《テキスト》

プリント・映像資料・録音資料を使用する。

《参考図書》

寺出浩司「生活文化論への招待」（弘文堂）
今和次郎「考現学入門」（ちくま文庫）

《授業の到達目標》

- ①生活文化における「大衆文化」の意味について理解している。
- ②生活文化を研究する方法として、「内容分析」「考現学」の手法を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調べる。（20分程度）
事後学修：授業の提出物（レポート以外）に関わるテーマを、インターネット等で確認する。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. レポート（70％）
 2. 平常点（30％ 提出物）
- 《レポートのフィードバック方法》
レポートについての講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の内容分析①
3	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の内容分析②
4	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の考察
5	映画から見る生活文化	家族像の変容①
6	映画から見る生活文化	家族像の変容②
7	流行歌から見る生活文化	流行歌の内容分析①
8	流行歌から見る生活文化	流行歌の内容分析②
9	流行歌から見る生活文化	流行歌の考察
10	学生ファッションの考現学	山陽女子短期大学生の通学ファッションの考現学
11	学生ファッションの考現学	山陽女子短期大学生の通学ファッションの考察
12	生活文化論の視点	①内容分析
13	生活文化論の視点	②考現学
14	生活文化特論Ⅱに向けて	テーマの設定
15	まとめ	生活文化をどうとらえるか

《専門教育科目》

科目名	生活文化特論Ⅱ				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

2年前期の特論Ⅰで学んだ成果をもとに、それを一層進展させることを目的とする。

グループ（あるいは個人）でテーマを決定し、当教員の指導を受けながら、データの収集、資料の調査、フィールドワーク、データの分析などを行ない、最終的に、特論発表会で、グループ（あるいは個人）による口頭発表を行なう。

《テキスト》

テーマによってテキストを使用する場合がある。

《参考図書》

テーマごとに、必要に応じて、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①テーマに関して、グループ（あるいは個人）で調査・考察を進めることができる。
②プレゼンテーション資料を作成し、説得的な口頭発表ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：テーマに関する調査・考察を、文献、インターネット、フィールドワーク等とおして行う。（30分程度）
事後学修：教員にチェックを受けた調査結果を修正する。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. 調査・考察の中間発表・アクティブラーニング
ループリックで評価する。（30％）
2. 特論発表会・プレゼンテーション（70％）
《発表のフィードバック方法》
特論発表会で、プレゼンテーションへの講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	テーマの決定	担当教員の指導を受けながら、テーマを決める。
2	データの収集	データ収集の方法①
3	データの収集	データ収集の方法②
4	データの集計	データ集計の方法
5	追加データの収集	補足データの処理の方法
6	データ分析	データ分析の方法
7	データ分析	データの分析結果の報告
8	考察	考察の視点・方法
9	考察	考察結果の報告・アクティブラーニング
10	まとめ	データ分析・考察のまとめ
11	特論発表会事前指導	特論発表会レジュメの作成
12	特論発表会事前指導	プレゼンテーション資料の作成
13	特論発表会事前指導	発表原稿の作成
14	特論発表会事前指導	プレゼンテーション・リハーサル
15	特論発表会	プレゼンテーション

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理特論Ⅰ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

地域診療、医療体制、診療情報管理に関するテーマを選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式を取り入れる。

テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、診療情報の活用、診療記録の充実、患者への情報提供などについて学修する。診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。

《授業の到達目標》

- ①学生が医療、介護、地域連携、経営管理など、横断的視点で効率よく情報収集ができ、説明できる。
- ②学生が医療制度、社会問題や医療界の問題に関心を持ち、説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験（60％）

平常点（20％）アクティブラーニング（20％）

《学生へのフィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う。（プレゼンテーション60分・解説30分）

《テキスト》

必要に応じて、文献、プリントを配布する

《参考図書》

授業中に適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書を参考に、理解に繋げる。マスメディア、書籍などから情報を収集する

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。PCの基本的な使い方を学修すること。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	研究についての説明
2	研究の基礎（1）	情報の収集・文献の収集
3	研究の基礎（1）	データ処理と研究倫理について
4	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
5	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
6	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
7	四半期まとめ	研究の進め方、テーマ設定 テーマ設定に関するプレゼンテーション・ディスカッション
8	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
9	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
10	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
11	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
12	上半期まとめ	情報の収集・文献の収集のまとめ テーマに関する情報の収集に関するプレゼンテーション・ディスカッション
13	課題抽出	特論Ⅱの課題設定
14	課題設定	特論Ⅱの課題設定
15	まとめ	前期のまとめ 特論Ⅱへの計画、抱負に関するプレゼンテーション・ディスカッション

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理特論Ⅱ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

研究のテーマを決定し、収集した情報を整理する。
特論発表会のために、抄録およびスライドを完成する。
診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。

《テキスト》

適宜文献・資料を提供する

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

- ①前期課題に沿って収集した情報を抄録として論文作成できる。
- ②抄録からスライド作成し、発表できるプレゼン能力を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載した語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書を参考に、テーマ理解に繋げる。グループまたは個人で、抄録・スライドを完成させる。（適宜）

《成績評価の方法》

抄録（30％）
スライド（30％）
発表（40％）
《学生へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

PCの基本的な使い方を学修すること。日々の社会的、医療記事に関心を抱くこと。他者のプレゼンテーション、資料に関心を抱くこと。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論Ⅱ－1	情報の収集・文献の収集
2	特論Ⅱ－2	情報の収集・文献の収集
3	特論Ⅱ－3	抄録・スライド作成
4	特論Ⅱ－4	抄録・スライド作成
5	特論Ⅱ－5	抄録・スライド作成
6	特論Ⅱ－6	抄録・スライド作成
7	特論Ⅱ－7	抄録・スライド作成
8	特論Ⅱ－8	抄録・スライド作成
9	特論Ⅱ－9	抄録・スライド作成
10	特論Ⅱ－10	抄録・スライド作成
11	特論Ⅱ－11	抄録・スライド作成
12	特論Ⅱ－12	抄録・スライド仕上げ
13	特論Ⅱ－13	抄録・スライド仕上げ 最終段階プレゼンテーション・ディスカッション（1）
14	特論Ⅱ－14	抄録・スライド仕上げ 最終段階プレゼンテーション・ディスカッション（2）
15	発表リハーサル	発表リハーサル

《専門教育科目》

科目名	医療関係特論Ⅰ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

研究テーマの決定し、収集した情報を整理する。
主研究者は共同研究者と役割分担を決め、研究を仕上げる。
(抄録・スライド作成)
日本診療情報管理学会の学生セッションで発表する者は、前期に仕上げ9月21日～22に行われる第43回日本診療情報管理学会に参加する。
後期は、特論Ⅱとして抄録およびスライドを仕上げる。

《授業の到達目標》

- ①収集した情報を整理し、抄録用に、文章まとめることができる。
②抄録からスライドを作成し、プレゼン能力を高めることができる。

《成績評価の方法》

1. 抄録 (30%) 2. スライド (30%)
3. 発表態度 (40%)
《試験のフィードバック方法》
抄録、スライド、発表による評価について発表後に解説する。

《テキスト》

適宜文献・資料を配布

《参考図書》

適宜資料を配布

《授業時間外学修》

共同研究者と分担して、抄録・スライドを仕上げる。

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務、診療情報管理業務、がん登録業務、DPC退院調査、介護保険請求業務等幅広い分野に対応。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論Ⅱ-1	抄録・スライド作成① (学会発表者・共同研究者は、別途メニューによる)
2	特論Ⅱ-2	抄録・スライド作成②
3	特論Ⅱ-3	抄録・スライド作成③
4	特論Ⅱ-4	抄録・スライド作成④
5	特論Ⅱ-5	抄録・スライド作成⑤
6	特論Ⅱ-6	抄録・スライド作成⑥
7	特論Ⅱ-7	抄録・スライド作成⑦
8	特論Ⅱ-8	抄録・スライド作成⑧
9	特論Ⅱ-9	抄録・スライド作成⑨
10	特論Ⅱ-10	抄録・スライド作成⑩
11	特論Ⅱ-11	抄録・スライド仕上げ①
12	特論Ⅱ-12	抄録・スライド仕上げ②
13	特論Ⅱ-13	抄録・スライド仕上げ③
14	特論Ⅱ-14	抄録・スライド仕上げ④
15	リハーサル	発表リハーサル

《専門教育科目》

科目名	医療関係特論Ⅱ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

病院の機能および診療情報管理等に関する下記のテーマから、一番関心のある項目を選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式で行う。希望者は、日本診療情報管理学会学術大会に参加・発表する
 テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、医療安全管理、診療情報の活用、診療情報の開示、データ分析 等

《テキスト》

文献等、必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ①社会や医療の問題に関心を持つことができる。
- ②医療制度が理解できる。
- ③患者の権利について考えることができる。
- ④診療情報の活用、データ管理と病院経営に関心を持つ。
- ⑤チーム医療と診療情報管理士の役割を考えることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：医療関連等の新聞・本を読む・切り抜きなどによる情報収集をする。（20分）
 事後学修：日本診療情報管理学会学術大会に参加する学生は、4月中旬の演台登録締切りを考慮し、早期に取り掛かる。8月末をめどにスライド作成する。

《成績評価の方法》

1. 研究レポート（学会発表者は抄録）・発表用スライド（70％）
 2. 受講態度（30％）
- 《試験のフィードバック方法》
 上記1～3までの評価であり、研究レポート（抄録）・発表スライドについて解説する。

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
 医事業務、診療報酬請求業務、診療情報管理業務、がん登録業務、D P C 退院調査、介護保険請求業務等幅広い分野に対応。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	研究についての説明 （学会発表希望者は、別途メニューとなる）
2	研究の基礎（1）	文献（情報）の収集について
3	研究の基礎（2）	データ処理と研究倫理について
4	研究の基礎（3）	研究論文読解ー1
5	研究の基礎（4）	研究論文読解ー2
6	研究の基礎（5）	研究論文読解ー3
7	まとめ①	研究の進め方（グループ編成・テーマ決定）
8	情報収集（1）	情報収集(1)
9	情報収集（2）	情報収集(2)
10	情報収集（3）	情報収集(3)
11	まとめ②	中間発表
12	情報収集（4）	情報収集(4)
13	まとめ③	情報収集のまとめ
14	課題設定	特論Ⅱの課題設定
15	まとめ④	前期のまとめ

《専門教育科目》

科目名	環境と健康				
担当者氏名	重田 耕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

環境は生物とのかかわり（相互作用）により変化してきた。近年、人間活動により私たちを取りまく環境は激変し、健康や生命の維持すら危うい状態になっている。

過去の地球環境の変遷やそれにともなう人類のあゆみを見ながら、環境と人間との付き合い方を学び、私たちの健康な生活維持や未来のためにはどのように行動すべきかを学習する。

《授業の到達目標》

- ①宇宙・太陽系・地球・生物の生い立ちや人類文明の歴史のかかわりについて俯瞰的に理解する。
- ②さまざまな人間活動が環境や健康（生存）におよぼす影響について具体的に理解する。
- ③私たちの今後の生活のあり方について考えることができる。

《成績評価の方法》

- ①到達目標①に対する 中間試験（40％）
- ②到達目標②に対する 期末試験（40％）
- ③レポート。テーマは事前に予告。本試験時に提出（20％）。
《試験のフィードバック方法》
中間試験（30分・解説10分）、期末試験（60分・解説30分）

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

近畿化学協会他編著「環境倫理入門」化学同人 2012
デビッド・クリスチャン他著 長沼毅監修 「ビッグヒストリー」 明石書店 2016
石弘之 「地球環境と人類史」洋泉社 2016

《授業時間外学修》

事前学修；新聞・TVなど、常に環境問題の情報に目配りして欲しい。
事後学修；図書館の環境問題に関する本を適宜紹介する。読んでおいて欲しい

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	宇宙の始まり（宇宙塵と地球人）	ビッグバン（宇宙の始まり）・小宇宙・太陽系・地球の生い立ちと地球外生命体の存在は？
2	大気と海の始まり	原始地球の大気や海は現在のそれとどのように違っていたか。また何がそれを変えたのか？
3	生物の始まり	原始生命の誕生とその後の生物と環境の共進化（生物が環境を変え、環境が生物を進化させた）について。そして今、人間は何をどのように変えようとしているのか？
4	人類の環境史・中間試験	気候変動・人口爆発・感染症・環境汚染・森林破壊・資源とエネルギー枯渇など人類のこれまでの環境問題とそれに伴う紛争問題について。
5	大気圏の構造と汚染との関係	大気は、地球をリンゴの大きさにすると皮の厚さしかない。すぐ汚れる、すぐ壊れる、すぐ変わる。大気汚染、酸性雨、光化学スモッグなど過去の公害史について学ぶ。
6	地球温暖化のメカニズム～背景と推移～	化石燃料使用による地球温暖化のメカニズム、IPPCの役割と報告書による温暖化の評価、
7	地球温暖化の緩和策とそのシナリオ	京都議定書に基づく温暖化緩和策のしくみ、あらたな国際的合意の経過、日本の責務と私たちの役割、。
8	オゾン層は宇宙服 時限爆弾アスベスト	フロンガスによるオゾン層の破壊とアスベストによる健康被害について。
9	水資源と健康問題（1）	日本の水資源の収支、上水道の浄化処理、飲料水の安全性（水質基準）などについて。
10	水資源と健康問題（2）	工場・生活排水の処理方式と生態系への影響。私たちの生活の見直しなどについて。
11	食物連鎖と生物濃縮（沈黙の春）	レイチェル・カーソン著「沈黙の春」（環境問題の古典）にみる化学物質の発がん性について。
12	環境ホルモン（奪われし未来）	シーア・コルボーン著「奪われし未来」にみる化学物質の内分泌攪乱物質としての新しい視点と次世代への影響について。
13	放射性物質と健康	放射線とは何か？ 正しく知って考えてみる
14	環境リスクのとらえ方	ハザード管理からリスク管理への転換
15	環境倫理について考える	環境に配慮した次世代技術で持続可能な発展をめざすにはどうしたらよいか。

《専門教育科目》

科目名	特別研究				
担当者氏名	章 志華、有吉 澄江、梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。

特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取り組みを期待したい。

《授業の到達目標》

1. 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
2. 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができ、図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《成績評価の方法》

提出された研究論文あるいは研究制作（100%）評価は、指導教員が行う。

《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・生活文化・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス 各教員の専門分野の紹介
2	研究テーマの決定	指導教員と相談のうえ決定する。
3	研究テーマの決定	研究テーマは、指導教員を通じて、所定の用紙を、所定の期日までに教務部に提出する。
4	研究論文、研究制作の進行	研究計画をたてる。
5	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
6	研究論文、研究制作の進行	第1回中間報告
7	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
11	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	第2回中間報告
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	研究論文、研究制作の進行	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《専門教育科目》

科目名	特別研究				
担当者氏名	章 志華、有吉 澄江、梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。

特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取り組みを期待したい。

《授業の到達目標》

1. 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
2. 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができ、図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《成績評価の方法》

提出された研究論文あるいは研究制作（100%）評価は、指導教員が行う。

《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・生活文化・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス 各教員の専門分野の紹介
2	研究テーマの決定	指導教員と相談のうえ決定する。
3	研究テーマの決定	研究テーマは、指導教員を通じて、所定の用紙を、所定の期日までに教務部に提出する。
4	研究論文、研究制作の進行	研究計画をたてる。
5	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
6	研究論文、研究制作の進行	第1回中間報告
7	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
11	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	第2回中間報告
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	研究論文、研究制作の進行	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《教養科目 一般教養》

科目名	教養演習				
担当者氏名	水野 敦子、鈴木 理、丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

生活する上で必要な社会常識を理解するために、短大生として必要な一般常識を学ぶ。この授業は就職試験対策にもなっているため、就職試験として利用されるSPIの筆記試験問題を中心に行い、就職試験に合格する実力を養う。

《テキスト》

授業時にプリントを配付する。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

①SPI非言語能力検査のパターンを理解し、読み解く力を有している。②SPI言語能力検査のパターンを理解し、総合的な国語能力を有している。③歴史・文化・スポーツ一般についての基本的な知識を有している。④就職試験に対応する総合的な英語力を有している。

《授業時間外学修》

事前学修：

- ・課題について調べる。（30分）
- ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、TVニュースを見る。（30分）

事後学修：課題をもう一度やる。（20分）

《成績評価の方法》

1. 小テスト 30%
2. 期末試験 70%

《試験へのフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	SPI非言語能力検査問題①	資料解釈
2	SPI非言語能力検査問題②	命題、三段論法
3	一般常識①	文化領域
4	一般常識②	スポーツ領域
5	一般常識③	第1回～第4回のまとめ、小テスト
6	SPI言語能力検査問題① （国語分野）	基礎問題① 2語の関係（同意語・反対語・包含関係・原料関係）
7	SPI言語能力検査問題② （国語分野）	基礎問題② 2語の関係（ことわざ・難解語・行為関係・用途関係）
8	SPI言語能力検査問題③ （国語分野）	基礎問題③ 2語の関係（複数の意味・慣用句）
9	SPI言語能力検査問題④ （国語分野）	基礎問題④ 整序問題・長文読解
10	SPI言語能力検査問題⑤ （国語分野）	総合問題、小テスト
11	SPI言語能力検査問題① （英語分野）	同意語・反意語
12	SPI言語能力検査問題② （英語分野）	用法・語法
13	SPI言語能力検査問題③ （英語分野）	会話文読解・図表読み取り
14	SPI言語能力検査問題④ （英語分野）	文章読解
15	SPI言語能力検査問題⑤ （英語分野）	第11回～第14回のまとめ、小テスト

《教養科目 一般教養》

科目名	くらしと経済				
担当者氏名	永田 智章				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

私たちのくらしに身近な事例を用いて経済活動の基本的な理論や仕組み解説します。経済の意味、家計・企業・政府・銀行・証券会社等の活動、好況と不況、インフレとデフレ、円高と円安、環境と経済といった経済の基本について、受講生の皆さんと一緒に考え、頭の柔軟体操をします。

《テキスト》

使用しません。必要に応じ参考資料を紹介したり、プリントを配布します。

《参考図書》

授業の中で紹介する予定です。

《授業の到達目標》

到達目標は、①経済活動の意味を身近な事例を通じて理解している、②家計の役割と消費活動の基本を理解している、③企業の役割と生産活動の基本を理解している、④貨幣の機能と金融機関の業務を理解している、⑤経済活動の活発さと政府による経済活動を理解している、⑥国際経済の豊かな教養を身につけることです。

《成績評価の方法》

課題レポート（40％）と期末試験（60％）が評価基準です。ただし、授業への参加や受講態度を総合的に評価に加えることがあります。試験等のフィードバック方法は、定期試験終了後に解説を行います。解答時間60分、解説時間30分を予定しています。

《授業時間外学修》

事前学修として、毎日20分程度時間を作り、テレビのニュースや新聞記事に親しみ、経済、政治、社会の最新情報を知る習慣を身につけてください。気になる時事問題を見つけておきましょう。事後学修として、授業後は15分程度は復習としてノートを読み返しておきましょう。

《備考》

ノートを取ることがとても大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	経済のイメージ	経済と聞いてイメージすること 経世済民 経済とくらし
2	経済活動と経済主体	消費・生産・交換 家計・企業・政府・金融機関 経済循環
3	家計と消費①	所得と消費 価格と消費
4	家計と消費②	就職と労働供給 貯蓄と資金供給
5	企業と生産①	商品の生産 利益の追求 ブランド戦略
6	企業と生産②	株式会社の仕組み
7	貨幣の役割	決済手段 交換媒体 価値尺度 価値保存
8	金融の役割①	銀行の業務 預金・貸出・決済
9	金融の役割②	証券会社の業務 金融商品
10	政府の経済活動①	財政の目的 公共財の供給 社会保障 経済政策
11	政府の経済活動②	税金の集め方
12	GDPの話	GDPの意味 生産・所得・支出
13	好況と不況	好況とインフレーション 不況とデフレーション
14	グローバル経済①	為替レートと貿易
15	グローバル経済②	国境を越えた経済活動

科目名	人間と文学				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

映画を題材にして、女性の生き方という主題を授業テーマの主軸として進めていく。生活する上で必要な社会常識を理解するために、さまざまな年代の女性たちが、それぞれの社会環境のなかで、何を求めて生き、そして、直面する問題を乗り越えていったかを考える。女性の描かれ方という点から、ジェンダー（社会的性差）の問題も取り上げる。

《授業の到達目標》

- ①映画についての批評能力を身につける。
- ②女性の生き方についての洞察力を深める。
- ③異文化への理解を深める。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

井上輝子他『ビデオで女性学』（有斐閣）
若桑みどり『お姫様とジェンダー——アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）
上野千鶴子『映画から見える世界』（第三書館）
スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』村上春樹訳（中央公論新社）

《授業時間外学修》

1. できるだけ多くの映画や文学作品を鑑賞する。
2. 新聞を読んで社会や文化の動きに関心をもつ。

《成績評価の方法》

1. 講義中の課題 50%
2. 期末試験 50%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

作品を鑑賞したあとで、各回のテーマに沿った課題を出すので、次の授業までに、自分の意見をポータルサイトに投稿する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と成績評価の方法 女性史の概観
2	シンデレラ・ストーリーとジェンダー①	シンデレラ・ストーリーの映画を題材に、その構造とジェンダーの問題を考える。
3	シンデレラ・ストーリーとジェンダー②	シンデレラ・ストーリーの映画を題材に、その構造とジェンダーの問題を考える。
4	女性と仕事①	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
5	女性と仕事②	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
6	女性と仕事③	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
7	愛と自立①	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
8	愛と自立②	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
9	愛と自立③	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
10	親と子①	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
11	親と子②	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
12	親と子③	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
13	専業主婦だってすごい①	自分の思い通りにならない家族のなかで、さまざまな困難に直面しながら、忍重し、家族を支える強い母親の人間力を考える。
14	専業主婦だってすごい②	自分の思い通りにならない家族のなかで、さまざまな困難に直面しながら、忍重し、家族を支える強い母親の人間力を考える。
15	まとめ	映画を通して、女性の生き方について考える。

《教養科目 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅠ				
担当者氏名	梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、章 志華、水野 敦子、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

就職活動のためのより実践的な勉強を行う。会社訪問のための身だしなみセミナーやマナー、企業の求める人材、職場での心構えやマナーなどを学内外の講師から学ぶ。また、社会で活躍する卒業生からは、仕事内容、仕事上の苦労話などを聞く。社会への視野を広げ社会の中で生きていくためには何が必要かを学んでほしい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
 事後学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに今期の目標やキャリアチャートを入力する。
2	(専門教育講座)2年前半の学習の進め方(学科②)	就職や進学を控え、どのように学習を進めていったらいいかを考える。(学科長 章先生)
3	メンタルヘルス	メンタルヘルスとは何か考える。心の健康を維持するためにどんなことができるか学ぶ。(カウンセリングルーム 堀内先生)
4	(就職対策講座1)小論文の書き方(学科③)	小論文の書くにあたっての、情報収集の仕方、メモの取り方、論文のまとめ方などを学ぶ。(学科教員)
5	(就職対策講座②)採用の現状と視点	労働法や労働問題の基礎知識を専門の労働局の方から現状の事例などを踏まえて具体的に学ぶ
6	(就職対策講座③)ミスマッチを防ぐ求人選択	就職サイトや大学に来る求人票や求人情報を使い実践的にポイントを絞り今後自分に合った求人選択の方法を学ぶ
7	(就職対策講座④)エントリーシート基本・応用	主にWebを活用した就職活動に必要なエントリーシートや試験対策について実践的に学ぶ
8	(就職対策講座⑤)職場で求められる人材	実際に幅広い職種に関して採用責任者として関わっている方からそれぞれの新卒採用の視点について具体的な事例を踏まえて学ぶ
9	(就職対策講座⑥)面接対策(集団・個別)	就職活動で重要視される集団面接と個別面接について現状と対策を実践的に学ぶ
10	(就職対策講座⑦)グループディスカッション	就職活動で重要視されるグループワークとグループディスカッションについて現状と対策を実践的に学ぶ
11	(就職対策講座⑧)SPI 1	就職活動の筆記試験やWebテストで必要なポイントを実際に模擬テストを通して実践的に学ぶ
12	(就職対策講座⑨)SPI 2	就職活動の筆記試験やWebテストで必要なポイントを実際に模擬テストを通して実践的に学ぶ
13	(就職対策講座10)(学科別④)	就職対策講座10(学科教員)
14	(就職対策講座11)(学科別⑤)	就職対策講座11(学科教員)
15	コミュニケーションアワー(学科⑥)	期末試験対策と夏季休業中の有意義な過ごし方を考える。学生生活に関わる諸連絡、ポータルサイト入力(今期の反省、キャリアチャート)

《教養科目 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ				
担当者氏名	梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子、章 志華、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

この授業では、よき社会人として生きていくための心構えや一般常識を学ぶ。職場や社会でよい人間関係を築き、充実した人生を歩んでいくにはどうしたらいいかを学び、人間的に成長していただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

レポートを提出する。（1時間）
 テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに今期の目標、キャリアチャートなどを入力する。
2	(専門教育講座：学科②) 2年生後半の学習	卒業を目前に控え、どのように学習していったらいいか学ぶ。（人間生活学科副学科長 高田先生）
3	ストレスマネジメント	ストレスとは何か学ぶ。ストレスに対して自分で出来るコントロール方法について考える。（カウンセリングルーム 堀内先生）
4	(就職対策講座①) 新社会人のビジネスマナー	内定後イメージ入社までに身に付けておくべきビジネスマナーの基礎と応用についてポイントを就職指導部担当者から実践的に学ぶ
5	(就職対策講座②) これから必要な法律の知識	社会人として必要な法律の知識について、仕事や生活で発生しやすい実例を踏まえてポイントを弁護士から学ぶ
6	(就職対策講座③) これから必要な税金の知識	社会人として必要な税金の知識について、実例を踏まえて多角的にポイントをふまえて税務署職員から学ぶ
7	(就職対策講座④) 新社会人のマネープラン	社会人として必要なライフマネーの視点から、将来に向けた長期的なマネープランについて実践的に金融業界専門社員から学ぶ
8	(就職対策講座⑤) 新社会人のキャリアプラン	就職後から長期的に人生を生きるためのキャリアプランの重要さとプランの造り方について自らキャリアプランを実践しているキャリアコンサルタントから学ぶ
9	(就職対策講座⑥) 新社会人のためのPDCA	学生として、又これからの社会人として知っておきたいPDCA（問題解決）の基礎知識や実践的な解決方法を演習形式で就職指導部担当者から学ぶ
10	(就職対策講座⑦) おもてなしの心を学ぶ	社会人として今後多様な人と関わっていくに当たり様々な場面で必要なおもてなしの精神やマナーをおもてなしのプロであるブライダルプランナーの方から実践的に学ぶ
11	(就職対策講座⑧) 女性の品格を学ぶ	女性として必要な品格をマナー・コミュニケーションなどの実践や今後どのように積み重ねて行けばいいのかについて元客室乗務員の方から学ぶ
12	(就職対策講座⑨) ダイバーシティ多様性の理解	社会や職場における多様性を理解し、多様な人や環境の中、どのように関わることで相互に円滑な人間関係が構築できるかなどについて学ぶ
13	(専門教育講座：学科③)	社会人に向けて①（学科教員）
14	(専門教育講座：学科④)	社会人に向けて②（学科教員）
15	コミュニケーションアワー(学科⑤)	学生生活に関する諸連絡、ポータルサイト入力（今期の反省、キャリアチャート）短大生活をふり返ると共に、社会人としての心構えを学ぶ

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)
 ボランティア活動時間 (70%)
 《成績のフィードバック方法》
 活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介
 「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)
 活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。
 事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	デスエデュケーション論(生命倫理)				
担当者氏名	堀田 悦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では、生命に携わる医療職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を習得するために、事例やワークを通して学びを深める。

《テキスト》

児玉 聡 「マンガで学ぶ生命倫理」 (株) 化学同人
配布資料：授業内容のポイント

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

- ①自己の死生観を育むことができる。
- ②倫理原則を理解し、医療職者としての知識・技術・態度を理解している。
- ③生命にかかわる倫理的課題を理解している。
- ④終末期医療の現状を理解している。
- ⑤終末期にある患者・家族の特徴を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修(20分)：次回の授業範囲を読み、その項目に取り上げられている生命倫理について自分の考えをまとめておくこと
事後学修(20分)：講義内容、医療、生命に関わる社会の出来事に関する新聞記事やニュースを閲覧すること

《成績評価の方法》

- ①期末試験50%
 - ②平常点20% (レポートにより講義の理解度を確認)
 - ③課題レポート30%
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分

《備考》

授業時間外学習からテーマを選び、課題レポートを作成する。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス/生と死を考える	講義内容のガイダンス/米国・日本における生命倫理の歴史
2	倫理原則とは	患者の権利、医療者の責務/職業倫理/倫理原則
3	生殖医療から生命を考える	生殖医療の現状とその課題
4	ホスピス/緩和ケア	告知と意思決定/インフォームド・コンセント
5	死にゆく人の心理	事例から考える
6	臨床における倫理①	中絶と胎児の権利/母性保護法/出生前診断
7	事例から生命を考える①	能力・肉体改造/エンハンスメントの倫理的問題
8	臨死期・看取り	安楽死/尊厳死/リビングウィル/アドバンス・ケア・プランニング/緩和医療
9	事例から生命を考える②	事例から考える
10	生命をめぐる倫理的課題①	生体臓器移植の現状と課題
11	生命をめぐる倫理的課題②	人へのクローン技術応用に関する倫理的問題
12	臨床における倫理②	E S 細胞/i P S 細胞/再生医療/高齢化社会
13	臓器移植から生命を考える	脳死による臓器移植の現状と課題
14	学習内容から生命を考える①	学習内容から生命を考える/新たな気づきや学び/専門職としてどのように活用するか
15	学習内容から生命を考える②/まとめ	生命倫理に関するまとめ

《教養科目 一般教養》

科目名	インテリアプランニング				
担当者氏名	白井 周子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

超高齢社会、環境問題など今やさまざまな問題を抱えた社会にあって、充実した生活を送る基盤となる住まいは、快適なものでありたい。

インテリアの基礎知識を通し、あらゆる意味での快適住空間を考える。また、これらに基づきプランを考える。

《テキスト》

適宜プリントを配付する。

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

- ① インテリアエレメントの知識を理解している。
- ② 快適住空間を考えることができる。
- ③ インテリアプランができる。

《成績評価の方法》

- ① 期末試験 80%
 - ② 提出物 15%
 - ③ 平常点（授業態度）5%
- ＜フィードバックの方法＞

期末試験後に解説を行う（試験60分・解説30分）

《授業時間外学修》

事前学修

- ・ 特になし。

事後学修

- ・ 講義内容をふまえて、自宅など、身近な場所を確認し、改めてインテリアプランニングについて考えてみる。（所要時間はそれぞれの時間による）

《備考》

- ・ 日ごろから、美術館などに行ってみよう。感性を磨く。
 - ・ 授業に必要と言った物は、各自忘れず持参の事。
- 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	まずはインテリアについて	生活と住空間の関係、こんにちまでの変遷。インテリアとは。
2	あかり	照明の目的。光源、器具の種類、効果。住空間における照明計画。
3	カラー色々	色によるあらゆる影響、性質、効果。住空間での色彩計画。
4	快適キッチン	キッチン形体、分類など。効率良いキッチンとは。
5	和のかたち	和室の効用、様式。改めて、和室を考える。
6	インテリアイメージ&スタイル	インテリアをプランする上でのプロセス。インテリアスタイル別イメージを理解する。
7	光と風。ウィンドウまわり	光、風の必要性。窓関連について。
8	暮らしとサイズ	生活に係る身近な人間工学的考察。
9	インテリアアクセサリ	インテリアを演出する種類と構成。
10	バリアフリー&ユニバーサルデザイン	バリアフリーとは。住空間におけるバリアフリー。ユニバーサルデザインとは。
11	インテリア図面の見方	インテリア図面の種類、見方を知る。
12	インテリアプランニングⅠ	これまでの内容を応用し、住空間の一部の間取りをプランする。
13	インテリアプランニングⅡ	インテリアプランを仕上げる。
14	トータル作品作成	総まとめとして、前授業のプランしたものを、スタイルに沿ったインテリアエレメントをカタログ等で選択し、インテリアボード作品にする。
15	トータル作品仕上げ	ボードを仕上げる。